

病院年報

2022(令和4)年度



地方独立行政法人

桑名市総合医療センター

KUWANA CITY MEDICAL CENTER

桑名市総合医療センター

地方独立行政法人
桑名市総合医療センター
年 報



2022 (令和4) 年度

目 次

巻 頭 言	1
病院長挨拶	2
基本理念・基本方針	3

1. 病院概況 6 ~ 14

1.病院概要	6	5.病院組織図	10
2.交通アクセス	6	6.施設基準届出状況	11
3.病院沿革	7	7.人員構成図	14
4.指定・認定	8		

2. 統計資料 18 ~ 34

1. 診療実績

■診療科別外来患者数	18	■連携検査	21
■診療科別入院患者数	19	■救急搬送患者受入れ率	22
■平均在院日数推移	20	■剖検数	22
■病床利用率推移	20	■剖検率	22
■死亡退院患者数推移	20	■入院患者の転倒・転落発生率	23
■紹介率	21	■輸血製剤廃棄率	23
■逆紹介率	21	■栄養指導 糖尿病透析予防指導 栄養相談件数	24

2. 統 計

■診療科別退院患者統計【2022年度】	25
■診療科別・年齢別退院患者数【2022年度】	26
■MDC2分類別患者統計	27

がん登録統計

年次推移と部位別登録数	28	年齢の割合	32
症例区分	30	来院経路	34
診断時住所別	31	発見経緯	34

3. 部署紹介・統計

38 ~ 110

循環器内科	38	歯科口腔外科	76
消化器内科	41	救急科	78
糖尿病内分泌内科	44	病理診断科	80
膠原病リウマチ内科	45	麻酔科	82
血液内科	46	看護部	84
腎臓内科	48	健診センター	87
呼吸器内科	50	薬剤部	88
小児科	51	放射線室	91
産婦人科	53	検査室	93
消化器外科・一般外科・乳腺外科	56	臨床工学室	95
心臓血管外科・呼吸器外科	60	リハビリテーション室	97
整形外科・リウマチ科	62	栄養管理室	98
脳卒中センター・脳神経外科	65	医療安全管理室	101
脳神経内科	68	院内感染対策室	103
眼科	70	地域医療センター	105
泌尿器科	72	がん相談支援センター	107
放射線科	74	治験事務局	109

4. 業 績

114 ~ 128

学会発表	114	著 書	122
論文発表	119	研究会・講演会	123

後 記	129
-----	-----

巻頭言



桑名市総合医療センター
理事長 竹田 寛

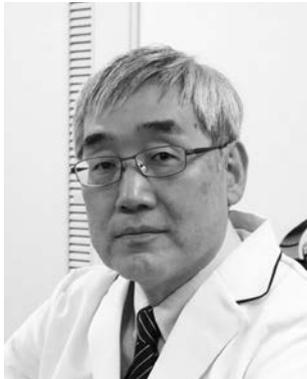
地方独立行政法人桑名市総合医療センター年報2022年度が完成しました。本書には、2022(令和4)年度における本院の診療や臨床研究、患者サービスの改善、環境整備、社会貢献などの実績や院内外での様々な活動が記載されています。

2022年といえば日本で新型コロナ感染が本格的に流行し始めてから2年目、冬から春先にかけての第6波、夏から秋口にかけての第7波の感染拡大が全国を席捲した年です。主流となったウイルスは、それまでのデルタなどの変異株に比べ毒性の弱いオミクロン株でしたので、コロナ入院病棟における重症者は減少しましたが、感染者数の爆発的な増加のため、それに比例して死亡者数も増加しました。本院におきましても、急速に増えるコロナ患者と、それ以外の救急患者への対応に追われながら、一般診療、特に高度医療の維持にも努めねばならず、たいへんな日が続きました。

そんな慌ただしい診療の中、3月には三重大学、桑名市と本院との間で「新しい未来の共創に関する協定」が締結されました。これは地域医療の発展のために欠かせない様々な医療Dxの開発を共同で行おうとするもので、早速4月から遠隔医療や遠隔画像診断、さらに患者サービスの向上を目指したシステムなどの開発が開始されました。また4月には三重県の「がん診療連携拠点病院」の指定を受け、5月には入院センターを開設して、患者さんの入院が滞りなく行えるようにすると同時に、看護業務を中心とした種々の業務改善に取り組みました。そして9月には待望の「内視鏡手術支援ロボット(ダヴィンチ)」が導入され、泌尿器科、婦人科、呼吸器外科、消化器外科などの手術に大きな変革がもたらされました。

本院にとって2022年度は、新型コロナ感染の対応に追い回されながらも、ポストコロナを見据えて少しずつ新しい取り組みを始めた年でもあります。その実現のために、職員の誰もが力を合わせ必死になって努力しました。その成果が本書には詳細に記載されていますが、今、紐解いてみますと、職員全員の頑張りの凄さが伝わって参ります。改めて各人のご尽力に深謝申し上げます。

病院長挨拶



桑名市総合医療センター
病院長 登内 仁

皆様方には日頃から大変お世話になり厚く御礼申し上げます。

当院は2020年春からコロナ禍にみまわれ、コロナ肺炎患者など治療しながら一般診療も継続してきました。2022年度はコロナ院内感染にて地域の皆様や診療所、医療施設にご迷惑をおかけすることもありましたが2023年5月に5類移行の時を迎えました。コロナ入院診療は内科が交代制で組織的に対応し、特別外来でのルミパルス検査は外科系医師、無症状者は看護部が担当しました。産婦人科はコロナ妊婦の帝王切開を受け入れ、腎臓内科は透析患者を受け入れ、小児科も時間外コロナ救急を診療しました。更に、桑名市からコロナワクチンを依頼され土日に実施しました。看護師、コメディカル、管理部もシフトの組み替えを要しながら精一杯頑張ってくださいました。

この間、2022年4月にがん診療連携拠点病院に指定されました。三重大・桑名市との「新しい未来の共創に関する協定」を基盤にダヴィンチを導入し泌尿器科、産婦人科、外科、呼吸器外科でロボット支援下手術を開始しました(麻酔科・看護師・臨床工学士のチームによる安全管理が基盤になっています)。その他整形外科の人工関節手術も増加し、時に手術枠が競合するまで手術数が増加しています。

さらに2023年度から研修医が1年次14人と増員され研修医教育、専攻医キャリアアップのため2023年5月から研修教育センターが開設されました(将来構想では看護部、コメディカルへの対応も目指しています)。

2023年度には病院機能評価が控えており、各部署大変な一年になることは明らかですが、当院の基本理念である地域の皆様から信頼され必要とされる病院を目指し、スタッフ一同頑張っております。引き続き御支援何卒よろしくお願い申し上げます。

基本理念・基本方針

基本理念

最良の医療を提供し、地域の皆さまから信頼され必要とされる病院を目指します。

基本方針

- ◆患者さんを中心に考え、思いやりの医療を提供します。
- ◆医療の水準と質の向上に努め、安全性を確保します。
- ◆地域の皆さまに安心していただける中核病院としての責任を永続的に果たします。
- ◆患者さんおよび職員にとって魅力ある病院をつくりまします。

患者さんの権利

患者さんの権利

- ◆だれもが、個人として人格が尊重され、医療提供者との相互協力関係のもと、安全で良質な医療を公平に受けることができます。
- ◆だれもが、病気、検査、治療、費用、見通しなど納得できるまで十分な説明、情報の提供を受けることができます。そしてご自身の治療方法を選択することができます。
- ◆だれもが、ご自身の病気に関して主治医以外の意見を聞くことができます。
- ◆だれもが、ご自身の診療記録の開示を求めることができます。
- ◆診療の過程で得られた個人情報や、プライバシーが厳正に保護されます。

子ども患者さんの権利

桑名市総合医療センターでは、子どもの権利条約に基づいて、子どもたちの権利(生きる権利、育つ権利、守られる権利、参加する権利)を尊重します。

- ◆どんな病気にかかったときでも、ほかの人と同じようによい医療を受けることができます。
- ◆病気のことや検査のこと、そして病気を治していく方法をわかりやすいことばや絵などをつかって、病院の人からおしえてもらうことができます。
- ◆病気のことや、病気を治す方法について、十分な説明を聞いたうえで、自分の考えや気持ちを持って病院の人や家族に伝えることができます。
- ◆あなたの秘密は守られます。病院以外の人に広がることはありません。

1 . 病院概況

1. 病院概要

名称	桑名市総合医療センター		
所在地	〒511-0061 三重県桑名市寿町三丁目11番地		
開設者	地方独立行政法人桑名市総合医療センター		
理事長	竹田 寛(たけだ かん)		
病院長	登内 仁(とのうち ひとし)		
病床数	400床		
標榜科	内科、循環器内科、消化器内科、糖尿病内分泌内科、膠原病リウマチ内科、血液内科、脳神経内科、肝臓内科、腎臓内科、呼吸器内科、総合診療科、小児科、産婦人科、精神科、外科、消化器外科、乳腺外科、心臓血管外科、呼吸器外科、整形外科、リウマチ科、形成外科、脳神経外科、眼科、耳鼻咽喉科、泌尿器科、皮膚科、放射線科、歯科口腔外科、救急科、リハビリテーション科、病理診断科、麻酔科		
建物の構造等	外来棟 延床面積	7,531平方メートル	コンクリート造(制振構造) 5階
	入院棟 延床面積	24,828平方メートル	鉄骨鉄筋コンクリート一部鉄骨造(制振構造) 10階
	西棟 延床面積	7,723平方メートル	7階

診療時間

	受付時間	月	火	水	木	金
初診受付	8:30~11:30	○	○	○	○	○
再診受付	8:00~11:30	○	○	○	○	○

受付時間は診療科によって異なります。事前に外来担当医表でご確認ください。

休診日 土曜、日曜、祝日、年末年始

2. 交通アクセス

●電車でお越しの場合

桑名駅東口から徒歩5分

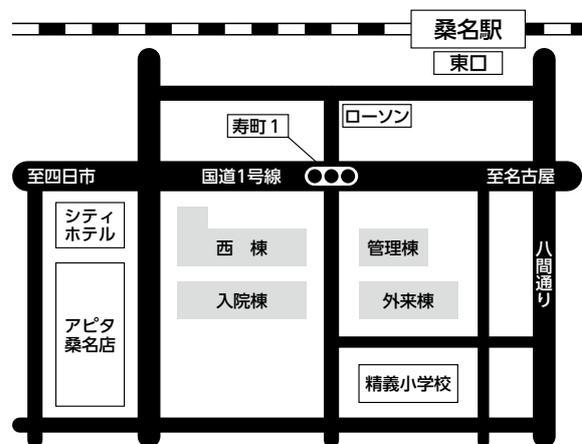
●お車でお越しの場合

- ・名古屋方面からお越しの方
国道一号線の「寿町1」の交差点を左折
- ・四日市方面からお越しの方
国道一号線の「寿町1」の交差点を右折

●バスでお越しの場合

桑名市コミュニティバス「K-バス」にて「桑名市総合医療センター」バス停前です。

東部ルート、北部ルート、南部ルートが「桑名市総合医療センター」バス停を通ります。



3. 病院沿革

1945年	9月	山本病院(後の山本総合病院)開院
1951年	5月	平田外科医院(後の平田循環器病院)開院
1966年	4月	桑名市民病院開院
2006年	8月	桑名市民病院あり方検討委員会より桑名市に答申書が提出
2009年	10月	桑名市民病院(234床)と特別医療法人和心会平田循環器病院(79床)が統合 地方独立行政法人桑名市民病院(313床)を設立 桑名市民病院は桑名市民病院本院、平田循環器病院は桑名市民病院分院に名称変更
2012年	4月	地方独立行政法人桑名市民病院(313床)と医療法人山本総合病院(349床)が統合 地方独立行政法人桑名市総合医療センター(662床)に名称変更 桑名市民病院本院は桑名西医療センター、桑名市民病院分院は桑名南医療センター、 山本総合病院は桑名東医療センターに名称変更
	7月	桑名市により桑名市総合医療センター基本構想・基本計画を策定
2013年	3月	新病院の基本設計業務が完了
2014年	3月	新病院の実施設計業務が完了
2015年	8月	新病院の新棟新築工事の契約を締結
2016年	3月	桑名市により桑名市総合医療センター新改革プランを策定
2018年	1月	新病院の新棟新築工事竣工
	3月	新病院の既存棟改修工事の契約を締結
	5月	3病院を統合し新病院開院、病床数を400床に変更
	6月	放射線治療開始
	11月	新病院の既存棟改修工事竣工
2019年	4月	地域包括ケア病棟を開設
2019年	5月	B棟C棟解体等関連工事の契約を締結
2020年	3月	地域災害拠点病院に指定
	6月	B棟C棟解体等関連工事竣工【一連の新病院整備事業が完了】
	8月	P4駐車場(64台)供用開始
	9月	地域医療支援病院の名称承認
2021年	4月	がん相談支援センター開設
2022年	3月	三重大学・桑名市と「新しい未来の共創に関する協定」締結
	4月	がん診療連携拠点病院に指定
	5月	入院支援センター開設
	9月	内視鏡手術支援ロボット(ダヴィンチ)稼働

4. 指定・認定

■指定医療機関

救急指定病院	健康保険医療機関
国保療養取扱機関	母体保護法指定病院
労働災害保険指定病院	生活保護法指定病院
結核予防法指定病院	身体障害者福祉法指定病院
指定自立支援医療機関(精神通院医療)	指定自立支援医療機関(更正医療)
原爆被爆者一般疾病医療機関	難病医療費助成指定医療機関
指定小児慢性特定疾患医療機関	難病医療協力病院
厚生労働省指定臨床研修病院	地域災害拠点病院
地域医療支援病院	三重県がん診療連携拠点病院
人間ドック	三重DMAT指定病院
三重県肝がん・重度肝硬変治療研究促進事業指定医療機関	公益財団法人痛風・尿酸財団指定痛風協力医療機関
女性が働きやすい医療機関	三重県肝疾患専門医療機関

■研修施設等指定状況

日本内科学会認定医制度教育関連病院	日本外科学会外科専門医制度修練施設
日本循環器学会認定循環器専門医研修施設	日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設
日本心血管インターベンション治療学会研修施設	日本脈管学会認定研修指定施設
日本消化器外科学会専門医修練施設	日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設
日本消化器病学会専門医制度認定施設	日本大腸肛門病学会認定施設
日本肝臓学会認定施設	日本リウマチ学会教育施設
日本腎臓学会認定教育施設	日本呼吸器学会関連施設
日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医制度認定施設	呼吸器外科専門医制度専門研修連携施設
日本産科婦人科学会専門研修連携施設	日本乳癌学会専門医制度関連施設
日本産科婦人科内視鏡学会認定研修施設	日本婦人科腫瘍学会専門医制度指定修練施設
日本周産期・新生児医学会周産期専門医(新生児)暫定認定施設	日本脳卒中学会研修教育施設
日本神経学会専門医制度教育施設	日本認知症学会専門医制度教育施設
日本脳神経血管内治療学会研修施設	日本脳神経外科学会専門研修プログラム連携施設
日本眼科学会専門医制度研修施設	日本整形外科学会専門医研修施設
日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関	日本臨床細胞学会施設認定
日本病理学会研修認定施設B	日本麻酔科学会麻酔科認定病院
日本医療薬学会がん専門薬剤師研修施設	日本医療薬学会認定薬剤師制度研修施設
日本臨床工学技士会認定臨床実習指導施設	日本リハビリテーション医学会研修施設
日本透析医学会専門医制度認定施設	日本臨床栄養代謝学会栄養サポートチーム(NST)専門療法士認定教育施設
日本病態栄養学会認定病態栄養専門医研修認定施設	日本がん治療認定医機構認定研修施設

日本緩和医療学会認定研修施設

日本脳ドック学会認定施設

日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会エキスパンダー実施施設

日本栄養療法推進協議会(JCNT)NST稼働施設

マンモグラフィ検診施設画像認定施設

三学会構成心臓血管外科専門医認定機構基幹施設

三重大学医学部付属病院関連施設

浅大腿動脈ステントグラフト実施施設

日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会インプラント実施施設

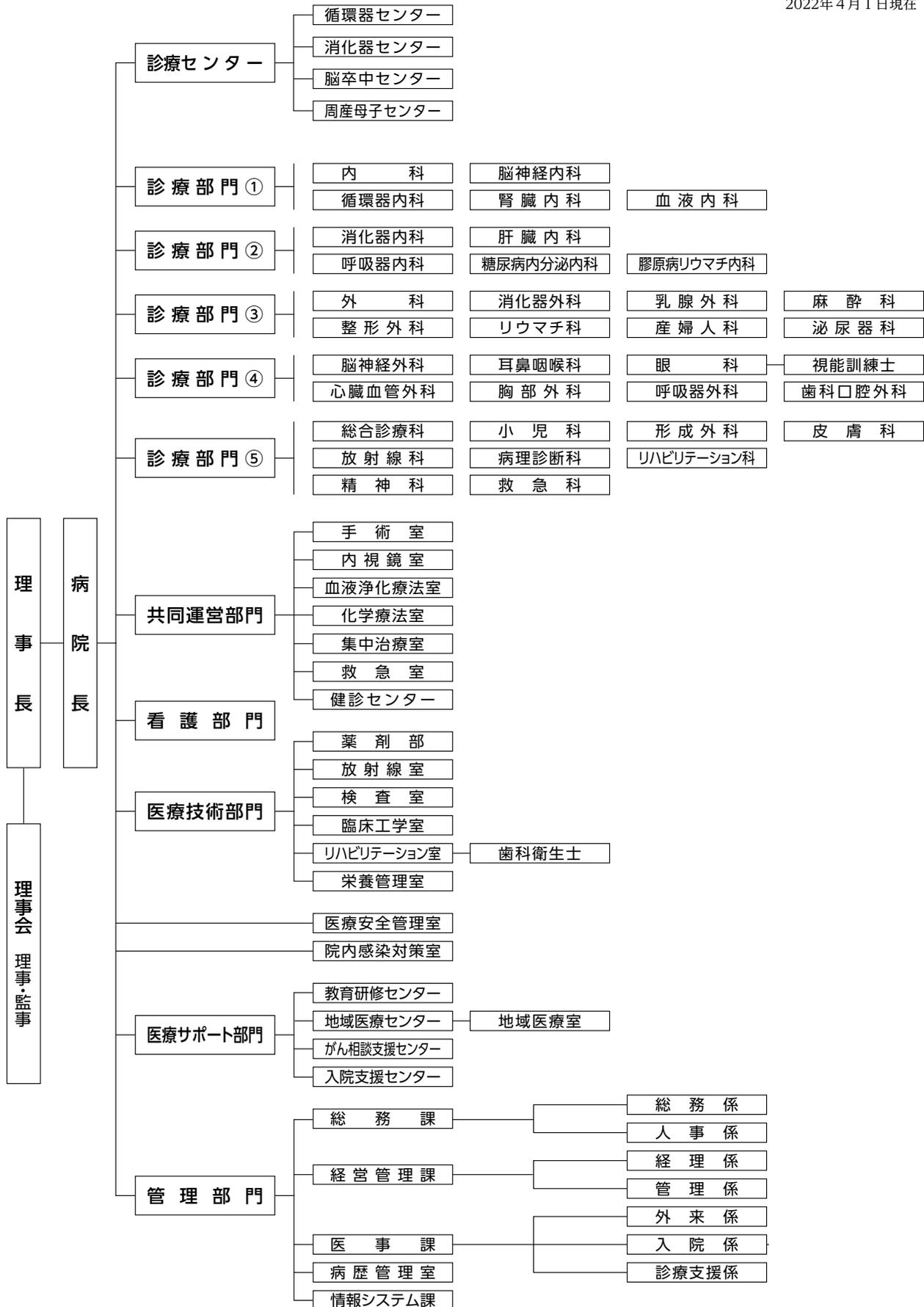
日本病態栄養学会認定栄養管理・NST実施施設

三重県輸血機能評価(I&R)認定施設

日本医学放射線学会画像診断管理認証施設

5. 病院組織図

2022年4月1日現在



6. 施設基準届出状況

【基本診療料】

情報通信機器を用いた診療に係る基準		地域歯科診療支援病院歯科初診料
地域歯科診療支援病院入院加算		歯科診療特別対応連携加算
歯科外来診療環境体制加算2		急性期一般入院料1
救急医療管理加算		超急性期脳卒中加算
診療録管理体制加算2		医師事務作業補助体制加算1(15対1)
25対1急性期看護補助体制加算(看護補助者5割以上)		夜間100対1急性期看護補助体制加算
注4に規定する看護補助体制充実加算		夜間看護体制加算
看護職員夜間配置加算(12対1)		療養環境加算
重症者等療養環境特別加算		栄養サポートチーム加算
医療安全対策加算1		医療安全対策地域連携加算1
感染対策向上加算1		注2に規定する指導強化加算
患者サポート体制充実加算		報告書管理体制加算
ハイリスク妊娠管理加算		ハイリスク分娩管理加算
呼吸ケアチーム加算		後発医薬品使用体制加算1
病棟薬剤業務実施加算1		データ提出加算2(イ 200床以上の病院の場合)
入退院支援加算1		入退院支援加算の注8に掲げる総合機能評価加算
地域連携診療計画加算		入院時支援加算
認知症ケア加算2		地域医療体制確保加算
ハイケアユニット入院医療管理料1	HCU	脳卒中ケアユニット入院医療管理料 SCU
新生児特定集中治療室管理料2	NICU	小児入院医療管理料5
地域包括ケア病棟入院料2		看護職員配置加算(地域包括ケア病棟入院料の注3)
看護補助者配置加算(地域包括ケア病棟入院料の注4)		看護職員夜間配置加算(地域包括ケア病棟入院料の注7)
注4に規定する看護補助体制充実加算		看護職員処遇改善評価料71
入院時食事療養(Ⅰ)及び入院時生活療養(Ⅰ)		

【特掲診療料】

歯科疾患管理料の注11に掲げる総合医療管理加算及び歯科治療時医療管理料		外来栄養食事指導料(注2に掲げる外来化学療法の実施患者の栄養食事指導を行う場合)
心臓ペースメーカー指導管理料の注5に掲げる遠隔モニタリング加算		糖尿病合併症管理料
がん性疼痛緩和指導管理料		がん患者指導管理料イ
がん患者指導管理料ロ		がん患者指導管理料ハ
がん患者指導管理料ニ		糖尿病透析予防指導管理料
乳腺炎重症化予防・ケア指導料		婦人科特定疾患治療管理料
腎代替療法指導管理料		二次性骨折予防継続管理料1

二次性骨折予防継続管理料2	二次性骨折予防継続管理料3
小児科外来診療料	下肢創傷処置管理料
院内トリアージ実施料	夜間休日救急搬送医学管理料の注3に掲げる救急搬送看護体制加算1
外来放射線照射診療料	外来腫瘍化学療法診療料1
連携充実加算(外来腫瘍化学療法診療料1)	ニコチン依存症管理料
開放型病院共同指導料	がん治療連携計画策定料
がん治療連携指導料	ハイリスク妊産婦連携指導料1
ハイリスク妊産婦連携指導料2	薬剤管理指導料
地域連携診療計画加算	医療機器安全管理料1
在宅血液透析指導管理料	在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合)及び皮下連続式グルコース測定	持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合)
遺伝学的検査	BRCA1/2遺伝子検査(血液を検体とするもの)
BRCA1/2遺伝子検査(腫瘍細胞を検体とするもの)	先天性代謝異常症検査
HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	検体検査管理加算(1)
検体検査管理加算(4)	心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト	ヘッドアップティルト試験
長期継続頭蓋内脳波検査	神経学的検査
全視野精密網膜電図	ロービジョン検査判断料
コンタクトレンズ検査料1	CT透視下気管支鏡検査加算
精密触覚機能検査	画像診断管理加算1
画像診断管理加算2	CT撮影及びMRI撮影
冠動脈CT撮影加算	心臓MRI撮影加算
乳房MRI撮影加算	抗悪性腫瘍剤処方管理加算
外来化学療法加算1	無菌製剤処理料
心臓大血管リハビリテーション料(1)	脳血管疾患等リハビリテーション料(1)
運動器リハビリテーション料(1)	呼吸器リハビリテーション料(1)
摂食機能療法の注3に規定する摂食嚥下機能回復体制加算2	がん患者リハビリテーション料
歯科口腔リハビリテーション料2	人工腎臓 慢性維持透析を行った場合1
導入期加算2及び腎代替療法実績加算	透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算
下肢末梢動脈疾患指導管理加算	CAD/CAM冠及びCAD/CAMインレー
緊急整復固定加算及び緊急挿入加算	骨移植術(軟骨移植術を含む)(同種骨移植(非生体)・同種骨移植(特殊なもの))
脳刺激装置埋込術(頭蓋内電極植込術を含む)及び脳刺激装置交換術	脊髄刺激装置埋込術及び脊髄刺激装置交換術
緑内障手術(流出路再建術(眼内法)及び水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)	緑内障手術(濾過胞再建術(needle法))

乳腺腫瘍画像ガイド下吸引術（一連につき）（MRIによるもの）	乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検（併用）（乳がんセンチネルリンパ節加算1）
乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検（単独）（乳がんセンチネルリンパ節加算2）	乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検（単独）（乳がんセンチネルリンパ節生検（単独））
食道縫合術（穿孔、損傷）（内視鏡によるもの）、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、小腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、結腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、腎（腎盂）腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、尿管腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、膀胱腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、膈腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）	経皮的冠動脈形成術（特殊カテーテルによるもの）
経皮的中隔心筋焼灼術	ペースメーカ移植術及びペースメーカ交換術
ペースメーカ移植術及びペースメーカ交換術（リードレスペースメーカー）	大動脈バルーンパンピング法（IABP法）
腹腔鏡下リンパ節群郭清術（側方）	腹腔鏡下胆嚢悪性腫瘍手術（胆嚢床切除を伴うもの）
腹腔鏡下肝切除術	腹腔鏡下膵腫瘍摘出術
腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術	早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
内視鏡的小腸ポリープ切除術	腹腔鏡下直腸切除・切断術（内視鏡手術支援機器を用いる場合）
腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（子宮体がんに限る。）	輸血管管理料I
人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	麻酔管理料I
麻酔管理料II	高エネルギー放射線治療
保険医療機関間の連携による病理診断	病理診断管理加算1
悪性腫瘍病理組織標本加算	口腔病理診断管理加算1
クラウン・ブリッジ維持管理料	酸素の購入価格の届出（医科）
酸素の購入価格の届出（歯科）	

7. 人員構成図

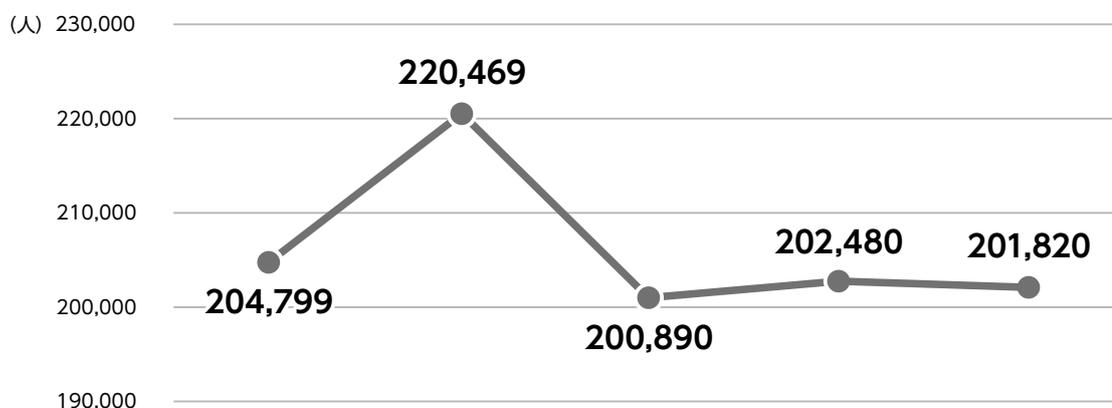
単位：人 2022年4月1日現在

職 種	2018年度 (5月1日)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
医 師	103	107	109	120	119
歯 科 医 師	3	3	3	1	2
看 護 師	446	466	483	513	509
准 看 護 師	25	26	23	19	18
介 護 福 祉 士	16	20	21	23	22
薬 剤 師	23	21	21	25	25
診療放射線技師	20	21	21	21	22
臨床検査技師	32	29	34	33	34
理学療法士	9	9	9	10	10
作業療法士	3	3	4	4	4
管理栄養士	8	9	6	9	10
臨床工学技士	15	15	17	19	21
言語聴覚士	4	3	3	3	3
視能訓練士	3	3	3	3	3
歯科衛生士	4	2	4	5	4
看護助手	17	18	15	14	10
社会福祉士	7	7	10	9	8
事 務	150	143	134	141	139
計	888	905	920	972	963

2. 統計資料

1. 診療実績

■ 診療科別外来患者数



単位：人

年 度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
合 計	204,799	220,469	200,890	202,480	201,820

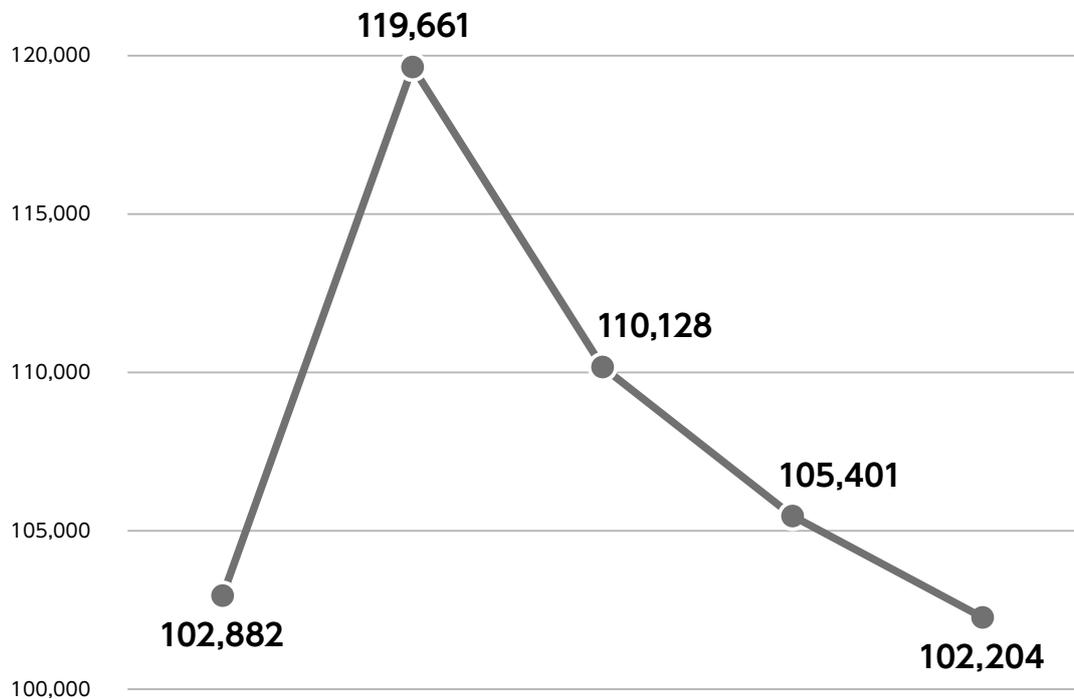
単位：人

(2018年5月～2019年3月)

循環器内科	30,943	30,110	23,211	22,541	22,573
血液浄化療法部	16,325	18,619	19,875	19,657	20,045
消化器内科	19,596	16,594	14,617	14,744	13,296
外科	14,041	15,693	15,592	16,267	16,616
歯科口腔外科	13,562	16,636	11,520	9,961	11,165
眼科	9,583	11,830	11,994	12,066	12,598
整形外科	12,834	12,851	9,477	9,406	10,603
糖尿病内分泌内科	10,116	11,175	10,724	11,525	11,995
泌尿器科	9,996	11,435	10,822	10,386	4,729
産婦人科	9,442	10,752	10,983	11,288	11,073
リウマチ膠原病内科	6,061	7,732	7,800	8,053	8,598
呼吸器内科	6,207	7,427	7,117	7,916	8,043
耳鼻咽喉科	6,838	7,545	6,100	6,252	6,114
脳神経外科	6,126	6,052	5,760	6,039	6,421
総合内科	6,501	5,978	5,738	5,123	5,030
脳神経内科	4,703	5,884	5,857	6,482	6,487
小児科	5,620	5,041	4,075	5,222	5,522
腎臓内科	3,946	4,601	4,371	4,648	5,293
放射線治療科	1,063	2,012	3,120	3,486	2,729
皮膚科	2,009	2,514	2,681	1,983	1,815
放射線診断科	1,787	2,011	1,885	2,034	2,356
救急科	2,569	2,067	1,408	1,231	1,298
精神科	1,423	1,520	1,445	1,417	2,075
血液内科	1,184	1,273	1,438	1,331	1,411
心臓血管外科	1,163	1,285	1,311	1,285	1,630
麻酔科	576	1,098	1,057	1,070	1,243
総合診療科	379	455	437	553	482
形成外科	206	279	475	514	580

■ 診療科別入院患者数

(人) 125,000



単位：人

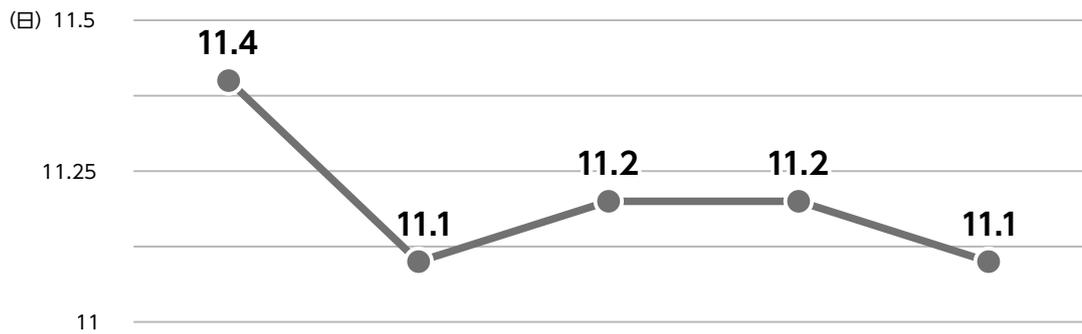
年 度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
合 計	102,882	119,661	110,128	105,401	102,204

単位：人

(2018年5月～2019年3月)

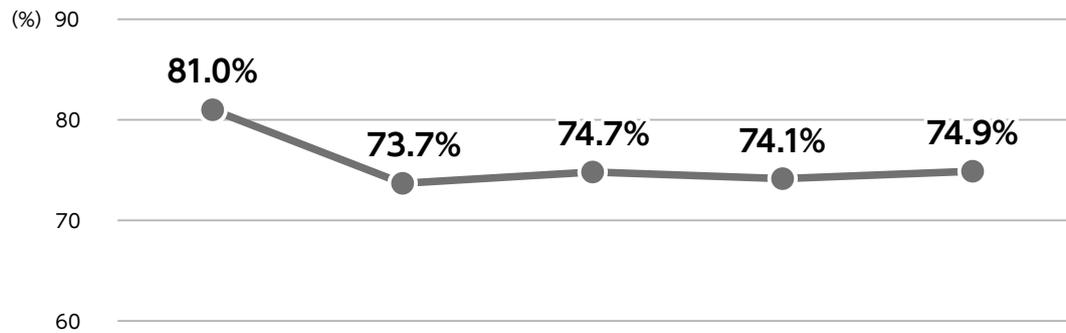
消化器内科	18,059	17,822	15,897	15,204	12,675
循環器内科	17,105	18,877	14,650	12,620	13,625
外科	12,920	16,386	14,232	12,533	11,760
整形外科	8,575	10,860	12,233	11,453	11,202
脳神経外科	8,057	10,606	9,700	10,000	8,590
腎臓内科	9,972	10,313	8,131	7,292	7,896
産婦人科	6,122	6,875	6,772	6,716	5,779
脳神経内科	3,833	5,048	6,274	5,081	5,289
呼吸器内科	4,450	4,806	4,698	6,062	7,101
小児科	3,199	3,712	3,610	4,097	3,380
糖尿病内分泌内科	2,900	3,810	3,097	3,484	4,006
リウマチ膠原病	1,642	3,719	3,299	3,220	3,227
心臓血管外科	1,667	2,349	2,224	2,011	2,009
総合内科	772	0	1,773	3,139	3,398
口腔外科	1,485	1,894	1,298	647	644
眼科	925	1,214	1,195	977	734
泌尿器科	1,099	1,359	967	858	889
救急科	100	11	78	7	0

■ 平均在院日数推移



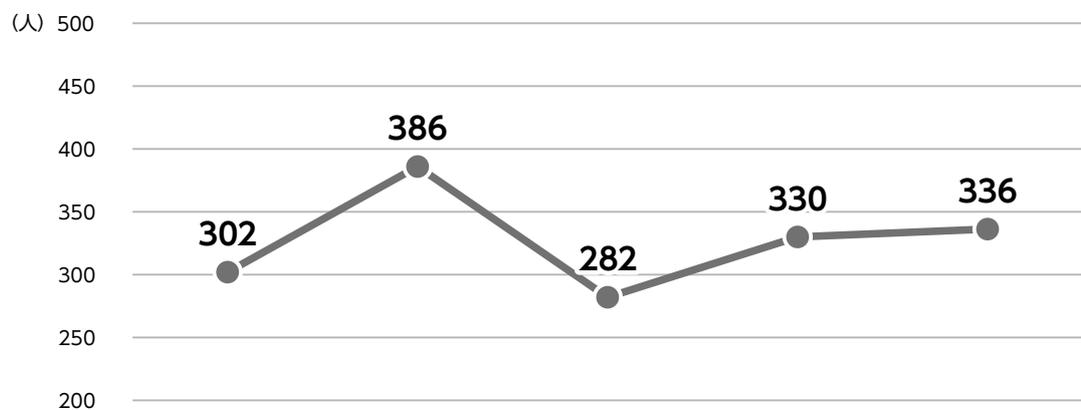
年 度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
合 計	11.4	11.1	11.2	11.2	11.1

■ 病床利用率推移



年 度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
合 計	81.0	73.7	74.7	74.1	74.9

■ 死亡退院患者数推移



年 度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
合 計	302	386	282	330	336

■ 紹介率

単位：％

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2018		44.6	49.8	48.4	47.3	45	56.6	53.3	56.8	52.8	54.3	58.6	51.6
2019	68.8	68.9	68.4	74.9	69.2	75	76.1	78.2	77.9	77.3	76.8	78.7	74.2
2020	73.7	79.9	78	78.8	83.6	85.9	87.8	85.6	89.2	86.8	91.5	86.5	83.9
2021	88.9	93.3	93.2	90.9	91.4	91.9	90.7	86.6	91.7	88.8	86.9	93.7	90.7
2022	92.4	94.4	92	92.1	88.5	89	93.8	91.8	88.9	87.8	85.7	94.1	90.9

■ 逆紹介率

単位：％

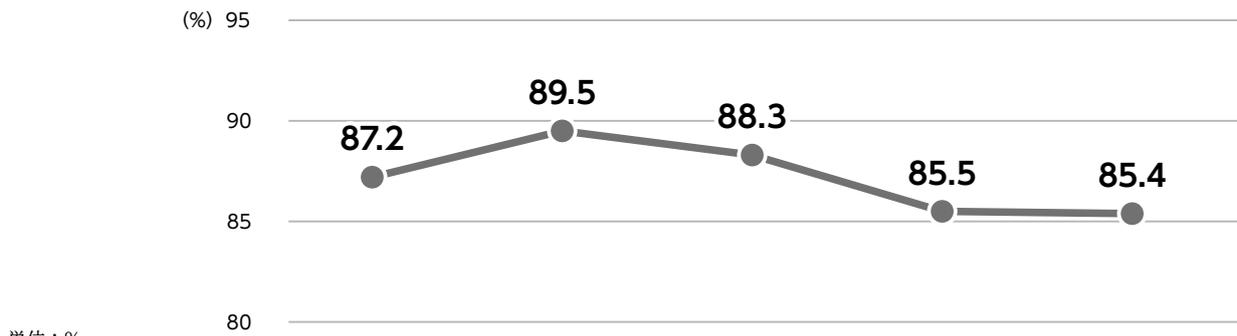
年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2018		47.3	59.3	55.3	60.5	61.4	64.6	73.7	78.5	70.9	81.9	78.7	66.6
2019	87.1	79.1	87.7	88.4	92.8	92.6	131.8	137.6	112.3	98.9	97.6	103.6	100.8
2020	112.1	115.1	96.8	95.7	115.5	113.7	101.6	101.8	125.9	120.3	129.9	138.9	113.9
2021	130.5	101.6	104.9	98.7	111.3	99.8	101.5	119.6	175.8	158.3	124.4	118.3	120.4
2022	125.8	115.8	116.2	108.1	108.4	119.0	118.2	111.6	110.6	119.0	103.1	135.5	115.8

■ 連携検査

単位：件

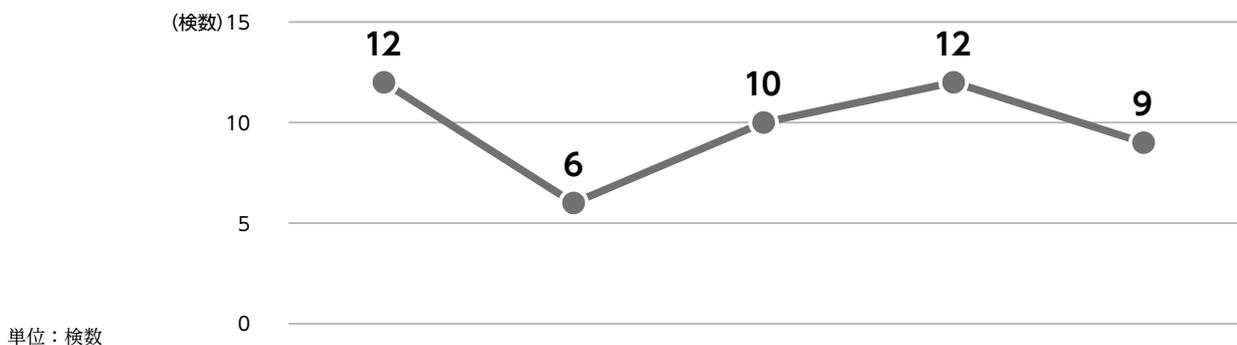
年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2018		189	228	214	186	175	240	182	175	177	166	234	2,166
2019	202	191	242	218	185	211	249	193	186	157	189	204	2,427
2020	122	129	229	246	188	204	239	200	184	163	190	235	2,329
2021	180	216	203	180	190	207	220	268	215	153	161	252	2,445
2022	225	309	254	224	203	242	253	294	219	199	217	234	2,873

■ 救急搬送患者受入れ率



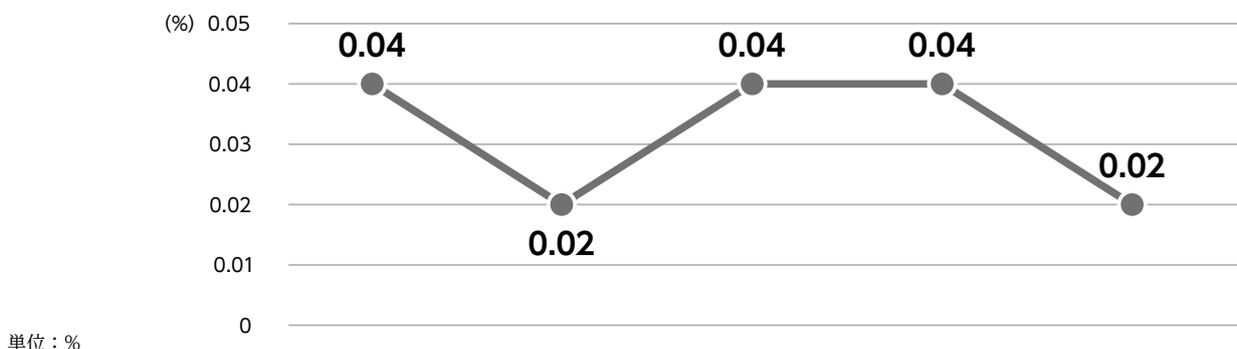
年 度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
合 計	87.2	89.5	88.3	85.5	85.4

■ 剖検数



年 度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
合 計	12	6	10	12	9

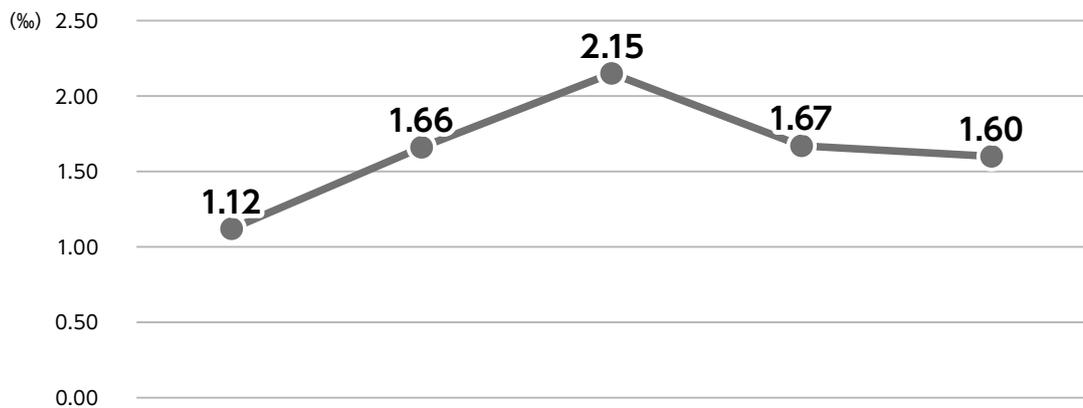
■ 剖検率



年 度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
合 計	0.04	0.02	0.04	0.04	0.02

■ 入院患者の転倒・転落発生率

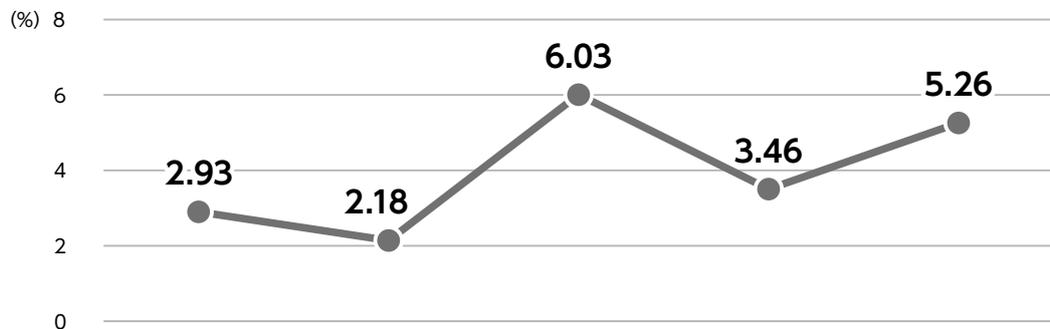
年度	転倒・転落報告件数	入院患者延数	発生率
2018	100	89,685	1.12
2019	182	109,693	1.66
2020	217	101,014	2.15
2021	168	100,787	1.67
2022	164	102,204	1.60



単位：%

年 度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
合 計	1.12	1.66	2.15	1.67	1.60

■ 輸血製剤廃棄率



単位：%

年 度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
合 計	2.93	2.18	6.03	3.46	5.26

■ 栄養指導 糖尿病透析予防指導 栄養相談件数

単位：人

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
入院 個人栄養指導	695	714	781	704	681
外来 個人栄養指導	1,962	2,332	2,586	3,227	3,032
集団栄養指導	153	328	0	0	0
糖尿病透析予防指導	245	192	192	138	103
健診センター 栄養相談	0	0	0	3	0
合計	3,055	3,566	3,559	4,072	3,816

2. 統 計

■ 診療科別退院患者統計【2022年度】

診 療 科	性別	退院患者数	平均在院日数	死亡患者数	院内粗死亡率
(総 合) 内 科	男	150	8.7	8	5.3%
	女	101	8.5	3	3.0%
小 児 科	男	244	8.3	0	0.0%
	女	224	8.8	0	0.0%
外 科	男	501	14.6	8	1.6%
	女	434	13.1	6	1.4%
整 形 外 科	男	219	16.5	2	0.9%
	女	357	21.5	2	0.6%
産 婦 人 科	男	80	6.5	0	0.0%
	女	900	7.0	2	0.2%
眼 科	男	240	2.5	0	0.0%
	女	255	2.4	0	0.0%
消 化 器 内 科	男	815	9.6	24	2.9%
	女	563	10.4	11	2.0%
泌 尿 器 科	男	193	4.9	0	0.0%
	女	27	5.7	0	0.0%
脳 神 経 内 科	男	171	21.2	5	2.9%
	女	140	14.7	3	2.1%
脳 神 経 外 科	男	322	16.2	13	4.0%
	女	234	17.2	15	6.4%
循 環 器 内 科	男	842	10.2	35	4.2%
	女	464	12.7	21	4.5%
心臓血管・呼吸器外科	男	113	14.7	0	0.0%
	女	56	10.4	0	0.0%
糖 尿 病 内 分 泌 内 科	男	129	18.0	10	7.8%
	女	116	17.7	4	3.4%
腎 臓 内 科	男	263	20.5	12	4.6%
	女	171	19.9	11	6.4%
膠原病リウマチ内科	男	79	20.0	9	11.4%
	女	96	19.1	6	6.3%
呼 吸 器 内 科	男	319	17.5	33	10.3%
	女	143	17.5	10	7.0%
歯 科 口 腔 外 科	男	100	3.8	0	0.0%
	女	104	4.5	0	0.0%
合 計	男	4,780	12.2	209	4.4%
	女	4,385	11.8	132	3.0%
	総数	9,165	12	341	3.7%

単位：人

※産婦人科には、産科入院の新生児を含む ※平均在院日数=退院患者総在院日数/総退院数 ※院内粗死亡率=死亡退院患者数/総退院数

■ 診療科別・年齢別退院患者数【2022年度】

診療科／年齢	性別	10歳未満	20歳未満	30歳未満	40歳未満	50歳未満	60歳未満	70歳未満	80歳未満	90歳未満	90歳以上	合計
(総合)内科	男	0	1	3	8	13	14	17	32	45	17	150
	女	0	2	2	4	11	5	7	24	30	16	101
小児科	男	224	20	0	0	0	0	0	0	0	0	244
	女	206	18	0	0	0	0	0	0	0	0	224
外科	男	2	13	14	8	30	69	95	157	100	13	501
	女	1	6	9	18	64	61	73	103	84	15	434
整形外科	男	12	22	12	12	20	27	35	31	40	8	219
	女	4	5	5	6	15	40	47	97	103	35	357
産婦人科	男	80	0	0	0	0	0	0	0	0	0	80
	女	69	13	172	331	136	86	39	44	9	1	900
眼科	男	1	2	0	0	5	20	22	117	73	0	240
	女	3	1	0	0	0	15	35	128	69	4	255
消化器内科	男	0	8	15	15	35	87	162	264	191	38	815
	女	0	6	24	12	19	58	93	177	143	31	563
泌尿器科	男	0	1	0	0	2	11	40	110	27	2	193
	女	0	0	0	0	1	6	2	13	4	1	27
脳神経内科	男	0	4	7	5	10	17	20	48	47	13	171
	女	0	2	7	3	16	6	18	30	37	21	140
脳神経外科	男	1	2	2	11	22	29	48	107	85	15	322
	女	1	2	2	2	13	35	34	63	69	13	234
循環器内科	男	0	3	3	4	37	80	131	270	254	60	842
	女	0	4	3	3	5	27	42	135	171	74	464
心臓血管・呼吸器外科	男	0	6	10	5	6	7	23	36	20	0	113
	女	0	0	3	2	3	3	9	23	13	0	56
糖尿病内分泌内科	男	0	3	3	4	5	12	16	38	37	11	129
	女	0	3	3	5	8	12	18	30	24	13	116
腎臓内科	男	0	0	3	10	12	30	28	91	73	16	263
	女	0	4	9	4	4	10	21	37	52	30	171
膠原病リウマチ内科	男	0	0	5	1	3	2	14	25	22	7	79
	女	0	1	4	5	5	12	16	20	25	8	96
呼吸器内科	男	0	0	4	2	9	23	52	125	95	9	319
	女	0	1	0	5	3	4	22	67	34	7	143
歯科口腔外科	男	6	18	21	15	14	5	6	6	8	1	100
	女	2	21	25	15	9	7	6	7	12	0	104
合計	男	326	103	102	100	223	433	709	1,457	1,117	210	4,780
	女	286	89	268	415	312	387	482	998	879	269	4,385
	総数	612	192	370	515	535	820	1,191	2,445	1,996	479	9,165

単位：人 ※産婦人科には、産科入院の新生児を含む

■ MDC 2分類別患者統計

※このデータはDPC提出データを基に集計

MDC コード	M D C 名 称	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
01	神経系疾患	601	803	743	679	693
02	眼科系疾患	357	435	473	451	484
03	耳鼻咽喉科系疾患	202	257	149	131	110
04	呼吸器系疾患	944	990	686	761	846
05	循環器系疾患	1270	1461	1096	1150	1190
06	消化器系疾患、肝臓・胆道・膵臓疾患	2185	2175	2153	2145	1971
07	筋骨格系疾患	247	267	260	226	244
08	皮膚・皮下組織の疾患	71	74	61	52	62
09	乳房の疾患	95	90	97	90	95
10	内分泌・栄養・代謝に関する疾患	195	198	146	186	178
11	腎・尿路系疾患及び男性生殖器系疾患	538	641	571	511	568
12	女性生殖器系疾患及び産褥期疾患・異常妊娠分娩	387	549	688	686	670
13	血液・造血器・免疫臓器の疾患	103	77	87	90	90
14	新生児疾患、先天性奇形	110	132	112	96	78
15	小児疾患	22	26	20	22	16
16	外傷・熱傷・中毒	552	647	591	562	590
17	精神疾患	23	34	17	19	15
18	その他	135	153	198	210	198

がん登録統計

○「院内がん登録標準登録様式2016年版」の登録対象に基づき、原発かつ初発の診断が行われた腫瘍を登録

○登録対象となる腫瘍の種類

- ・国際疾病分類－腫瘍学第3.2版において悪性又は上皮内癌に分類された腫瘍
- ・中枢神経系腫瘍
- ・消化管間質腫瘍
- ・境界悪性の卵巣腫瘍の一部

○集計期間

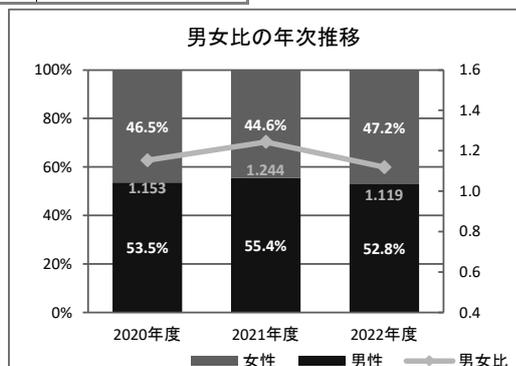
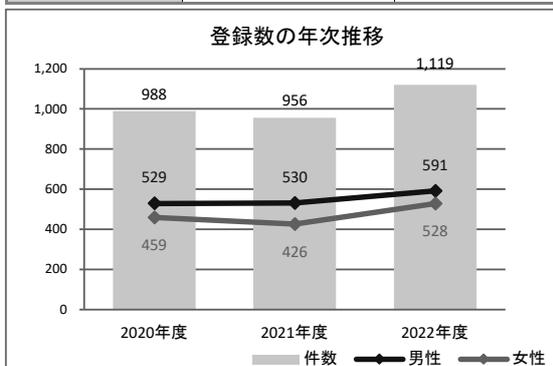
- ・2020年度：2019年4月1日から2020年3月31日の間に診断された症例
- ・2021年度：2020年4月1日から2021年3月31日の間に診断された症例
- ・2022年度：2021年4月1日から2022年3月31日の間に診断された症例

年次推移と部位別登録数

登録数の年次推移

	2020年度		2021年度		2022年度	
	件数	(%)	件数	(%)	件数	(%)
全体	988		956		1,119	
男性	529	(53.5%)	530	(55.4%)	591	(52.8%)
女性	459	(46.5%)	426	(44.6%)	528	(47.2%)
男女比	1.153		1.244		1.119	

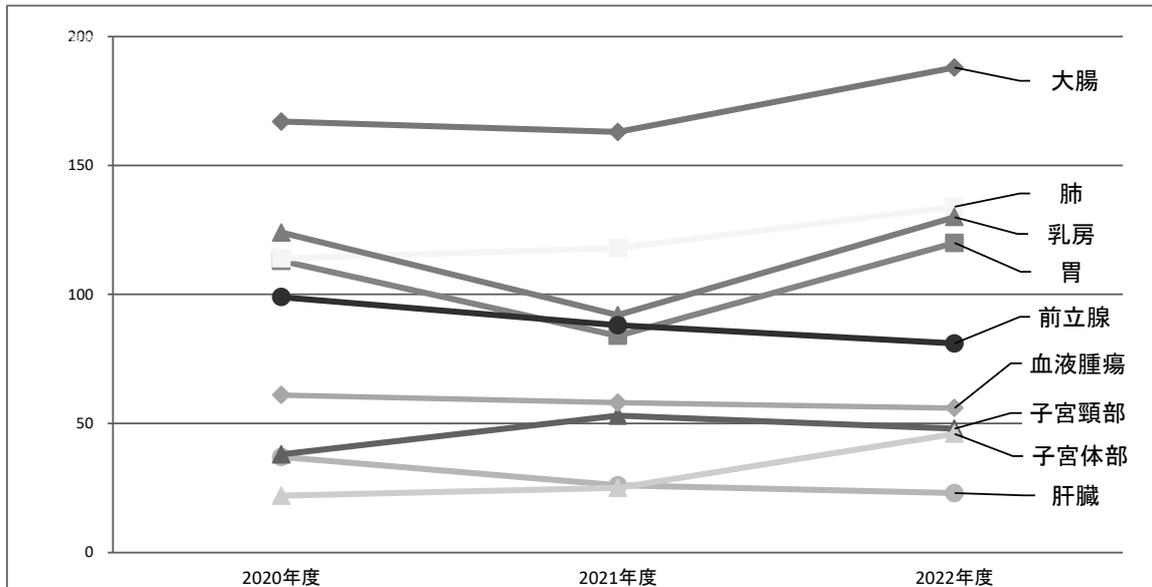
*男女比は女性を1としたときの男性の比率



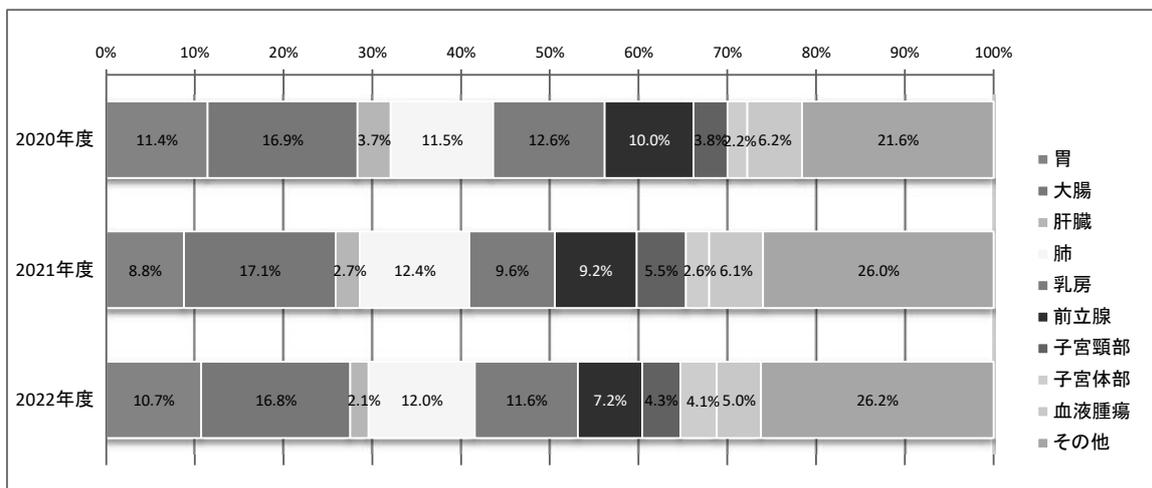
登録数の年次推移(部位別)

	2020年度		2021年度		2022年度	
	件数	(%)	件数	(%)	件数	(%)
口腔・咽頭	18	(1.8%)	9	(0.9%)	9	(0.8%)
食道	15	(1.5%)	21	(2.2%)	23	(2.1%)
胃	113	(11.4%)	84	(8.8%)	120	(10.7%)
結腸	114	(11.5%)	125	(13.1%)	137	(12.2%)
直腸	53	(5.4%)	38	(4.0%)	51	(4.6%)
肝臓	37	(3.7%)	26	(2.7%)	23	(2.1%)
胆嚢・胆管	16	(1.6%)	20	(2.1%)	26	(2.3%)
膵臓	35	(3.5%)	34	(3.6%)	55	(4.9%)
喉頭	0	(0.0%)	2	(0.2%)	0	(0.0%)
肺	114	(11.5%)	118	(12.3%)	134	(12.0%)
骨・軟部	4	(0.4%)	1	(0.1%)	4	(0.4%)
皮膚(黒色腫を含む)	7	(0.7%)	5	(0.5%)	9	(0.8%)
乳房	124	(12.6%)	92	(9.6%)	130	(11.6%)
子宮頸部	38	(3.8%)	53	(5.5%)	48	(4.3%)
子宮体部	22	(2.2%)	25	(2.6%)	46	(4.1%)
子宮	0	(0.0%)	1	(0.1%)	0	(0.0%)
卵巣	10	(1.0%)	16	(1.7%)	11	(1.0%)
前立腺	99	(10.0%)	88	(9.2%)	81	(7.2%)
膀胱	36	(3.6%)	39	(4.1%)	29	(2.6%)
腎・他の尿路	16	(1.6%)	24	(2.5%)	30	(2.7%)
脳・中枢神経系	35	(3.5%)	48	(5.0%)	59	(5.3%)
甲状腺	1	(0.1%)	2	(0.2%)	7	(0.6%)
悪性リンパ腫	22	(2.2%)	17	(1.8%)	23	(2.1%)
多発性骨髄腫	8	(0.8%)	9	(0.9%)	6	(0.5%)
白血病	12	(1.2%)	9	(0.9%)	9	(0.8%)
他の造血器腫瘍	19	(1.9%)	23	(2.4%)	18	(1.6%)
その他	20	(2.0%)	27	(2.8%)	31	(2.8%)
合計	988	1	956	1	1,119	1

部位別登録数の推移

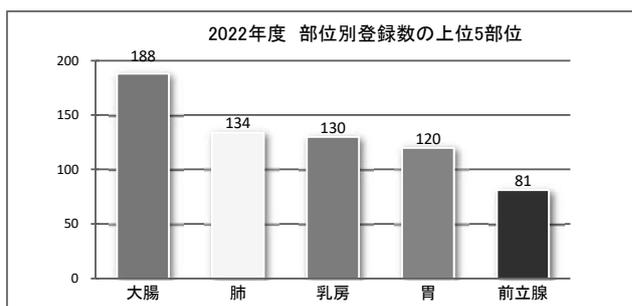


登録数の部位別の割合



部位別登録数の上位5部位

順位	2020年度		2021年度		2022年度	
	部位名	件数	部位名	件数	部位名	件数
1	大腸	167	大腸	163	大腸	188
2	乳房	124	肺	118	肺	134
3	肺	114	乳房	92	乳房	130
4	胃	113	前立腺	88	胃	120
5	前立腺	99	胃	84	前立腺	81

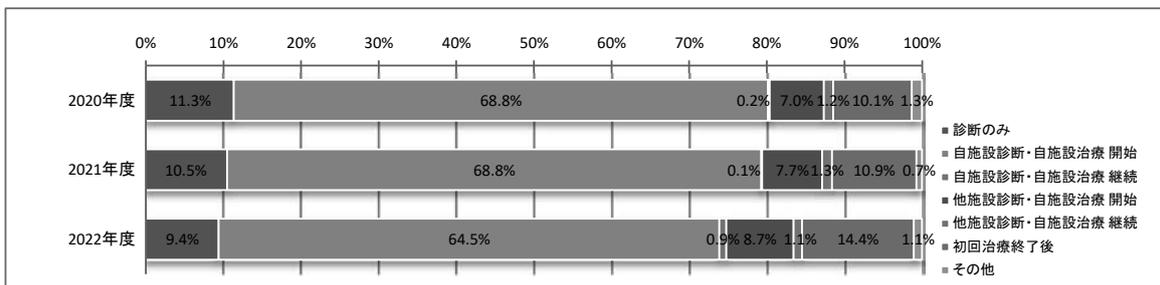


症例区分

症例区分

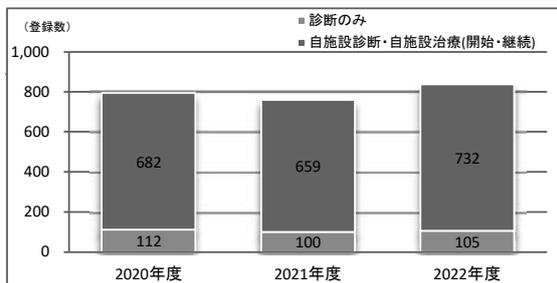
	2020年度		2021年度		2022年度	
	件数	(%)	件数	(%)	件数	(%)
診断のみ	112	(11.3%)	100	(10.5%)	105	(9.4%)
自施設診断・自施設治療 開始	680	(68.8%)	658	(68.8%)	722	(64.5%)
自施設診断・自施設治療 継続	2	(0.2%)	1	(0.1%)	10	(0.9%)
他施設診断・自施設治療 開始	69	(7.0%)	74	(7.7%)	97	(8.7%)
他施設診断・自施設治療 継続	12	(1.2%)	12	(1.3%)	12	(1.1%)
初回治療終了後	100	(10.1%)	104	(10.9%)	161	(14.4%)
その他	13	(1.3%)	7	(0.7%)	12	(1.1%)

症例区分の割合



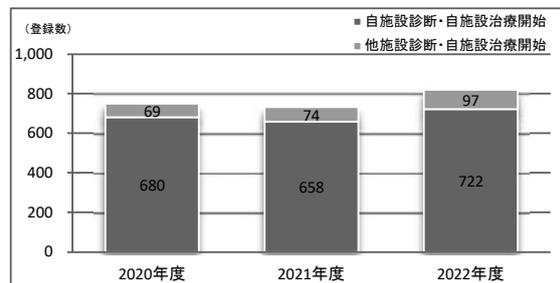
自施設でがんを診断した症例の年次推移

(診断のみ、自施設診断・自施設治療開始、自施設診断・自施設治療継続)



自施設初回治療開始症例の年次推移

(自施設診断・自施設治療開始、他施設診断・自施設治療開始)



2022年度の症例区分の診断施設・治療施設マトリクス

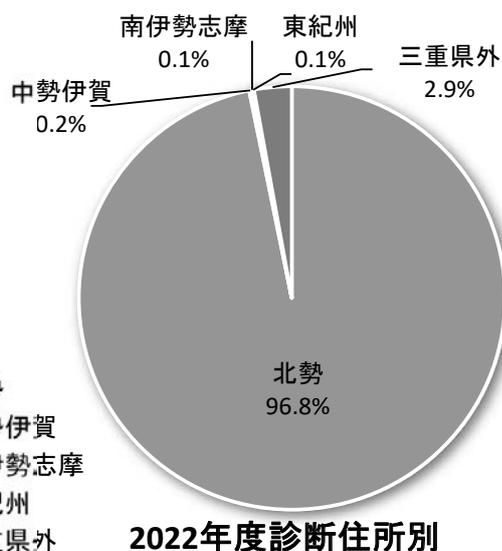
治療施設	診断施設	自施設診断 (当該腫瘍について“がん”と診断された最も確かと考えられる検査が自施設初診後に行われた症例)	他施設診断 (当該腫瘍について“がん”と診断された最も確かと考えられる検査が自施設初診前にすでに行われていた症例)
	自施設で初回治療せず	<診断のみ>	105
自施設で初回治療開始	<自施設診断・自施設治療開始>	722	<他施設診断・自施設治療開始> 97
初回治療継続	<自施設診断・自施設治療継続>	10	<他施設診断・自施設治療継続> 12
初回治療終了後	<初回治療終了後>	0	<初回治療終了後、その他> 161
その他	<その他>	0	<その他> 0

※表中の<>は診断施設・治療施設から選択される症例区分

診断時住所別

診断時住所別

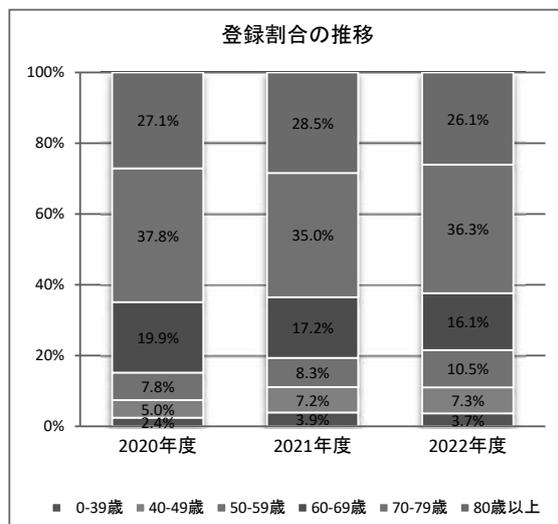
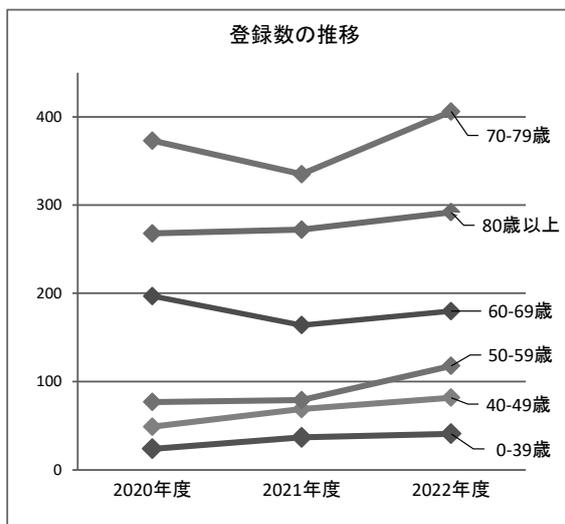
医療圏	市郡・県外	町村	2020年度		2021年度			2022年度				
			件数	(%)	件数	件数	(%)	件数	件数	(%)	件数	
北勢	四日市市		943	(95.4%)	44	914	(95.6%)	43	1,083	(96.8%)	52	
	桑名市				654		650				772	
	鈴鹿市				3		4				2	
	亀山市				2		2				0	
	いなべ市				76		81				78	
	桑名郡				8		6				0	
	員弁郡	(東員町)				105		84			118	
	三重郡	(菟野町,朝日町,川越町)				51		44			61	
中勢伊賀	津市		1	(0.1%)	0	5	(0.5%)	3	2	(0.2%)	2	
	名張市				0		2			0		
	伊賀市				1		0			0		
南伊勢志摩	伊勢市		1	(0.1%)	0	0	(0.0%)	0	1	(0.1%)	0	
	松坂市				1		0			0		
	鳥羽市				0		0			0		
	志摩市				0		0			0		
	多気郡	(多気町,明和町,大台町)				0		0			0	
	度会郡	(玉城町,度会町,大紀町,南伊勢町)				0		0			1	
東紀州	尾鷲市		0	(0.0%)	0	1	(0.1%)	1	1	(0.1%)	1	
	熊野市				0		0			0		
	北牟婁郡	(紀北町)			0		0			0		
	南牟婁郡	(御浜町,紀宝町)			0		0			0		
三重県外				43	(4.4%)	43	36	(3.8%)	36	32	(2.9%)	32
合計(全登録数)			988		956			1,119				



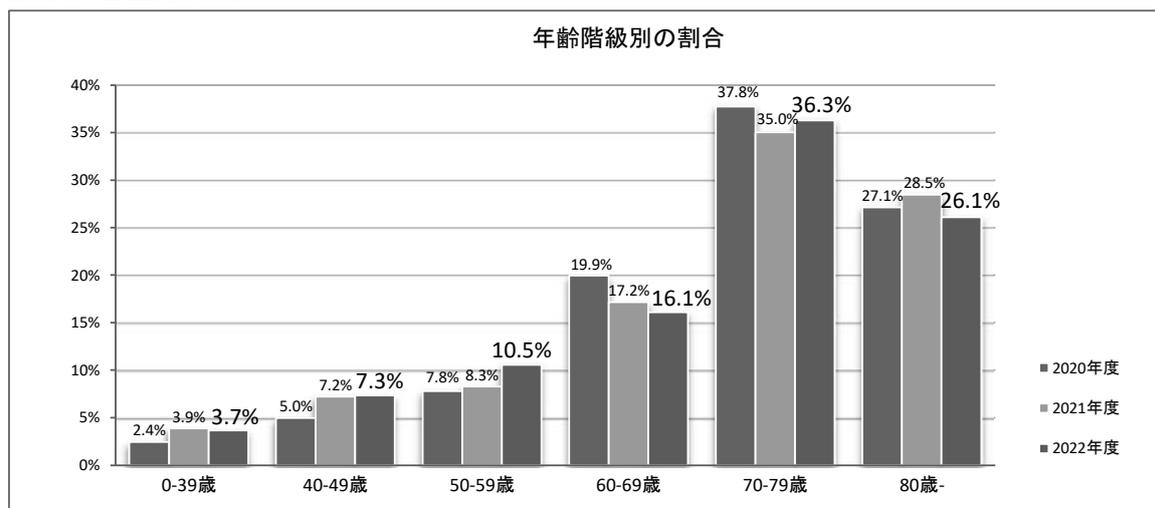
年齢の割合

年齢階級別登録数の年次推移

診断年	2020年度		2021年度		2022年度	
	件数	(%)	件数	(%)	件数	(%)
0-39歳	24	(2.4%)	37	(3.9%)	41	(3.7%)
40-49歳	49	(5.0%)	69	(7.2%)	82	(7.3%)
50-59歳	77	(7.8%)	79	(8.3%)	118	(10.5%)
60-69歳	197	(19.9%)	164	(17.2%)	180	(16.1%)
70-79歳	373	(37.8%)	335	(35.0%)	406	(36.3%)
80歳-	268	(27.1%)	272	(28.5%)	292	(26.1%)

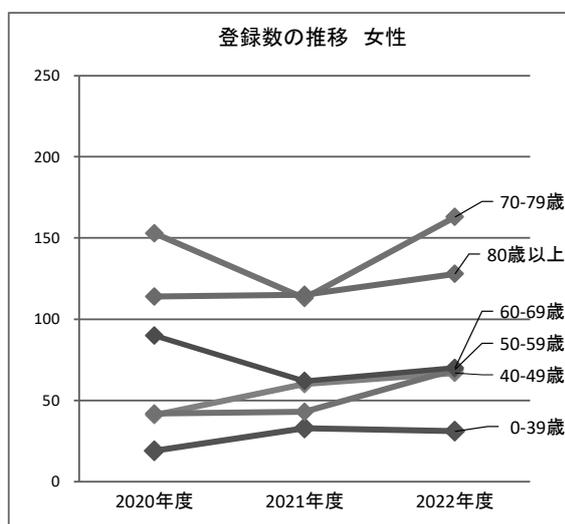
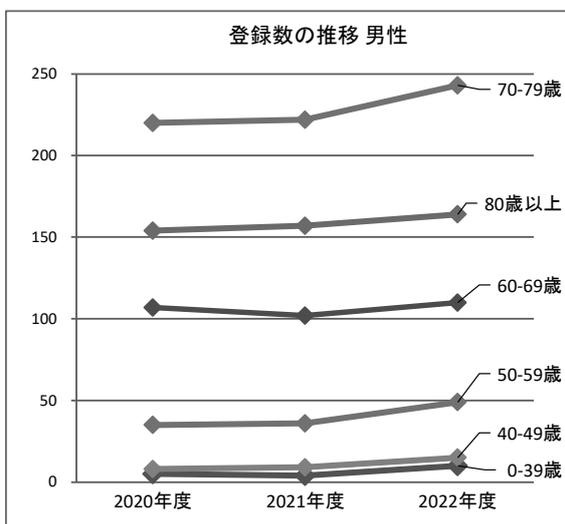


年齢階級別登録割合

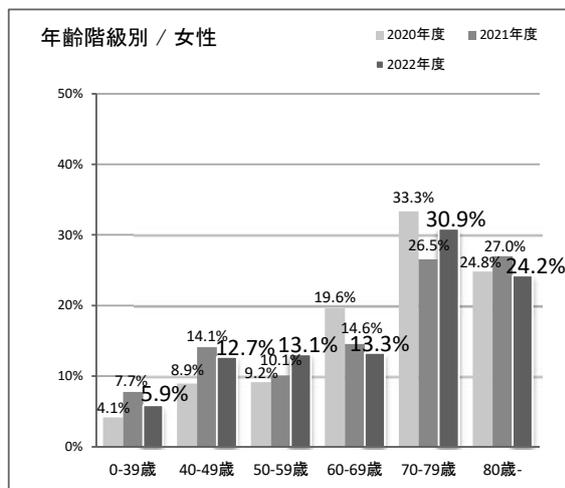
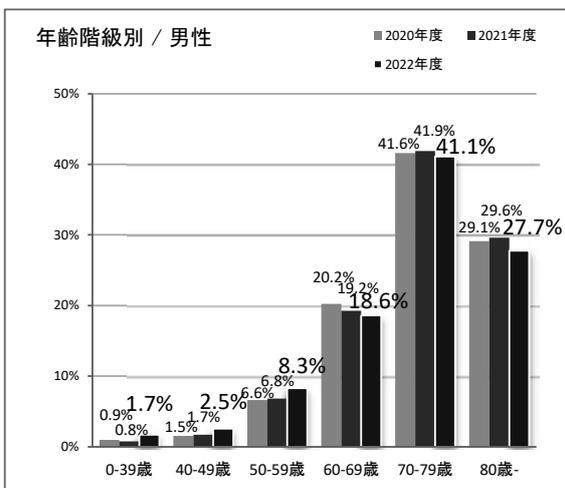


男女別 年齢階級別登録数の年次推移

診断年	2020年度		2021年度		2022年度	
	件数	(%)	件数	(%)	件数	(%)
男性						
0-39歳	5	(0.9%)	4	(0.8%)	10	(1.7%)
40-49歳	8	(1.5%)	9	(1.7%)	15	(2.5%)
50-59歳	35	(6.6%)	36	(6.8%)	49	(8.3%)
60-69歳	107	(20.2%)	102	(19.2%)	110	(18.6%)
70-79歳	220	(41.6%)	222	(41.9%)	243	(41.1%)
80歳-	154	(29.1%)	157	(29.6%)	164	(27.7%)
女性						
0-39歳	19	(4.1%)	33	(7.7%)	31	(5.9%)
40-49歳	41	(8.9%)	60	(14.1%)	67	(12.7%)
50-59歳	42	(9.2%)	43	(10.1%)	69	(13.1%)
60-69歳	90	(19.6%)	62	(14.6%)	70	(13.3%)
70-79歳	153	(33.3%)	113	(26.5%)	163	(30.9%)
80歳-	114	(24.8%)	115	(27.0%)	128	(24.2%)



男女別 年齢階級別登録割合

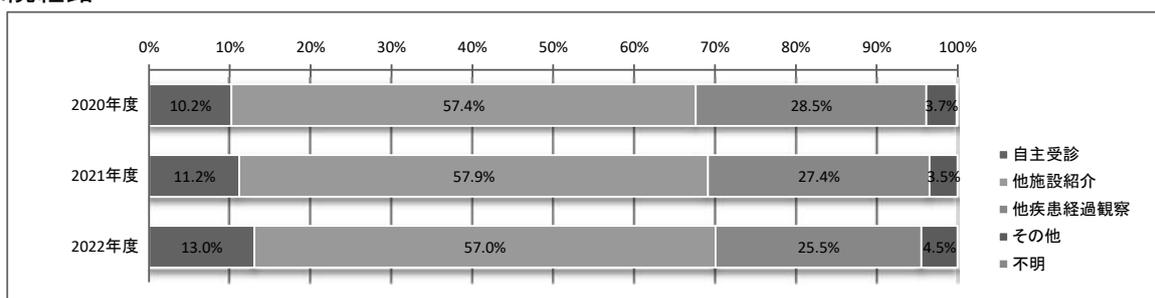


来院経路

来院経路

	2020年度		2021年度		2022年度	
	件数	(%)	件数	(%)	件数	(%)
自主受診	101	(10.2%)	107	(11.2%)	146	(13.0%)
他施設紹介	567	(57.4%)	554	(57.9%)	638	(57.0%)
他疾患経過観察	282	(28.5%)	262	(27.4%)	285	(25.5%)
その他	37	(3.7%)	33	(3.5%)	50	(4.5%)
不明	1	(0.1%)	0	(0.0%)	0	(0.0%)

来院経路

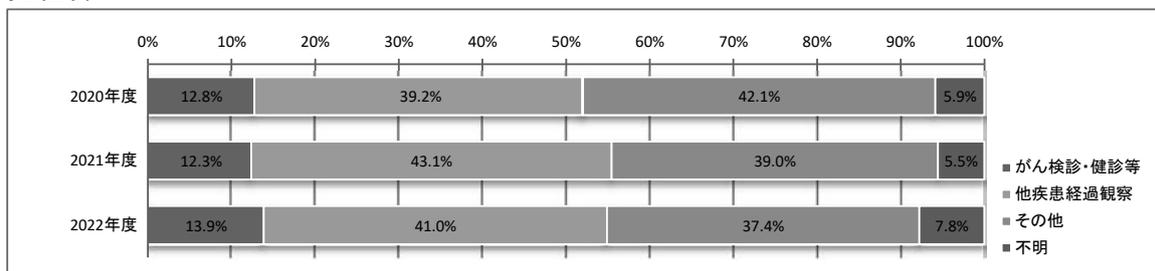


発見経緯

発見経緯

	2020年度		2021年度		2022年度	
	件数	(%)	件数	(%)	件数	(%)
がん検診・健康診断 ・人間ドック	126	(12.8%)	118	(12.3%)	155	(13.9%)
他疾患経過観察	387	(39.2%)	412	(43.1%)	459	(41.0%)
剖検発見	1	(0.1%)	0	(0.0%)	0	(0.0%)
その他	416	(42.1%)	373	(39.0%)	418	(37.4%)
不明	58	(5.9%)	53	(5.5%)	87	(7.8%)

発見経緯



3. 部署紹介・統計

循環器内科

スタッフ

名誉病院長 市川 毅彦 医学博士
日本内科学会認定総合内科専門医・指導医
日本循環器学会認定循環器専門医
日本医師会認定産業医
人工透析従事職員研修修了
臨床研修指導医講習修了
緩和ケア研修会修了
三重大学医学部臨床講師

副病院長 山田 典一 医学博士
日本内科学会認定総合内科専門医・認定内科医・指導医
日本循環器学会認定循環器専門医、社員・フェロー
日本脈管学会認定脈管専門医、評議員
日本血栓止血学会認定医、評議員
日本心臓病学会評議員、特別正会員
日本静脈学会理事
日本肺高血圧・肺循環学会評議員
弾性ストッキング・圧迫療法コンダクター認定
医療安全管理者養成研修会修了
臨床研修指導医講習修了
緩和ケア研修会修了
Best Doctors in Japan®
2012-2013、2014-2015、2016-2017、2018-
2019、2020-2021、2022-2023
三重大学客員教授
三重大学医学部臨床教授

部長 大久保 節也 医学博士
日本内科学会認定総合内科専門医・指導医
日本循環器学会認定循環器専門医
日本医師会産業医
総合診療専門研修特任指導医
日本感染症学会認定ICD(Infection Control Doctor)
プログラム指導者講習会修了
臨床研修指導医講習修了
緩和ケア研修会修了
三重大学医学部臨床教授

循環器センター長 大村 崇
日本内科学会認定総合内科専門医・認定内科医・指導医
日本循環器学会認定循環器専門医
日本心血管インターベンション治療学会専門医
日本心臓リハビリテーション指導士
臨床研修指導医講習修了
緩和ケア研修会修了

部長 千賀 通晴 医学博士
日本内科学会認定総合内科専門医・認定内科医
日本循環器学会認定循環器専門医
日本不整脈心電学会認定不整脈専門医
植込み型除細動器(ICD)/ペーシングによる心不全治療(CRT)研修証
緩和ケア研修会修了

医 長	今井裕一	日本心血管インターベンション治療学会認定医 浅大腿動脈ステントグラフト実施医 リードレスペースメーカー(Micra)研修会修了実施医 Diamondback360実施医 臨床研修指導医講習修了
医 長	岡島春花	日本内科学会認定内科医
医 長	糟谷彰悟	日本心血管インターベンション治療学会認定医 緩和ケア研修会修了
医 長	飯尾滉太郎（～2022年9月30日）	
	柳澤将史（2022年10月1日～）	緩和ケア研修会修了
	前川瑛亮（～2023年3月31日）	
非 常 勤	……………2名	

診療科の特色・診療対象疾患

虚血性心疾患、不整脈、心不全、心臓弁膜症、大動脈疾患、末梢動脈疾患、肺循環障害（肺高血圧症、肺塞栓症）、静脈血栓塞栓症などに対し、検査・治療を行っています。

急性冠症候群については24時間365日緊急対応が出来る体制を整えホットラインとして開業医の先生方からの直接連絡に対応しています。

また、心疾患回復に向けた心臓リハビリテーションにも力を入れています。

年度回顧

年間90件の急性冠症候群に対し緊急での冠動脈カテーテル治療を行いました。出血性リスクが高いと考えられる患者さんに対しては薬剤コーティングバルーンを用いたステントレス治療を積極的に行いました。

不整脈治療については最新のデバイスを用い、前年同様の手術件数を維持することが出来ました。

下肢血管治療については遠位橈骨動脈穿刺による低侵襲の治療を積極的に行いました。

また心臓リハビリテーションでは地域連携を強化するための取り組みを開始しました。

活動記録

	2022年度
冠動脈造影	597
冠動脈形成術	350
カテーテルアブレーション	69
ペースメーカー植込み/交換	52
下肢血管形成術	31

今後の展望

地域かかりつけ医の先生方とのホットラインでの連携強化・維持のほか、救急外来とも密接な連携をとり、救急車からの心電図転送を利用するなど急性冠症候群に対しより早期の治療介入を目指します。

不整脈に対する新しいデバイスも取り入れペースメーカー植込みなどの手技習熟を目指します。

下肢血管治療については重症下肢虚血に対する治療を含め症例数が増加しており引き続き低侵襲およびQOL改善を目指した治療を積極的に行っていきます。

心不全患者さんについては心臓リハビリテーションスタッフ介入のもと地域の医療機関・看護サービスとの連携を深め情報の共有、再入院の抑制を目指します。

循環器治療全般的にガイドラインに準じた標準的治療を行うとともに、外科的緊急対応が必要な症例については他の地域基幹病院と連携をとり患者さんの予後改善に貢献していきたいと思えます。

消化器内科

スタッフ

副院長・石田 聡 医学博士
感染管理部長

日本内科学会認定内科医・指導医
日本消化器病学会認定消化器病専門医・指導医
日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医
日本肝臓学会認定肝臓専門医・指導医
日本医師会認定産業医
日本人間ドック学会人間ドック健診専門医
日本人間ドック学会人間ドック健診情報管理指導士(人間ドックアドバイザー)
日本感染症学会認定ICD(Infection Control Doctor)
日本化学療法学会抗菌化学療法認定医
日本プライマリ・ケア連合学会プライマリ・ケア認定医・指導医
日本専門医機構総合診療領域特任指導医講習修了
臨床研修指導医講習修了
緩和ケア研修会修了
三重大学医学部臨床准教授

消化器センター長 中川直樹 医学博士

日本内科学会認定総合内科専門医・認定内科医・指導医
日本消化器病学会認定消化器病専門医・指導医
日本消化器内視鏡学会認定消化器内視鏡専門医・指導医
日本肝臓学会認定肝臓専門医・指導医
日本病態栄養学会認定病態栄養専門医研修指導医・NSTコーディネーター
日本カプセル内視鏡学会認定医・指導医
日本消化管学会認定胃腸科専門医
日本医師会認定産業医
臨床研究講習会受講認定
臨床研修指導医講習修了
緩和ケア研修会修了

部長 泉 道博

日本内科学会認定内科医
日本消化器内視鏡学会認定消化器内視鏡専門医
ICLSプロバイダー
臨床研修指導医講習修了
緩和ケア研修会修了

部長 大矢由美 医学博士

日本内科学会認定総合内科専門医・指導医
日本消化器病学会認定消化器病専門医・指導医
日本肝臓学会認定肝臓専門医・指導医
日本医師会認定健康スポーツ医
日本医師会認定産業医
三重がんリハビリテーション研修修了
臨床研修指導医講習修了
緩和ケア研修会修了
三重大学医学部臨床准教授

部長 浦吉俊輔

日本内科学会認定総合内科専門医・認定内科医・指導医
日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医・指導医
日本消化器病学会認定消化器病専門医・指導医

		臨床研修指導医講習修了 緩和ケア研修会修了
医	長 山本あゆみ	日本消化器病学会認定消化器病専門医 日本内科学会認定内科医 日本ヘリコバクター学会認定H. pylori(ピロリ菌)感染症認定医 緩和ケア研修会修了
医	長 田中 聡 (～2022年6月30日)	日本内科学会認定内科医 日本消化器病学会専門医 緩和ケア研修会修了
	村田 亮介	緩和ケア研修会修了
	中地 悌喜 (2022年4月1日～)	緩和ケア研修会修了
非	常 勤……………7名	

診療科の特色・診療対象疾患

当科は県北勢部の急性期基幹病院の専門内科として消化器疾患全般(食道、胃、小腸、大腸、肝臓、胆嚢、胆管、膵臓)の診療を幅広く行っております。消化器外科、放射線科、病理診断科や地域の開業医の先生(かかりつけ医)、他病院との連携を密にし、地域の中核病院としての役割を果たすべくスタッフ一同、情熱をもって診療を行っています。我が国で死亡率の高い5大がんの中で以下の4種のがん(大腸がん、胃がん、膵臓がん、肝臓がん)は消化器内科の担当です。当科では消化器がんの診断・治療、消化管出血や黄疸・腹痛などの急を要する疾患に対する24時間オンコール体制での救急医療に加えて、当センター検診部門とも連携してピロリ菌の除菌や胃がん・大腸がん検診など予防医療にも力をいれています。

年度回顧

2022年度はコロナ禍の真ただ中であり、当科の業務では検診部門での上部消化管内視鏡検査件数を制限していましたが、臨床部門ではコロナ関連での制限は設けることなく診療を継続しました。スタッフ一同、コミディカルの協力の下、クラスター等の発生なく乗り切ることが出来ました。人事面では開業や育休、大学消化器内科ローテーションで減員となりましたが、一方で新たに若手スタッフを迎え入れることも出来ました。診療内容の傾向としては2021年度と同様に上部・下部消化管悪性腫瘍に対する粘膜下層切開剥離術(ESD)、内視鏡的超音波誘導組織採取(EUS-TA)が増加傾向であり、更に近年の急速に患者数が増加している炎症性腸疾患に対する抗生物学的製剤の使用例が増加傾向です。近年の化学療法の進歩は目覚ましく当科関連疾患でも免疫チェックポイント阻害剤を含めた分子標的剤を使用する症例が増えています。

又、ゲノム診療の進歩により高次医療機関と連携して腫瘍組織を用いての遺伝子検査の頻度も増加してきています。

活動記録

◆◆各種実数2022年度◆◆

患者数	
新規入院患者数	1,427人
平均在院日数	9.1日
検査数	
上部消化管内視鏡検査	2,171件
上部消化管EMR	13件
上部消化管ESD	41件
下部消化管内視鏡検査	1,993件
下部消化管内視鏡検査EMR	331件
下部消化管ESD	23件
内視鏡的逆行性膵胆管造影 (ERCP関連検査全て)	242件
内視鏡的胆管ドレナージ	37件
内視鏡的乳頭括約筋切開術	91件
内視鏡的胆管ステント留置	41件
内視鏡的膵管ステント留置	7件
内視鏡的膵石除去	2件
超音波内視鏡(消化管、胆膵)	59件
EUS-FNA関連検査・治療	27件
肝生検	38件
ラジオ、マイクロ波焼灼術	19件
肝動脈塞栓術	15件
腹腔静脈シャント造設	7件
CART	14件

今後の展望

地域の基幹病院としてほぼ全ての消化器疾患に対する診療を行える体制を整えています。更なる量と質の充実を図ることが今後の目標となります。この為には人の確保が最も重要な課題です。当科を選択してくれる専攻医の確保や、各疾患の専門医の育成や招聘を積極的に行っていきたく考えています。また当科の診療行為は看護師や臨床工学技士、放射線技師などのコメディカルとの協調が非常に重要です。このためコメディカルにも高度な専門性が求められます。コメディカル自身が専門性を取得することを負担に感じたり、満足感が得られないようでは優秀な職員を確保することができません。消化器疾患の診療に携り、専門的なスキルや知識を得とくし、発揮することでコメディカルが喜びを感じられるような魅力ある職場にしていくことが重要と考えます。

次は最新の医療機器の整備となります。当科が中心となって使用する高額医療機器としては内視鏡関連機器と超音波機器が重要ですが、この分野での機器の進歩は目覚ましく現状では近隣病院に追い付いていないところもあります。やはり高額な機器整備を実現するには病院管理者の理解を得る必要があります。その為には医療収益に当科が今以上に貢献する必要があります。しかし現状では、目の前の仕事をこなしていくだけで収益を考慮した運営までは頭が回っていないと考えています。今後は経営部門とも連携を密にして収益にも重点を置いた運営を行いたいと考えています。

糖尿病内分泌内科

スタッフ

部	長	北川良子	医学博士	臨床研修指導医講習修了
医	長	堀田康広		日本内科学会認定総合内科専門医・認定内科医 日本糖尿病学会認定糖尿病専門医 日本内分泌内科認定内分泌専門医 臨床研修指導医講習修了 緩和ケア研修会修了
医	長	大熊伸一		緩和ケア研修会修了
		國保良太		
非	常	勤	……………	2名

診療科の特色・診療対象疾患

主に、糖尿、内分泌疾患に関して診療しております。

医師以外にも、看護師、栄養士、検査技師、薬剤師等のスタッフとともに、チーム医療で患者さんを支援していきます。

年度回顧

去年に引き続きコロナ禍の影響がありましたが、糖尿病週間イベントなどを施行でき、患者満足度も高かったものと考えます。他科併診依頼も数多くいただき、病院に貢献しております。

活動記録

毎月「糖尿病療養指導士会議」、「糖尿病委員会」を開催し、よりチーム医療の充実と糖尿病に関する知識の充実を行っております。

今後の展望

病院内の糖尿病診療を円滑に進めるための組織、システムづくりに努力するとともに、内分泌疾患に関しても、症例数を増加充実させていきます。

また、持続血糖モニタリングシステム新機種を導入やSensor Augmented Pump等も有効に活用し、診療に生かして行きます。

膠原病リウマチ内科

スタッフ

医 長 小寺 仁

日本内科学会認定総合内科専門医
日本リウマチ学会認定リウマチ専門医・指導医
日本リウマチ財団登録医
日本腎臓学会認定腎臓専門医・指導医
日本プライマリ・ケア連合学会プライマリ・ケア認定医・指導医
日本透析医学会認定透析専門医
日本旅行医学会認定医
臨床研修指導医講習修了
緩和ケア研修会修了
JMECCインストラクター
ICLSインストラクター

医 長 野田健太郎（～2023年2月28日）

日本リウマチ学会リウマチ専門医
日本内科学会総合内科専門医
緩和ケア研修会修了

三井安沙子（～2023年3月31日）

緩和ケア研修会修了

平野麗和（～2023年3月31日）

緩和ケア研修会修了

非 常 勤…………… 1 名

診療科の特色・診療対象疾患

関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、シェーグレン症候群、全身性強皮症、多発性筋炎・皮膚筋炎、脊椎関節炎、成人Still病、ベーチェット病、血管炎、等があります。まだまだ原因が不明な点が多い領域ではありますが、早期診断、早期治療に努めて参ります。

活動記録

	2022年度
第66回日本リウマチ学会 総会・学術集会 発表	4月

年度回顧

近年では、画期的な薬剤の開発・上市が進み、治療は飛躍的に進歩しております。

今後の展望

難治性病態が少なくありませんが、このエリアの患者さんに貢献すべく、地域完結型医療の提供を行って参ります。

血液内科

スタッフ

部長 渡辺 隆 医学博士
(2022年7月1日～)

日本内科学会認定内科医
日本血液学会認定血液専門医・指導医
日本血液学会評議員
日本癌学会評議員
日本リンパ網内系学会評議員
日本骨髄腫学会代議員
日本臨床腫瘍学会協議員
Best Doctors in Japan®
2010-2011、2012-2013、2014-2015、2016-
2017、2018-2019、2020-2021、2022-2023
臨床研修指導医講習修了
緩和ケア研修会修了

非常勤…………… 1名

診療科の特色・診療対象疾患

必ずガイドラインに基づいて、稀有例に関してはあらゆる報告に目を通した後、対応方針を決めています。常勤1名のため、外来対応可能な範囲での診療となり、入院加療が必要な疾患に関しては、近隣の病院にお願いしております。外来治療中に併発症で入院が必要になった際には他科の先生にご迷惑をお掛けしております。

【対象疾患】

悪性リンパ腫・多発性骨髄腫(MM)・慢性白血病・本態性血小板増多症(ET)・真性多血症(PV)・骨髄異形成症候群(MDS)・免疫性血小板減少性紫斑病(ITP)・自己免疫性溶血性貧血(AIHA)・再生不良性貧血(AA)・ALアミロイドーシス

年度回顧

2022年7月に三重大学内に寄付講座を新設して頂き、外来診療が週5日可能になりました。名古屋大学医学部附属病院・愛知県がんセンター・海南病院と旧知の先生を中心に、或いは市立四日市・鈴鹿回生・鈴鹿中央と三重大学血液内科同門と直接電話連絡し、個々の患者さんにとって最適の医療を提供できたと思っております。講座名に相応しく、骨髄性又はリンパ系腫瘍患者さんに対しては、複数の治療選択肢の中から個々の患者さんの忍容性に配慮し、文字通り個別化治療を行うことができました。

活動記録

以下の患者さんを新規に診断し、下記のように対応致しました(常勤1名分のみ)。

1) 緊急転院：

- ①子宮原発高悪性度B細胞リンパ腫
- ②脾臓原発大細胞型B細胞リンパ腫
- ③血管免疫芽球性T細胞リンパ腫急速進行例
- ④急性リンパ芽球性白血病
- ⑤急性骨髄性白血病
- ⑥血小板値1万未満のITP各1例

2) 短期間での転院：

- ⑦中枢神経原発リンパ腫4例

3) 精査後導入療法のため紹介：

- ⑧マントル細胞リンパ腫1例
- ⑨MM十数例及び原発性ALアミロイドーシス2例
- ⑩高リスクMDS数例

4) 外来治療：

- ⑪ET+PV計10例弱
- ⑫ITP数例
- ⑬AIHA1例

5) (限局期にて)放射線治療後経過観察(センター内紹介)：

- ⑬十二指腸・腎・直腸原発MALTリンパ腫各1例

6) 無治療経過観察(センター内紹介)：

- ⑭浸出液原発(心嚢水のみ)リンパ腫様リンパ腫1例(心嚢水ドレナージ後、血中EBV-DNA・遊離短鎖 κ/λ 比・可溶性IL-2受容体モニター)
- ⑮医原性免疫不全症関連リンパ増殖性疾患3例(メソトレキセート中止後)
- ⑯唾液腺原発HCV関連MALTリンパ腫(抗ウイルス療法にて完全奏効後)
- ⑰慢性リンパ性白血病数例+有毛細胞白血病

病1例

- ⑩低リスクMDS数例

7) その他(主科にて治療、短期経過観察)

- ⑫AIHA1例
- ⑰好酸球増多症候群2例
- ⑱相対的又は二次性赤血球増加症5例

その他、下記の患者さんを他院から受け入れました。

- ⑲慢性骨髄単球性白血病1例
- ⑳重症AA1例
- ㉑MM2例(経口剤治療)

今後の展望

高リスクMDS患者さんへの脱メチル化剤ぐらいは月1回週5日連日皮下注につき桑名市内の患者さんの通院便宜を図るため、薬剤師・看護師の協力が得られれば当センターでの外来注射剤治療を検討したく思っています。

腎臓内科

スタッフ

部長・ 血液浄化療法室 部長	安富真史	日本内科学会認定総合内科専門医 日本循環器学会認定循環器専門医 日本腎臓学会認定指導医 日本腎臓学会腎臓専門医 日本透析医学会専門医 日本腎代替療法医療専門職推進協会腎代替療法専門指導士 臨床研修指導医講習修了 緩和ケア研修会修了
医	長 横井友和	日本内科学会認定内科医
医	長 西田順二	日本内科学会認定内科医 日本腎臓学会腎臓専門医 日本透析医学会専門医 PKD認定医 日本救急医学会認定ICLS・BLSコースインストラクター 緩和ケア研修会修了
医	長 三浦翔子	日本内科学会総合内科専門医・認定内科医 日本腎臓学会腎臓専門医 日本透析医学会専門医 緩和ケア研修会修了
	秋山言宇（2022年4月1日～）	緩和ケア研修会修了

診療科の特色・診療対象疾患

三重県北勢地域の腎臓内科の中心的な役割を果たすべく慢性腎不全・慢性腎炎などの治療を積極的に行っています。

また、総合病院では珍しく外来維持透析にも力をいれており、数多くの維持透析患者の治療にあたっています。

年度回顧

後期研修医が2名専攻し、5名体制での診療となりました。5名の内2名の医師が新たに専門医の資格を取得し、腎臓内科専門医・透析専門医が3名体制となりました。

また、腎代替療法選択外来などが軌道にのり、在宅血液透析の開始なども経験でき充実した1年となりました。コロナ禍の下、コロナ感染透析も多数こなし、感染透析の経験もつむことができ、大きく成長できた年でした。

活動記録

◆◆診療実績◆◆

腎臓内科カテーテル検査数	402件
腎生検数	28件
腎臓内科手術数	99件
透析導入数	60人
維持透析患者数 (2023年3月31日現在)	138人

今後の展望

桑名市を含めた北勢地区の中で存在感を増すため、専門ホームページなどの作成を行い、より腎臓内科としての地位の確立を目指していきます。

呼吸器内科

スタッフ

部長 油田尚総 医学博士
日本内科学会認定総合内科専門医
日本呼吸器学会認定呼吸器専門医・指導医
日本呼吸器内視鏡学会認定気管支鏡専門医・指導医
日本感染症学会認定感染症専門医・指導医
日本化学療法学会認定抗菌化学療法指導医
日本化学療法学会認定抗菌薬臨床試験指導医
日本結核病学会認定結核・抗酸菌症指導医
日本がん治療認定医機構がん治療認定医
日本感染症学会認定ICD(Infection Control Doctor)

部長 蛸原愛子 医学博士
日本内科学会認定総合内科専門医・指導医
日本呼吸器学会認定呼吸器専門医
日本呼吸器内視鏡学会認定気管支鏡専門医
日本がん治療認定医機構認定医
日本化学療法学会抗菌化学療法認定医
日本結核病学会結核・抗酸菌症認定医
日本感染症学会認定ICD(Infection Control Doctor)
緩和ケア研修会修了

平井貴也 緩和ケア研修会修了

八木昭彦（～2023年3月31日） 緩和ケア研修会修了

非常勤……………4名

診療科の特色・診療対象疾患

呼吸器疾患全般に対応していますが、対象患者数に対し常勤医師数が不十分であり、対応しきれない場合が生じており、ご迷惑をおかけいたしております。

年度回顧

4月から平井医師が参加していただき常勤4名体制となりました。

活動記録

◆◆症例数◆◆

	常勤 医師	入院患者 (年間)	呼吸器 内視鏡検査
2018年	2名	194名	145件
2019年	2名	237名	145件
2020年	2名	207名	156件
2021年	3名	331名	137件
2022年	4名	445名	161件

今後の展望

業務を継続することです。

小 児 科

スタッフ

部 長 森谷 朋子

小児科専門医
新生児蘇生法専門コースプロバイダー
オンライン診療研修修了
臨床研修指導医講習修了

部 長・ 馬路 智昭
周産母子センター長

小児科専門医・指導医
日本周産期・新生児医学会認定周産期(新生児)専門医
日本小児救急医学会SIメンバー・代議員
出生前コンサルタント小児科医
新生児蘇生法専門コースインストラクター
アメリカ心臓協会認定BLSインストラクター
アメリカ心臓協会認定PALSインストラクター
アメリカ心臓協会認定PEARSインストラクター
三重県災害時小児周産期リエゾン
身体障害者福祉法第15条第1項による指定医師
プログラム責任者養成講習会修了
臨床研修指導医講習会修了
三重大学医学部臨床講師

部 長 山本和歌子 医学博士
(2022年4月1日～)

小児科専門医・指導医
日本周産期・新生児医学会認定周産期(新生児)専門
医・指導医
身体障害者福祉法第15条第1項による指定医師
難病指定医
小児慢性特定疾病指定医
三重県災害時小児周産期リエゾン
新生児蘇生法専門コースインストラクター
臨床研修指導医講習修了

部 長 大槻 静

小児科専門医・指導医
新生児蘇生法専門コースプロバイダー
オンライン診療研修修了
臨床研修指導医講習修了

部 長 間宮 範人

小児科専門医
身体障害者福祉法第15条第1項による指定医師
新生児蘇生法専門コースプロバイダー
オンライン診療研修修了
臨床研修指導医講習修了

医 長 山田 菜美

新生児蘇生法専門コースプロバイダー
アメリカ心臓協会認定PALSプロバイダー

医 長 安田 泰明
(2022年7月1日～2023年3月31日)

日本小児科学会小児科専門医

堀口 駿一 (2022年7月1日～)

新生児蘇生法専門コースプロバイダー
緩和ケア研修会修了

須藤 直樹 (~2022年6月30日)

若林 えりこ (~2022年6月30日)

二宮 隆仁 (~2022年6月30日)

新生児蘇生法専門コースプロバイダー
JPTECプロバイダーコース修了
MCLSコース修了
嚥下機能評価研修会修了

非常勤……………4名

診療科の特色・診療対象疾患

当センターの周産母子センターはNICU(新生児集中治療室)9床が認可されており、治療・管理が必要な新生児に24時間体制で対応しています。

一般小児病棟では急性疾患や慢性疾患を中心に入院治療を行っています。

外来では神経疾患、循環器疾患、腎疾患、アレルギー疾患、内分泌疾患などの診療や、NICUフォローアップ外来をしています。

年度回顧

2018年5月新病院オープン時はNICU6床でしたが、2020年9月に6床から9床に増床しました。2021年度は桑名市内および近隣市町の産科クリニックからの母体搬送が増えています。当センターで出生して急性期にNICU入院後は、産科クリニックと連携して、産後の育児支援を円滑にすすめる事ができるようになりました。

活動記録

◆◆診療実績(2022年度)◆◆

入院	NICU入院数	176例
	6南小児科入院数	239例
外来	在宅療養支援	11例

今後の展望

今後は地域周産期センターとして県からの指定を得て、GCU6床の開設をめざします。

また桑名市内の医療的ケア児の在宅医療サポートのため、2021年度からレスパイト支援事業を始めており、行政や関係機関と協働してこの事業に更に取り組みます。

今後にますます病診連携をすすめて、かかりつけクリニックでは日常診療をお願いして、当センターでは急性疾患の入院加療や慢性疾患の精密検査入院を担当して、地域の小児医療に尽くしてまいります。

産婦人科

スタッフ

部長 千田時弘

日本産科婦人科学会産婦人科専門医・指導医
日本婦人科腫瘍学会婦人科腫瘍専門医
日本産科婦人科内視鏡学会腹腔鏡技術認定医
母体保護法指定医
日本がん治療認定医機構 がん治療認定医
ダヴィンチサージカルシステム術者認定
新生児蘇生法専門コースプロバイダー
JPTECプロバイダー
ICLSプロバイダー
TNT(Total Nutrition Therapy)プロジェクト終了医師
JOGa_器質性月経困難症に対する適正なホルモン療法
等に係る研修 修了
緊急避妊の処方にかかるオンライン診療研修修了
オンライン診療研修修了
臨床研修指導医講習修了
緩和ケア研修会修了

部長 平田 徹 (～2023年3月31日)

日本産科婦人科学会産婦人科専門医・指導医
日本婦人科腫瘍学会婦人科腫瘍専門医
JOGa_器質性月経困難症に対する適正なホルモン療法
等に係る研修 修了
日本がん治療認定医機構日本がん治療認定医
臨床研修指導医講習修了
三重大学医学部臨床教授

医 長 手石方康宏 (2022年11月1日～)

日本産科婦人科学会産婦人科専門医
日本がん治療認定医機構がん治療認定医
日本産科婦人科内視鏡学会腹腔鏡技術認定医
ダヴィンチサージカルシステム術者認定
緩和ケア研修会修了

医 長 脇坂太貴

日本産科婦人科学会産婦人科専門医
日本がん治療認定医機構日本がん治療認定医
JOGa_器質性月経困難症に対する適正なホルモン療法
等に係る研修 修了
日本DMAT隊員
ダヴィンチサージカルシステム助手認定資格
緩和ケア研修会修了

医 長 二村 涼 (～2023年3月31日)

日本産科婦人科学会産婦人科専門医
新生児蘇生法専門コース修了
臨床研修指導医講習修了
ダヴィンチサージカルシステム術者認定
緩和ケア研修会修了

榑原 康平

新生児蘇生法専門コース修了
ダヴィンチサージカルシステム助手認定資格
緩和ケア研修会修了

杉本 賢政 (2022年4月1日～)

ダヴィンチサージカルシステム助手認定資格
緩和ケア研修会修了

非常勤……………1名

診療科の特色・診療対象疾患

地域中核総合病院の産婦人科として、主に産科、婦人科、女性医学領域を主体に診療しています。産科ではNICU(新生児集中治療室)を併設した周産期センターとして地域のハイリスク妊婦や合併症妊娠を中心に診療に当たっています。

婦人科では子宮頸癌、卵巣癌、子宮体癌等の婦人科悪性腫瘍に加え、良性疾患に対しては低侵襲手術としてDa Vinciを用いたロボット支援手術、腹腔鏡下手術、子宮鏡下手術の実施可能であり各症例に応じて最適な治療を選択しています。

婦人科では従来の腹腔鏡を用いた手術に加えロボット支援手術を積極的に進めています。ロボット支援手術では術中出血量や術後疼痛の軽減、入院日数の減少が期待でき、今後さらなる症例数の増加が期待されています。

活動記録

◆◆産科実績◆◆

年 度	2022	2021	2020
分 娩 数	319	293	302
帝王切開数	121	111	116
母体搬送数	44	55	28
早 産	30	43	37
多 胎	8	13	10
無 痛 分 娩	7	13	2

年度回顧

2022年度は新型コロナウイルス流行や分娩数減少の影響を受けた1年でした。

その中で当科として提供可能な診療を拡大・維持するために、産科部門では無痛分娩を24時間対応可能とし、結果的に無痛分娩の症例数が著しく増加傾向にあります。また、胎児超音波を用いた出生前検査の拡充を進めています。さらに新しい中絶方法である経口中絶薬のメフィーゴパック®を導入致しました。

◆◆手術実績◆◆

年 度	2022	2021	2020
全手術件数	404	398	445
悪性腫瘍手術	43	59	41
腹腔鏡下手術	154	123	139
子宮鏡下手術	21	19	20

◆◆その他実績◆◆

年 度	2022	2021	2020
入院化学療法	41	51	53
外来化学療法	152	175	128
放射線治療	7	16	17
子宮動脈塞栓	7	4	1
子宮内膜焼灼	4	2	1

今後の展望

産婦人科では新しい治療やデバイスの誕生、そして患者からのニーズの多様性から我々産婦人科に求められているレベルが年々高くなっている印象があります。

そういった時代の潮流の中で、我々の責務である『地域の方々の健康を守る』ために、地域の先生方とは顔の見える地域連携医療を進めていきます。まだ発展途上ではありますがご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

消化器外科・一般外科・乳腺外科

スタッフ

病 院 長 登 内 仁 医学博士

日本外科学会認定外科専門医・指導医
日本消化器外科学会認定消化器外科専門医・指導医
日本消化器病学会認定消化器病専門医
日本大腸肛門病学会認定大腸肛門病専門医
消化器がん外科治療認定医
臨床研修指導医講習修了
緩和ケア研修会修了
三重大学客員教授

副 病 院 長 町 支 秀 樹 医学博士

日本外科学会認定外科専門医・指導医
日本消化器外科学会認定消化器外科専門医・指導医
日本消化器病学会認定消化器病専門医・指導医
日本肝臓学会認定肝臓専門医・指導医
日本感染症学会認定ICD(Infection Control Doctor)
日本慢性期医療協会認定医
検診マンモグラフィ読影認定医師
臨床研修指導医講習修了
緩和医療認定医 研修指導者講習会修了
緩和ケアの基本教育に関する指導者研修会修了
緩和ケア研修会修了
三重大学医学部臨床講師・非常勤講師

部 長 鈴 木 秀 郎 医学博士

日本外科学会認定外科専門医
日本消化器外科学会認定消化器外科専門医・指導医
日本消化器病学会認定消化器病専門医
日本病理学会認定病理専門医
日本乳癌学会乳腺専門医・認定医
TNT(Total Nutrition Therapy)プロジェクト終了医師
検診マンモグラフィ読影認定医師
日本医師会認定産業医
日本臨床栄養代謝学会認定医
日本DMAT隊員
臨床研修指導医講習修了
緩和ケア研修会修了

部 長 小 西 尚 巳 医学博士

日本外科学会認定外科専門医・指導医
日本消化器外科学会認定消化器外科専門医・指導医
日本消化器病学会認定消化器病専門医
日本乳癌学会認定乳腺専門医
日本がん治療認定医機構 がん治療認定医
検診マンモグラフィ読影認定医師
緩和ケア研修会修了

部 長	高橋直樹	医学博士	日本外科学会認定外科専門医 日本消化器外科学会認定消化器外科専門医・指導医 日本消化器病学会認定消化器病専門医 消化器がん外科治療認定医 日本肝臓学会認定肝臓専門医 がんのリハビリテーション研修修了 臨床研修指導医講習修了 緩和ケア研修会修了
部 長	杉澤文	医学博士	日本外科学会認定外科専門医・指導医 日本大腸肛門病学会認定大腸肛門病専門医・指導医 日本がん認定医機構がん治療認定医 日本消化器外科学会認定消化器外科専門医 消化器がん外科治療認定医 日本乳癌学会乳腺認定医 日本化学療法学会抗菌化学療法認定医 緩和ケア研修会修了
部 長	肥満智紀		日本外科学会認定外科専門医 緩和ケア研修会修了
部 長	水越幸輔	医学博士 (2022年7月1日～)	日本外科学会認定外科専門医 日本内視鏡外科学会技術認定医・評議員 日本消化器内視鏡学会認定消化器内視鏡専門医 日本消化器病学会認定消化器病専門医 日本大腸肛門病学会認定大腸肛門病専門医 日本がん治療認定医機構がん治療認定医 三重がんリハビリテーション研修修了 ダヴィンチサージカルシステム術者認定 臨床研修指導医講習修了 緩和ケア研修会修了
部 長	岩永孝雄	(～2022年6月30日)	日本外科学会専門医・認定医 日本消化器外科学会専門医・指導医 日本大腸肛門病学会専門医・指導医 日本臨床肛門病学会技能指導医 健診マンモグラフィ読影認定医師 消化器がん外科治療認定医 臨床研修指導医講習修了 緩和ケア研修会修了
医 長	岡部雄介	(2022年10月1日～)	日本外科学会認定外科専門医 緩和ケア研修会修了
医 長	市川崇	(～2023年3月31日)	日本外科学会外科専門医 日本食道学会食道科認定医 日本消化器外科学会専門医 日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医 臨床研修指導医講習修了

篠田 真里 (2023年1月1日～)

ダヴィンチサージカルシステム助手認定資格
緩和ケア研修会修了

加納 収 (~2022年9月30日)

緩和ケア研修会修了

非常勤……………2名

診療科の特色・診療対象疾患

当科は、三重大学 現 肝胆膵移植外科、旧第1外科医局と三重大学 現 消化管・小児外科、旧第2外科の2つの外科医局が県内初で一緒に仕事することになり、診療対象疾患は消化器疾患(食道、胃、小腸、大腸、肛門、肝、胆嚢、膵臓)に加えて乳腺疾患と広範囲となりました。がんに対してはガイドラインに準拠し、必要ならば化学療法、放射線治療を手術とともに計画し集学的治療に努めています。病理専門医が常勤しており、術中迅速病理診断(センチネルリンパ節生検など)が可能でより正確な根治手術を行っています。術式に関してはmajor surgeryとして食道癌手術、肝癌に対して肝切除、膵胆道癌に対して膵頭十二指腸切除など高難度手術を行なっています。胃癌・大腸癌の一部、良性疾患の虫垂切除、胆道良性、ヘルニアは術後QOL向上のため低侵襲の鏡視下手術を中心に行っています。更に近年、鏡視下手術の欠点を克服したロボット支援手術が、保険収載されて全国的に増加してきておりました。当センターでも2022年7月よりロボット支援手術(ダヴィンチシステム)の導入となり、当科も10月より直腸癌のロボット支援手術を開始しました。乳癌根治術には、整容性を考えた乳房温存療法、乳房再建術を積極的に行っています。また、救急医療に関して日勤帯でも救急番を決めて外

科系救急患者を診察し、緊急手術に積極的に対応しています。

年度回顧

コロナ禍の第6波の中で2022年度の幕明けとなりました。登内院長にはその後、第7波、第8波と襲来するコロナ禍で様々な対策を練り、病院の舵取りをして頂きました。2021年度同様にコロナ対策で手術はBCPのC対応(緊急手術とがん手術のみ)を余儀なくされ、手術数はのびませんでした。しかしながら、オミクロン株になり、重症例は減少し、2022年度末にはコロナ5類引き下げやポストコロナと言われるようになり、手術症例数は徐々に増えてきました。

活動記録

手術症例総数は2018年(1-12月)778例、2019年(1-12月)1,145例、2020年(1-12月)911例、2021年(1-12月)965例、2022年(1-12月)920例とコロナ禍の影響がありますが、健闘しました。また、多忙の中、当科業績にあるように全国学会への演題発表や論文発表を続けています。

今後の展望

手術に関してはこれまで通りに待機手術、緊急手術に頑張っていきたいと思っています。また、ロボット支援手術も適応を拡大していきたいように準備を進めていきたいと思っています。医師の働き方改革が厚労省により推進されてきています。ワークシェアや当直翌日に昼から休みにすることや、夏休みも有給休暇と併せて各自1週間は確保できるようにしてリフレッシュして仕事に打ち込める体制を持続していきたいと思っています。

全国的に外科医師数の減少傾向が認められ外科診療の存続が危ぶまれています。当センターは14人(フルマッチ)の卒後研修医を迎えており、初期研修医は総勢26人でほぼ毎月、当科にきてくれて、積極的に外科研修に取り組んでもらっています。教育・指導面を充実させてこの中から1人でも多く外科を志望して入局してもらい外科専門医を育成していきたいと考えております。

心臓血管外科・呼吸器外科

スタッフ

胸部外科部長・湯浅右人 医学博士
集中治療室部長

日本胸部外科学会認定医・専門医会員
日本外科学会認定外科専門医・指導医
日本心臓血管外科専門医・修練指導者
日本脈管学会認定脈管専門医・指導医
下肢静脈瘤に対する血管内焼灼術実施医・指導医
臨床研修指導医講習修了
弾性ストッキング・圧迫療法コンダクター講習会修了
三重大学胸部心臓血管外科臨床講師
緩和ケア研修会修了

呼吸器外科部長 天白宏典 医学博士
(2022年4月1日～)

日本外科学会認定外科専門医・指導医
日本呼吸器外科専門医・呼吸器外科学会評議員
日本胸部外科学会専門医会員
緩和ケア研修会修了
臨床研修指導医講習修了
三重大学胸部心臓血管外科臨床講師

非常勤……………2名

診療科の特色・診療対象疾患

心臓血管外科は、成人心臓疾患・大動脈疾患・末梢動脈疾患・静脈疾患の治療を行っています。呼吸器外科は、肺悪性腫瘍・気胸・縦隔腫瘍・胸壁腫瘍・膿胸/肺化膿症・胸部外傷を対象としています。

年度回顧

呼吸器外科では新任医師の着任に伴い、2023年1月より待望のロボット支援による肺がん手術を開始しました。しかし、Covid-19流行のための入院・手術制限の影響で、手術件数は微増となっています。

活動記録

◆◆診療実績◆◆

手術件数	2022年度
胸腔鏡下肺悪性腫瘍切除術	47例
うちロボット支援手術	5例
肺悪性腫瘍・開胸手術	6例
縦隔腫瘍手術	4例
気胸手術	21例
膿胸手術	3例
その他良性呼吸器疾患手術	6例
末梢動脈手術	21例
静脈瘤手術	37例
その他	6例
合計	156例

今後の展望

心臓血管外科では循環器内科と合同で下肢脈管疾患治療に力を入れています。呼吸器外科はロボット支援手術を導入しており、今後も積極的に使用していく予定です。

整形外科・リウマチ科

スタッフ

部長 中瀬古健 医学博士
日本整形外科学会認定専門医
日本整形外科学会認定スポーツ医
日本整形外科学会認定リウマチ医
日本整形外科学会認定運動器リハビリテーション医
日本リウマチ学会専門医・指導医
日本骨粗鬆症学会認定医
臨床研修指導医講習修了
三重大学医学部臨床教授

部長 松田理
日本整形外科学会認定専門医
日本リウマチ財団リウマチ登録医
日本整形外科学会認定スポーツ医
日本整形外科学会認定リウマチ医
日本整形外科学会認定運動器リハビリテーション医
難病指定医
臨床研修指導医講習修了
三重大学医学部臨床教授

部長 岡村直樹 医学博士
日本整形外科学会認定専門医
日本整形外科学会認定スポーツ医
日本整形外科学会認定リウマチ医
日本整形外科学会認定運動器リハビリテーション医
日本人工関節学会認定医
日本体育協会認定スポーツドクター
義肢装具等適合判定医
臨床研修指導医講習修了
自家培養軟骨実施医講習修了
三重大学医学部臨床教授

部長 松井佑梨世 医学博士 日本整形外科学会認定専門医

半田忠幹 (2022年4月1日～)

非常勤……………4名

診療科の特色・診療対象疾患

当科では、高齢者の骨折を中心に、交通事故・スポーツなどによる一般的な外傷に対する治療を行っています。また、当センターの柱である救急医療の整備に伴い、救急からの外傷の患者さんを迅速かつ的確に診断し、治

療へと進めていくことを行っています。近隣の開業医からの紹介にも対応して、種々の検査を行い、治療をしていきます。

膝、股関節を中心とした変形性関節症に対しても保存的加療、手術的加療を考えて治療していきます。人工関節外来を行っており、変形が進行し、痛みが強い患者さんは開業医

から紹介していただき、積極的に手術を勧めています。年間股関節・膝関節を合わせて60件以上の人工関節置換術を行っています。症例に応じては、骨切り術も行っています。

リウマチ、骨粗鬆症などの治療も行っています。骨粗鬆症は、大腿骨近位部骨折をきたして入院、手術的加療を行った患者さんに、積極的治療を開始しています。

小児科の充実に伴い、小児の整形外科疾患の診断、治療も行い、専門的な治療が必要であれば適切な専門病院へ紹介し、治療を行います。

リハビリテーションも理学療法士、作業療法士と連携を取りながら、日常生活の動作が向上するように入院、外来にて患者さんに合った治療を選択しています。

主な診療内容・対象疾患

◆高齢者の骨折◆

(大腿骨近位部骨折、橈骨遠位端骨折、圧迫骨折、上腕骨近位端骨折)

寝たきりにならないように早期の手術的加療を心がけ、早期のリハビリ、回復期リハビリ病院での加療を考えていきます。圧迫骨折は骨折の形により、安静度を考え、適切な治療を心がけます。

特に大腿骨近位部骨折は早期手術的加療が推奨されているため、麻酔科と相談し、手術室が可能であれば、当日もしくは次の日の手術を計画し、早期治療を心がけています。

◆上肢、下肢の骨折◆

転位の状態にて保存的加療か手術的加療かを考えて早期復帰を目指して治療します

◆変形性関節症◆

(股関節、膝関節)

開業医にて保存的加療を行ってきて、変形

が強くなり、痛みが伴ってきた患者さんは、紹介していただき、積極的に手術的加療を行っています。人工関節外来があり、患者さんの状態に応じて、保存的加療の継続、骨切り術、人工関節置換術を選択しています。

◆関節リウマチ◆

膠原病リウマチ内科と密な連携を取り、外科的な処置が必要な患者さんは適切な時期に適切な手術を行います。

◆骨粗鬆症◆

開業医と連携し、骨密度検査を行い、骨粗鬆症の状態を把握して、患者さんにあった適切な治療を行います。

大腿骨近位部骨折で入院された患者さんで骨粗鬆症の治療がされていない患者さんは、積極的に薬物治療を開始しています。

◆スポーツ障害◆

膝関節などを中心に手術適応を適切に判断し、リハビリに通える方はリハビリにての加療も行ない、早期スポーツ復帰を目指します。

◆小児の骨折◆

麻酔科医が常勤しているため、準緊急にての対応はでき、症例に応じては手術的加療も積極的に行います。

◆脊椎、脊髄疾患◆

的確な画像診断を行い、基本的には保存的加療にて加療します。症状が軽快しない方、早期手術を望まれる方は十分に相談の上、脊椎・脊髄専門医に紹介して加療していきます。

◆腫瘍◆

MRIを用いた画像診断をもとに、良性腫瘍であれば摘出も考えた治療を行います。悪性腫瘍が疑わしい場合は、大学病院を紹介し、今後の治療を決定していただき、当科でもできる限りの経過観察を行います。

年度回顧

2022年度もコロナ感染者の対応をしながらも、通年と変わらない手術件数を行ってきました。外傷による手術は救急、開業医から紹介していただき、減ることもなく、忙しい毎日をおくりました。人工関節置換術も手術待機が出るくらい、順調に手術件数は増えており、当科の柱となっています。研修医も毎月ローテーションしてもらい、救急での外傷の処置ができるように学んで、整形外科疾患を理解してもらいました。

手・肘外科	
絞扼性神経障害・腱鞘炎	97例
腱	2例
その他	2例
腫瘍	
良性腫瘍手術	14例
骨折手術(大腿骨近位部骨折を除く)	
上肢	217例
下肢	93例
骨盤	2例
その他	37例
計	699例

活動記録

◆◆手術実績◆◆

股関節	
primary THA	35例
revision THA	2例
その他	7例
大腿骨近位部骨折	
人工骨頭置換術	53例
骨接合術	76例
膝関節	
primary TKA	41例
revision TKA	1例
靭帯手術、半月板手術	8例
UKA	4例
足関節	
関節固定術	1例
外反母趾	1例
肩関節	
人工骨頭・関節	4例
腱板	1例
肩関節脱臼	1例

今後の展望

変形性関節症で手術が必要と思われる患者さんを、今まで以上に開業医から紹介をしていただき、人工関節置換術を充実していくことが出来ればと思っています。

また、救急外来からの外傷は断りを少なくし、早急に対応、手術的加療をしていく態勢を維持していきます。特に高齢者の大腿骨近位部骨折は、麻酔科や内科と連携し、一日でも早い手術を計画し、寝たきりにならないように治療していき、早期に回復期リハビリ病院などへの転院を計画していきます。

研修医にはローテーションして、整形外科を学んでもらっているのでも、救急の場にて生かせるような指導をするつもりです。その中で、整形外科に興味がある研修医がいれば、整形外科に進んでいただき、今後の桑名の整形外科を託すことが出来る整形外科医に育てなければよいと考えています。

脳卒中センター・脳神経外科

スタッフ

脳卒中センター

(脳神経外科：常勤5名、非常勤3名)

(脳神経内科：常勤3名、非常勤2名)

脳神経外科

副院長

阪井田博司

医学博士

日本脳神経外科学会認定脳神経外科専門医・指導医

日本脳神経血管内治療学会専門医・指導医

脳卒中センター長

日本脳卒中の外科学会技術指導医

部 長

三重大学客員教授

三重大学医学部臨床教授

部

長

黒木香行

医学博士

日本脳神経外科学会認定脳神経外科専門医・指導医

日本脳卒中学会認定脳卒中専門医・指導医

日本神経内視鏡技術認定医

日本抗加齢医学会専門医

日本頭痛学会認定 頭痛専門医・指導医

日本頭痛学会代議員

ITB療法講習会修了

臨床研修指導医講習修了

緩和ケア研修会修了

部

長

濱田和秀

医学博士

日本脳神経外科学会認定脳神経外科専門医・指導医

日本脳神経血管内治療学会専門医

緩和ケア研修会修了

部

長

岡田 健 (～2023年3月31日)

日本脳神経外科学会専門医

日本内科学会認定内科医

日本脳卒中学会専門医

第1回中部ブロックDMAT技能維持研修修了

緩和ケア研修会修了

中井 亨

(2022年4月1日～2023年3月31日)

診療科の特色・診療対象疾患

脳神経外科が扱う主な疾患は、脳血管障害・脳腫瘍・頭部外傷・脊椎脊髄疾患・末梢神経障害・機能的脳神経外科疾患(三叉神経痛・顔面けいれん等)などがあります。この中で取り分け緊急性が高い急性脳血管障害は一般的に脳卒中と呼ばれ、脳梗塞・脳出血・クモ膜下

出血に分かれます。専門的な知識と経験を有する多職種スタッフを集め、診断・治療器機を整備して日本脳卒中学会認定「一次脳卒中センター」として脳神経外科と脳神経内科が共に活動しています。

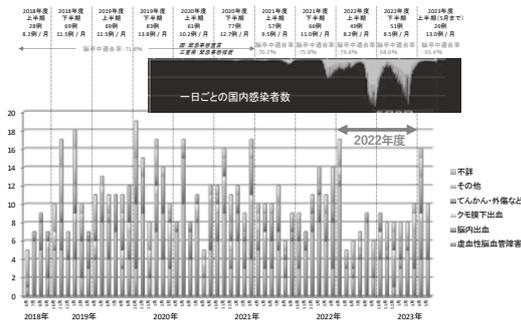
年度回顧・活動記録

平成30年(2018年)5月に新病院が開院後、年々増加傾向にあった入院患者数・外科的治療件数が新型コロナの影響で令和3年度(2021年度)に始めて減少傾向となり、令和4年度(2022年度)は不要・不急の検査・治療を控える診療制限とスタッフの健康問題が重なり前年度よりさらに減少しました。特に脳卒中ホットラインを介する救急要請件数が新型コロナの蔓延状況に反比例して如実に減少しましたが、2022年度終盤には若干回復傾向となりました。

◆◆新型コロナとホットライン件数◆◆

脳卒中ホットライン 運用実績 (2018年6月18日～2023年5月31日)

- 1) 総計637例 / 59ヶ月(10.8件/月)
- 2) 内訳: 虚血性脳血管障害276例・脳内出血157例・クモ膜下出血26例・てんかん等78例・その他83例・不詳17例
- 3) 脳卒中適合率: 72.1% (459例 / 637例)



2022年度は新型コロナ第6～8波の影響で社会生活が制限され、脳卒中が減少し脳卒中ホットラインの要請件数が顕著に減少しました。

◆◆入院実績◆◆ (カッコ内は神経内科入院)

入院患者数	689(115)
クモ膜下出血	37(1)
脳出血	80(8)
虚血性脳血管障害	297(106)
未破裂脳動脈瘤	70(0)
血管奇形・動静脈瘻	4(0)
脊椎・脊髄疾患	32(4)
脳腫瘍	38(2)

◆◆外科的治療・rt-PA静注療法◆◆

外科的治療総数	303
直達手術	203
破裂・未破裂脳動脈瘤	7
脳出血	14
内頸動脈狭窄・解離	5
脳腫瘍	13
血管内治療	100
破裂脳動脈瘤	20
未破裂脳動脈瘤	18
頸動脈狭窄・解離	25
血栓回収療法	26
rt-PA静注療法	19

診療体制の諸問題から学術的活動は最小限となり「脳卒中センター市民公開講座」は延期のまま、センター内外の教育や連携強化を目的とした「Strokeカンファレンス」も新型コロナの蔓延状況に応じて中断・再開を繰り返しました。

◆◆2022年度Strokeカンファレンス◆◆

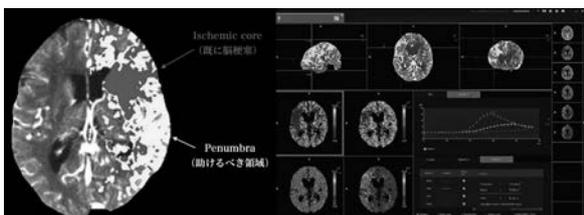
	日時	テーマ
第26回	2022年 5月16日	生理検査室の 活動状況
第27回	2022年 6月20日	脳卒中センターの意義
第28回	2022年 10月17日	新救急外来体制
第29回	2022年 11月21日	抗血栓療法と中和薬
第30回	2023年 1月16日	rt-PA静注療法の 適応
第31回	2023年 2月13日	急性期主幹動脈 再開通療法の適応
第32回	2023年 3月13日	院内発症ストローク 再検証

◆◆脳卒中の画像診断◆◆

脳卒中患者は脳梗塞・脳出血・クモ膜下出血の病態を正確に診断して治療方針を即時に決めなければいけません。2018年5月に新病院が開院した当時は慣れないスタッフが多かったため、診断にかかる時間の短縮より1)スタッフ教育、2)精度の高い診断、3)適切な治療法の選択を優先する必要性がありました。そのため時間の遅れは否めませんがCTとMRIを併用して画像診断を行っていました。徐々にスタッフが経験を積み、新型コロナの影響で予定より半年遅れましたが、時間短縮を主目的として2021年1月よりCT・造影CTで診断を行うプロトコルを開始しました。



脳梗塞の場合「Perfusion CT(灌流CT画像)」という造影CTの撮像法を用いてrt-PA静注療法や主幹動脈再開通療法(機械的血栓回収療法)の適応を診断します。しかし当センターの「Perfusion CT」は撮像範囲が限定的であったため2022年9月より「syngo CT Neuro Perfusion」というソフトを導入し、より早く正確に脳梗塞急性期治療の判断ができるようになりました。



今後の展望

新型コロナの蔓延状況に合わせ診療業務を制限せざるを得ない時期がありましたが、2023年5月第5類感染症移行に伴い通常業務体制に戻りつつあります。脳卒中患者の発生件数も徐々に増加傾向となり、混乱を極めた現場の体制を再度整備し直す必要性があると考えています。

また新型コロナのため延期していた「脳卒中センター第3回市民公開講座」を2023年10月21日(土)に開催し、市民への啓発活動を再開します。中断・再開を繰り返していた毎月第三月曜日の「Strokeカンファレンス」は2023年度に入ってから安定して開催できしており、救急隊との「脳卒中ホットラインの検証」や病院スタッフへの周知活動が必要な「院内発症ストロークの検証」など早々に取り上げ、病院内外の体制を改善するための活動を再開していきます。また足踏み状態であった研究や学術的な活動も再開していく必要性が高いと考えています。

また重要課題として脳血管撮影装置の更新があり、高額機器のため病院・桑名市と検討が必要な時期に入ったと考えています。

脳神経内科

スタッフ

部長 大達清美 医学博士
日本神経学会認定神経内科専門医・指導医
日本内科学会認定総合内科専門医
日本リハビリテーション医学会認定リハビリテーション科専門医・指導医
日本認知症学会認定認知症専門医・指導医
臨床研修指導医講習修了
緩和ケア研修会修了

部長 古田智之
日本神経学会認定神経内科専門医・指導医
日本内科学会認定総合内科専門医・認定内科医
日本臨床神経生理学会専門医
日本脳卒中学会認定脳卒中専門医
オンライン診療研修修了
臨床研修指導医講習修了

医長 宮下 紘一 (2022年4月1日～)
日本神経学会認定神経内科専門医
日本内科学会認定内科専門医
難病指定医
緩和ケア研修会修了

非常勤……………2名

診療科の特色・診療対象疾患

当科は、脳卒中センターの中で主に脳梗塞の入院治療に携わっています。また、パーキンソン病や筋萎縮性側索硬化症といった神経変性疾患、中枢・末梢神経免疫疾患、神経筋疾患、てんかんなどの入院・外来診療を行っています。高齢化に伴い増加する認知症については、物忘れ外来を開設し、病棟では定期的に多職種で認知症ケアラウンドを行っています。また、脳卒中や誤嚥性肺炎の嚥下障害の評価や訓練にも携わっています。

座教授として、当センターの物忘れ外来とリエゾンに携わっていただいています。認知症ケアラウンドも高齢化、複雑な社会的・疾患背景があり、精神科・リエゾンのかかわりが不可欠になっていて、多職種カンファレンスに田中先生が加わっていただくことで、考え方に深みが出てきたように思います。

活動記録

◆◆診療実績◆◆

	2022年度
神経伝導検査(読影)	216
脳波(読影)	312
針筋電図	15
筋生検	3
嚥下造影	56

年度回顧

2022年4月から大阪大学精神科から田中稔久先生が三重大学医学部神経・筋病態学講

◆◆入院・外来◆◆

	2022年度
入院患者数(総数)	335
脳卒中	102
神経疾患	172
内科疾患	51
外来患者数(のべ)	6,038
新患患者	455
うち紹介患者	219

今後の展望

コロナ禍で制限していた学会活動を再開し、個人の知識やスキルの向上を促す一方で、「働き方改革」に則った社会生活の充実が図れるような環境作りに取り組みたいです。

また、当科は多くの診療科と境界をもつ希少疾患が多いことから、医師会や桑員地区の医療機関にむけての発信を増やしていけるように、努めてまいります。

眼 科

スタッフ

部 長 小澤 摩記

日本眼科学会認定眼科専門医
PDT認定医
補装具適合判定研修修了
身体障害者福祉法第15条第1項の規定による医師
小児慢性特定疾病指定医
臨床研修指導医講習修了

医 長 若松 泰子

日本眼科学会認定眼科専門医
身体障害者福祉法第15条第1項の規定による医師
小児慢性特定疾病指定医

医 長 太田 晶子 (2022年7月1日～)

非 常 勤…………… 3名
視 能 訓 練 士(常勤)…… 3名

診療科の特色・診療対象疾患

当科では、外眼部から網膜まで、さらには小児からご高齢の方まで幅広く診療し、診断から手術加療までを当センターで完結できることを目標にしています。クリニックでは、対応困難な難症例も積極的に手術しています。

◆診療対象疾患◆

網膜疾患（加齢黄斑変性、糖尿病網膜症、黄斑円孔、黄斑前膜、網膜剥離など）
サージカル、メディカルともに全般）、緑内障、白内障、
外眼部疾患（眼瞼下垂、眼瞼内反、眼瞼腫瘍など）、
神経眼科、小児眼科、斜視

年度回顧

コロナ禍で、入院や手術の制限があり、大変でしたが、なんとか手術件数は維持できました。

7月からは、常勤医師が3名となったものの、

産休のため11月から再び2名体制となりました。

外来数は、コロナでも思ったより減少せず、毎日忙しく過ごす日々でした。

活動記録

◆◆診療実績◆◆

	2022年度
白内障手術	525件
硝子体手術	52件
網膜復位術	1件
緑内障手術	11件
斜視手術	3件
眼瞼手術	4件
翼状片手術	4件
眼瞼結膜腫瘍手術	8件

今後の展望

今後も高齢化の進行で、白内障など加齢によって生じる疾患は増加していきます。認知症がある、全身疾患があるなど問題を抱えた方も多くなり、色々な事情のある患者さんに安心して治療をうけていただけるような診療体制を整えていきます。また、低視力の患者さんにも寄り添い、少しでも日常生活が送りがやくなるように、ロービジョン外来を充実させます。小児の斜視外来も開設予定です。

今後も、桑員地区で頼れる病院になるべく診療技術、手術手技を向上させていきたいと思えます。

泌尿器科

スタッフ

部長 小倉友二 医学博士
(2022年7月1日～)

日本泌尿器科学会専門医・指導医
日本泌尿器内視鏡学会泌尿器腹腔鏡技術認定
日本内視鏡外科学会泌尿器腹腔鏡技術認定
日本ミニマム創泌尿器内視鏡外科学会腹腔鏡下小切開手術施設基準医
日本がん治療認定機構がん治療認定医
ダヴィンチサージカルシステム術者認定資格
ダヴィンチサージカルシステム プロクター認定資格
緩和ケア研修会修了

医長 渡邊 晋
(2022年7月1日～2023年3月31日)

ACLS研修会修了
ダヴィンチサージカルシステム術者認定資格
緩和ケア研修会修了

非常勤……………2名

診療科の特色・診療対象疾患

泌尿器科悪性疾患を中心に、泌尿器疾患全般の診療を行っています。2022年からDa Vinci Xiサージカルシステムが導入され、前立腺がんに対するロボット補助下前立腺全摘除術をはじめ、手術の多くをロボット手術で行っています。

尿路結石、小児泌尿器に関しては専門施設に紹介させていただいています。

エビデンスに沿った標準治療、しっかりした病状説明を心掛け、満足度の高い安全な治療が提供できるよう努力しています。

年度回顧

2022年1月から半年間、常勤が不在の状態でしたが、7月から2名体制で再開となりました。

赴任当初は、泌尿器科不在の状態からの再度の立ち上げであり、ストレスフルでした。皆様にはご迷惑をおかけしたかと思えます。7月下旬から、手術を再開。9月6日に当センター1例目のロボット手術となるロボット補助下前立腺全摘除術を無事に施行しました。ロボット手術の導入が順調にできたのは、各部門スタッフの皆様の熱意・ご協力・労を惜しまない献身・協力によるものです。

その後も、ロボット補助下腎部分切除、膀胱全摘除術なども問題なく導入できています。各スタッフに感謝しかありません。

活動記録

◆◆2022年度の主な手術件数◆◆

(2022年7月から2023年3月まで)

ロボット補助下前立腺全摘除術	8例
ロボット補助下腎部分切除	9例
腹腔鏡下腎摘除術	6例
腎尿管全摘除術	3例
膀胱全摘除術	3例
経尿道的膀胱腫瘍切除術	34例
軽会陰的前立腺生検	91例

今後の展望

第二世代のロボット手術オペレーターとして、他の泌尿器科スタッフによるロボット手術の導入を予定しています。安全に導入できるように、厳しく指導するつもりです。また各部門からの厳しいご指導、ご指摘、ご意見をお願いしたいと思います。

学会発表、報告を今年度から積極的に開始していきたいと思っています。

放射線科

スタッフ

部長 川口達也

放射線診断専門医
検診マンモグラフィ読影認定医
プログラム責任者講習会修了
臨床研修指導医講習修了

部長 高野勝弘

放射線診断専門医

医長 永田千里巳

緩和ケア研修会修了

非常勤…………… 8名

診療科の特色・診療対象疾患

放射線科では、画像診断・IVR・放射線治療を担当します。

画像診断ではCT(2管球及び80列マルチスライス)、MRI(3T及び1.5T)、血管造影、核医学検査、マンモグラフィを読影しレポートを作成します。なかでも2管球CTを使用した心臓CTは年間500例施行し、そのうち半数以上の症例でATP負荷を用いた心筋パーフュージョン検査を併用することにより、精度の高い心筋虚血の評価を行っています。

放射線科では主治医のオーダー内容を考慮し、検査のプロトコルの決定等も行います。

IVRは画像診断技術を用いた診療で、放射線科で行うIVRとしては止血術、体内の膿の排泄、がん治療等を、診断としてはCTを用いた生検を行っています。

放射線治療は三重大大学の放射線治療専門医の協力のもとリニアックと呼ばれる装置を用い体外から患部に放射線を当てることにより治療を行います。

年度回顧

2022年度はCTレポート数約23,000件、MRIレポート数約6,800件、核医学レポート数590件を作成し、IVRを約130件、放射線治療を約150件実施しました。

地域の先生方からの紹介による検査は、約2,300件施行しました。

活動記録

三重大学医学部放射線科より後期研修医(放射線科専攻医)を受け入れ、放射線科専門研修の実施を行っています。

初期研修医に対しては研修セミナーの画像診断分野を担当しています。

今後の展望

IVR部門としてラジオ波焼灼術が肺腫瘍・腎腫瘍にも適応が拡大されたことをうけ、当センターでも施行可能となるよう準備を進め

たいと考えています。

放射線治療部門としては大学の協力を得つつ、
放射線治療専門医に常勤していただけるよう求
めたいと考えています。

歯科口腔外科

スタッフ

部 長 加藤 英治

日本口腔外科学会認定医
日本障害者歯科学会認定医
歯科医師臨床研修プログラム責任者
臨床研修指導歯科医講習修了
緩和ケア研修会修了

古島 夏子（～2022年10月31日）

濱口 桂
（2022年10月1日～2023年3月31日）

非 常 勤…………… 3名
歯科衛生士(常勤)…… 3名

診療科の特色・診療対象疾患

当科は桑員地区で唯一の口腔外科を専門に扱う診療科です。歯性感染症、頬骨骨折・上下顎骨骨折・歯の脱臼等の顎顔面外傷、口腔粘膜疾患、口腔領域に生じた良性・悪性腫瘍、智歯などの難抜歯や基礎疾患をお持ちの方の抜歯等の口腔外科手術を主に日々診療しています。治療は外来診療が主ですが、必要に応じて入院管理、全身麻酔下での手術も含め対応を行っています。また、外科、心臓血管・呼吸器外科等で全身麻酔手術を受けられる際や化学療法中の方の口腔ケアも歯科衛生士を中心として行っています。なお、当センター入院中にお口の不具合が生じた際の歯科治療は行っておりますが、一般外来の方への歯科治療はしていません。

年度回顧

2022年度も日々COVID-19の感染に注意しながらの診療が続きました。COVID-19流行時には前年度に続き手術制限、対策をとらせていただきながら診療継続してまいりました。皆様のご理解もあり2021年度に比べご紹介いただきました患者さん、手術件数等は回復してきています。ご協力いただきましたことに心よりお礼申し上げます。

なお、社会活動の制限が解除されたタイミングで上顎骨、頬骨、下顎骨骨折等の顎顔面骨折で受診される患者さんが増えているように思われます。COVID-19が5類となり、以前の日常生活が戻ってくることを期待いたしますが、変わらないご自愛のほどお祈り申し上げます。

活動記録

◆◆診療実績◆◆

	2022年度
初診患者数	2,366
局所麻酔手術件数	1,538
全身麻酔手術件数	134
入院患者数	205
入院患者数(延)	850
周術期口腔機能管理患者数	486

今後の展望

2022年10月に日本歯科口腔外科学会の准研修施設に登録されました。今後は当センターにおいても日々の実績を積み重ねていくことで歯科口腔外科の認定医・専門医といった資格を目指す環境が整いました。今後もやる気のある若手の先生方とともに日々の診療は勿論のこと、臨床研究、学会発表も行っています。初めに薬剤関連顎骨壊死の桑員地区での現状に関しまして臨床研究を開始しています。本研究は口腔外科学会学術大会等で結果をご報告させていただく予定です。

救 急 科

スタッフ

部 長 高橋直樹 医学博士
日本外科学会認定外科専門医
日本消化器外科学会認定消化器外科専門医・指導医
日本消化器病学会認定消化器病専門医
消化器がん外科治療認定医
日本肝臓学会認定肝臓専門医
がんのリハビリテーション研修修了
臨床研修指導医講習修了
緩和ケア研修会修了

部 長 藤岡正紀 医学博士
(2022年4月1日～)
救急科専門医
日本集中治療医学会専門医
日本循環器学会認定循環器専門医
日本内科学会総合内科専門医・認定内科医
日本医師会認定産業医
医師救急医療業務実地修練修了
臨床研修指導医講習修了

部 長 畑田 剛 医学博士
(2022年7月1日～)
救急科専門医
日本外科学会認定登録医
日本消化器外科学会認定登録医
日本救急医学会指導医
日本救急医学会評議員
日本臨床救急医学会評議員
日本救急医学会JATECコース企画運営委員会オブザーバー
日本臨床救急医学会PEMEC企画運営小委員会委員
日本救急医学会ICLSコース企画運営委員会委員長
16年度メディカルコントロールに係る医師研修修了
病院前救護体制における指導医等研修修了
看護師特定行為研修指導者講習会修了
臨床研修指導医講習修了

二宮隆仁
(2022年7月1日～2022年9月30日)
新生児蘇生法専門コース修了
JPTECプロバイダーコース修了
MCLSコース修了
嚥下機能評価研修会修了

非 常 勤…………… 2名

診療科の特色・診療対象疾患

救急搬送されるあらゆる疾患や外傷の患者を受け入れることを目標としています。

救急医療に携わる各科が協力して、診療を

行い運営します。日勤帯は主に救急専門常勤医師が研修医とともに診療します。当直帯は主に内科系、外科系の当直医師が研修医とともに診療します。各診療科は要請に応じて併診します。

年度回顧

2022年度は4月から内科系救急専門の藤岡医師が、7月から外科系救急専門の畑田医師が常勤として着任、日勤帯の救急患者受け入れ態勢が整ってきました。また、新型コロナウイルスなど新興感染症に対する対策として、フル稼働していた隔離、陰圧管理できる処置室に加え、初療室1室を完全に隔離、陰圧管理できるように改築して、重症救急患者の受け入れの幅を広げることができました。流行していた新型コロナウイルスが重症化しにくい株に移行していくとともに、診療や診療補助にあたるスタッフの心理的重圧が少しずつ緩和されていったような気がしました。

今後の展望

新型コロナウイルス感染症が5類感染症に再分類され、フルPPEで行っていた感染対策がほぼ通常の対策に戻りました。新たに流行する可能性がある新興感染症にアンテナを張るとともに、流行前のように多くの救急車受け入れを行っていく体制づくりを継続して行います。

活動記録

◆◆救急車受け入れ数と患者総数◆◆

救急車受け入れ数	
2020年度	3,478件
2021年度	3,857件
2022年度	4,303件
患者総数	
2020年度	7,519件
2021年度	7,374件
2022年度	7,426件

病理診断科

スタッフ

副 理 事 長 白 石 泰 三 医学博士
・ 部 長

日本病理学会認定病理専門医
日本臨床検査学会認定臨床検査専門医
日本臨床細胞学会細胞診専門医
緩和ケア研修会修了

部 長 鈴 木 秀 郎 医学博士

日本外科学会認定外科専門医
日本消化器外科学会認定消化器外科専門医・指導医
日本消化器病学会認定消化器病専門医
日本病理学会認定病理専門医
日本乳癌学会乳腺専門医・認定医
TNT(Total Nutrition Therapy)プロジェクト終了医師
検診マンモグラフィ読影認定医師
日本医師会認定産業医
日本臨床栄養代謝学会認定医
日本DMAT隊員
臨床研修指導医講習修了
緩和ケア研修会修了

医 長 仙 波 玲 美

緩和ケア研修会修了

高尾ともよ

非 常 勤…………… 1 名

診療科の特色・診療対象疾患

当科は、病理専門医と臨床検査専門医の二つの専門医資格を有する科長と、病理医、および病理専攻医の計3名の常勤医師、細胞検査士資格を有する4名の臨床検査技師からなります。通常の病理業務に加え、デジタルパソロジー装置、自動免疫染色機、蛍光顕微鏡を備え、正確で迅速な病理診断を目指しております。また病理解剖も精力的に行っております。

年度回顧

新型コロナのパンデミックにもかかわらず、病理の検体数は、組織診が微増、迅速診断と細胞診と解剖数が微減でした。

活動記録

◆◆診療実績◆◆

	2022年
組織診断数	4,682件
細胞診断数	5,502件
迅速診断数	120件
病理解剖数	8体
ベッドサイド迅速細胞診	321件

◆◆カンファレンス他◆◆

	2022年
剖検会	5回
受け入れ研修医数	3名

今後の展望

2023年から新規に蛍光顕微鏡が配備され、腎生検蛍光抗体法を自施設内で行うことが可能になります。

麻 醉 科

スタッフ

麻 醉 部 長 天 野 誉 医学博士

麻酔科標榜医
日本専門医機構認定麻酔科専門医
日本麻酔科学会認定麻酔科認定医
ペインクリニック専門医

手 術 部 長 宮原ひろみ

麻酔科標榜医
日本麻酔科学会認定麻酔科専門医
Difficult Airway Management(DAM)ハンズオン
セミナー修了
臨床研修指導医講習修了

部 長 新谷佳大

麻酔科標榜医
日本麻酔科学会認定麻酔科専門医

部 長 西 中 文

麻酔科標榜医
日本専門医機構認定麻酔科専門医
日本麻酔科学会認定麻酔科指導医
心臓血管麻酔指導医
日本周術期経食道心エコー認定試験合格証
臨床研修指導医講習修了

医 長 藤原彩紀

麻酔科標榜医
日本麻酔科学会認定麻酔科認定医
緩和ケア研修会修了

医 長 高井遥香

麻酔科標榜医
日本麻酔科学会認定麻酔科認定医
日本専門医機構認定麻酔科専門医

半田愛子 (2022年10月1日～)

麻酔科標榜医

非 常 勤……………2名

診療科の特色・診療対象疾患

当センター手術室にて行われる、麻酔管理が必要な手術患者さんについて、定期手術では全例、緊急手術は95%以上麻酔科にて管理しております。手術患者さんに、安全で苦痛が少なく手術治療を受けて頂く環境を整えております。

年度回顧

新病院開院以来右肩上がりで増加する手術件数に対応してきました。

本年度はCOVID-19感染拡大の影響が一段落ついたことにより、件数増加傾向にありました。

活動記録

◆◆症例数◆◆

麻酔科管理症例	1912例
うち、全身麻酔症例数	1773例
区域麻酔症例数	139例
予定手術件数	1390例
臨時手術件数	218例
緊急手術件数	304例

今後の展望

今後も、高齢者や合併症を多く持った症例など、きめ細かな麻酔管理が必要となる手術症例が増加すると思われます。個々の知識技術向上と後進の教育指導に尽力してまいります。

看護部

スタッフ

看護部長 加藤友美

副看護部長…………… 2名 (常勤)
看護師長…………… 19名 (常勤)*
助産師…………… 23名 (常勤：18名、非常勤：5名)
看護師…………… 484名 (常勤：432名、非常勤：52名)
准看護師…………… 18名 (常勤：16名、非常勤：2名)
介護福祉士…………… 22名 (常勤)
看護助手…………… 18名 (非常勤)
病棟クラーク…………… 11名

※うち医療安全管理室 … 1名
感染対策室…………… 1名

看護部の特色

看護職の業務や勤務部署は多岐にわたり、様々な資格を持った看護師も多く在籍しており、それぞれの分野で看護の質向上や医師の業務負担軽減に努めています。また資格取得支援も行っています。

さらにタスクシフト／シェアの取り組みを推進するため、多職種との協働をさらに進めています。また病棟には看護補助者を配置し、看護職員と一緒に患者ケアを実施しています。

子育て支援については、育児部分休業制度を利用しながら、多くのママさんナースが勤務を継続しています。またパパ育休の取得も推進しています。

夜勤は、3交代と変則2交代のミックス型を取り入れおり、多様に対応しています。

年度回顧

令和4年度は、新人看護職員33名の入職がありました。新人看護職員研修については、集合研修を中心に行い、早期に現場に慣れ、また患者さんとも円滑に関われるようにOJTなども行ってきました。その成果もあって令和4年度の新人看護職員離職率は0%で終えることができました。

看護職員の看護実践能力評価・人材育成として今年度クリニカルラダーを導入しましたが、個々に「なりたい看護師」に向けて目標を明確にする機会になりました。今後も研修内容などを充実させ、当センターが目指す看護職員の育成に努めていきたいと思えます。

また今年度の看護学生の臨地実習は、新型コロナウイルス感染症の感染状況をみながら当初の計画通りに受け入れられました。直接患者さんに関わる事で「看護の楽しさ」を知る機会になったと思えます。

引き続き実習指導者の育成も継続し、看護師育成の一助となるよう努めていきます。

令和4年度 新卒看護職員採用	33名
令和4年度 看護職員離職率	6.5%
令和4年度 新人看護職員離職率	0%

活動記録

◆◆院内研修◆◆

新人教育	46研修
継続教育	28研修
選択研修	7研修
全体研修	2研修
看護補助者研修	6研修

◆◆臨地実習受け入れ実績◆◆

鈴鹿医療科学大学
 四日市看護医療大学
 桑名医師会立桑名看護専門学校
 三重県立桑名高等学校衛生看護科
 三重県立桑名高等学校衛生看護専攻科
 ユマニテク看護助産専門学校
 弥富看護学校

◆◆看護学校講師◆◆

看護管理
 桑名医師会立桑名看護専門学校
 三重県立桑名高等学校衛生看護専攻科
 ユマニテク看護助産専門学校感染管理
 桑名医師会立桑名看護専門学校
 三重県立桑名高等学校衛生看護科
 医療安全管理・感染管理
 桑名医師会立桑名看護専門学校
 三重県立桑名高等学校衛生看護専攻科

◆◆外部講師・講演◆◆

- 三重県看護協会
令和4年度 災害看護研修
- 三重県介護福祉士会
令和4年度 感染症セミナー
- ICLS(インストラクター)
JA愛知厚生連 豊田厚生病院
東紀州ICLSコース
- 透析関連・フットケア
第7回看護師のためのエコーセミナー
透析期腎性貧血WEBセミナー
フットケア診療セミナーin東海
第3回日本フットケア・足病変医学会
年次学術集会
フットケアで地域連携を考える会in愛媛
第25回日本腎不全看護学会学術集会VAレ
クチャー
- 心腎関連・多職種連携セミナーin桑名

◆◆専門・認定看護師院外活動◆◆

- 講師：
- がん看護専門看護師
聖隷クリストファー大学 非常勤講師
 - 認知症看護認定看護師
令和4年度三重県看護職員認知症対応力向
上研修
 - がん性疼痛緩和認定看護師(ファシリテーター)
市立四日市病院緩和ケア研修会

◆◆市内の病院・施設へ講師派遣◆◆

がん化学療法看護認定看護師
 脳卒中リハビリテーション看護認定看護師
 感染管理認定看護師

各資格取得者

◆◆専門・認定看護師◆◆

専門看護師	
がん看護	1名
認定看護師	
感染管理	2名
皮膚・排泄ケア	1名
がん化学療法看護	1名
がん性疼痛看護	1名
緩和ケア	1名
脳卒中リハビリテーション看護	1名
認知症看護	1名
集中ケア	1名

◆◆その他◆◆ 令和5年3月31日時点

ファーストレベル修了	33名
セカンドレベル修了	8名
医療安全管理者	8名
実習指導者	32名
心不全療養指導士	1名
糖尿病療養指導士	6名
フットケア研修修了	10名
災害支援ナース	10名
NCPR資格取得者	30名
アドバンス助産師	4名

今後の展望

令和4年度は、看護部のキャリア支援の一つとして、クリニカルラダーを導入しました。各々の看護職員が自己の目標を明確にし、達成に向けて取り組み始めたところです。

また令和5年度は、現センターの体制になり初めての日本医療機能評価機構「病院機能評価」の受審を控えています。患者さんにとってよりよい看護を提供するため、今まで取り組んできた看護を振り返る良い機会ととらえ、様々な整備に努めたいと思います。

今までは新型コロナウイルス感染症の影響により多くの制約がありましたが、これからは医療や看護の考え方も大きく変化していくことと思います。

この地域で地域医療の中心的役割を果たすため、引き続き看護部の人材育成を行い、また、地域の病院や施設、さらには行政とも協働をしていき地域医療を支えていきたいと思っています。

健診センター

スタッフ

所 属 長 竹田 寛 医学博士

医 師……………7名 (常 勤：2名、非常勤：5名)
事 務 職 員……………7名 (常 勤：5名、非常勤：2名)

健診センターの特色

健診センターでは、人間ドック・脳ドック・企業健康診断・特定健康診査・全国健康保険協会生活習慣病予防健診等を行っています。健康診断の最大の目的は、病気にならないようにする、あるいは病気になっても早期に治療して完全に治すことにあります。生活習慣病の予防とがんの早期発見を目的として、受診者の皆様の大切なご健康をお守りいたします。

また、当センターでは、肺がんCT検診に力を入れており、3割負担の保険診療で受ける場合とほぼ同額で受診することができます。

年度回顧

胃部検査を胃部X線から胃内視鏡検査に変更する場合の追加料金をなくし、胃内視鏡検査が受けやすくなりました。新型コロナウイルスの影響はまだ続いており、感染防止のため胃内視鏡検査を約一ヶ月間中止しました。

胸部X線検査については、三重大学と連携してAIによる検査を試験的に施行しました。

また、順天堂大学の研究協力のため職員健診において「隠れ肥満測定」を行い、職員の健康管理に役立てることができました。

活動記録

◆◆2022年度の統計資料◆◆

(単位：名)

	ドック	特定健診	その他	合計
4月	223	14	30	267
5月	245	20	2	267
6月	410	19	566	995
7月	447	110	117	674
8月	599	149	1	749
9月	329	192	33	554
10月	389	182	3	574
11月	372	196	272	840
12月	486	39	47	572
1月	252	12	367	631
2月	274	17	588	879
3月	266	28	309	603
合計	4,292	978	2,335	7,605

今後の展望

肺がんCT検査について、胸腹部だけではなく、腹部までCT撮影しより広い範囲の検査を行うことで、生活習慣病予防とがんの早期発見に力を入れます。また、骨密度検査についても、骨盤のみから骨盤～大腿骨に変更し、より広い範囲で検査いたします。

薬 剤 部

スタッフ

薬 剤 部 長 伊藤久美子

総 括 主 任 須川由理子 河村理沙

主 任 小出哲朗 今西義紀 安藤陽子 橋本 陽 長谷川真左子
川崎好人

他 薬 剤 師……………16名
調剤助手……………4名 (嘱託職員：1名、臨時職員：3名)

薬剤部の特色

入院棟4階には調剤室や注射室、無菌調製室を、管理棟2階には化学療法調剤室を設置しています。更に病棟各フロアにはサテライトファーマシーを有し、専任の病棟担当薬剤師を配置しています。調剤や高カロリー輸液及び抗癌剤の混注、服薬指導、病棟業務関連などを薬剤師、調剤助手一丸となって取り組んでいます。

年度回顧

2022年度は1名の新入職薬剤師を迎え、以下の3つの部門目標を立てて取り組みをしました。

- ①良質な医療を実践するため、医薬品の適正使用を推進し、地域医療に貢献します。
- ②入退院支援をはじめとした医薬品関連業務を円滑に行うことで、加算の取得・増加に努めます。
- ③業務の平準化を行い、関連部門と連携して業務の効率化を目指します。
今年度の実績は処方箋枚数や調製件数をは

じめ、全体的に増加しました。昨年9月より病棟薬剤業務実施加算1を取得し、4月より病棟薬剤業務実施加算2の取得に向けて業務体制の見直しをしましたが、急な退職者や新型コロナウイルス感染症拡大の影響による人員不足及びセンター全体の診療体制の変更により、取得に至りませんでした。薬剤管理指導料の件数は昨年と比較して約1000件/年の増加を達成しました。

医薬品適正使用の推進として医療安全と協働し、リスクを伴う薬剤についてセンター内統一組成セットを作成し関連部署への周知を行い、更に組成セット薬剤の体重別投与速度表も作成し、電子カルテ上に添付することで医療安全及び医師の業務負担軽減にも貢献することが出来ました。

持続的な人材確保の取り組みとして、修学金資金制度に加えて、薬剤師奨学金返還助成制度を年度末に導入して、薬剤師確保に向けて体制を整えました。

年間で6名の薬学部実習生を受け入れ継続的に教育に取り組み、部内においても月1回の症例検討会や論文発表に対するサポート、論文投稿、学会発表、認定取得など活発に活動することが出来ました。

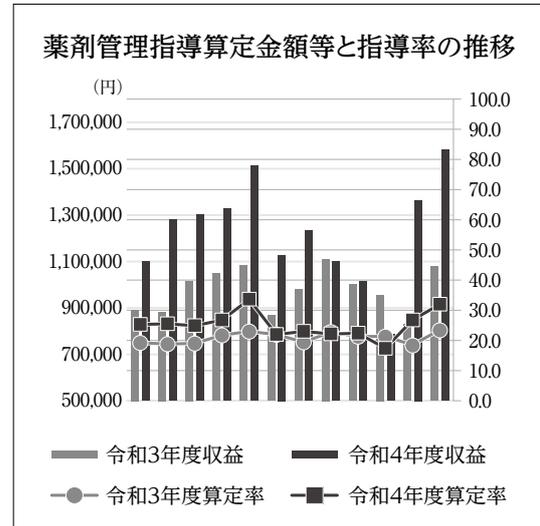
活動記録

◆◆実績◆◆

	2022年	
	年間	月平均
外来院内処方箋	4,143枚	345枚
院外処方箋	96,787枚	8,066枚
院外処方箋発行率	97.2%	
入院処方箋	72,424枚	6,035枚
入院注射処方箋	73,049枚	6,087枚
抗がん剤調製	6,048件	504件
I V H調製	1,464件	122件
薬剤管理指導	4,038件	337件
薬価差益	117,471,778円	

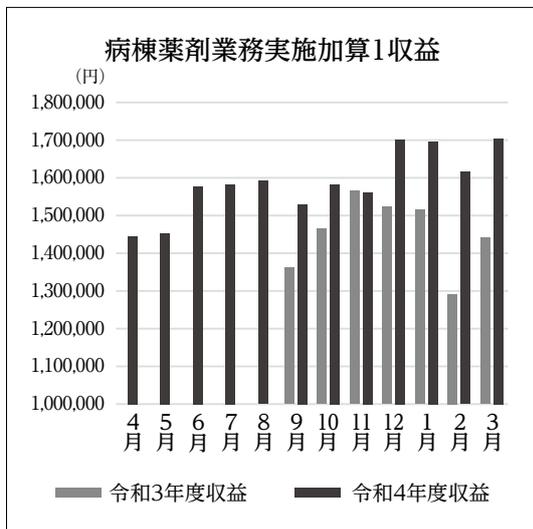
◆◆薬剤管理指導料◆◆

指導料1：380点 指導料2：325点



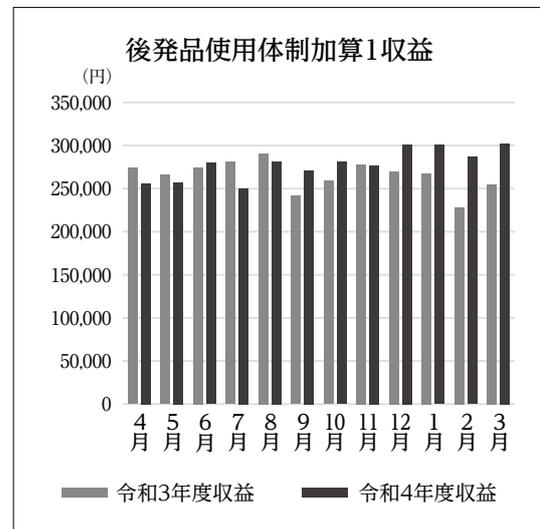
◆◆病棟薬剤業務実施加算1◆◆

DPC係数：0.0079



◆◆後発品使用体制加算1◆◆

DPC係数：0.0014



今後の展望

現在、医薬品の適正使用に積極的に取り組み、地域により良い医療を提供するために多職種と連携しています。今後も自己研鑽に努め、患者さんに安心かつ安全な医薬品及医療方法の提供をしていきたいと思いをします。

2023年度には、病棟薬剤業務実施加算2を取得し、さらに薬剤管理指導の件数増加に取り組む予定です。

主な認定資格(2022年4月時点)

日本医療薬学会指導薬剤師	1名
認定実務実習指導薬剤師	5名
日本医療薬学会がん専門薬剤師	1名
日本医療薬学会薬物療法専門薬剤師	1名
日本医療薬学会認定薬剤師	2名
日病薬病院薬学認定薬剤師	8名
日本薬剤師研修センター認定薬剤師	2名
日本緩和医療薬学会緩和薬物療法認定薬剤師	1名
救急認定薬剤師	1名
感染制御認定薬剤師	1名
抗菌化学療法認定薬剤師	3名
NST専門療法士	4名
肝炎コーディネーター	1名
糖尿病療養指導士	1名

放射線室

スタッフ

室長 金森由繁

副室長 平田泰久

専門監 園田伸一

主任 大井慎也 福田敏光 前田香里 堀直之 芝達教

他 放射線技師……………13名 (常勤：10名、嘱託職員：3名)

事務職員……………2名 (臨時職員：1名、派遣：1名)

放射線室の特色

放射線室では北勢地域の診断・治療の医療完結を目指し、2018年合併・開院時に放射線治療装置、核医学装置等の最新鋭放射線機器を導入しました。またX線診断領域では2次救急病院として24時間急患対応を行うため、一般撮影、CT、MRI、透視検査治療、血管造影業務などの緊急依頼にも対応しています。また、被ばく低減にも取り組み、できるだけ少ない線量で高画質高画像を提供しています。各装置には各学会で知識・技術を習得した専門技師を中心に画像提供・がん治療を行っています。さらに放射線に関する患者さんの不安やご質問に対してカウンセリング専門の技師も配属し、安心・安全に検査・治療を受けていただけるよう努力しています。

年度回顧

コロナ5類移行に向けて検査件数が全体的に増加しました。時間外緊急検査も増加しており、救急対応に必要なスキルを得ることが重要になっています。

昨年度に引き続き、新卒採用技師が加わり、人材育成も考慮しながら、各モダリティの専門性向上を図ることができる体制を整えています。また、CT画像診断解析ソフトに脳血流解析機能が追加され、ダイナミックボリュームデータを自動で計算、解析結果を表示できるようになりました。急性期脳梗塞の治療において有用性が高く、迅速かつ確かな情報の提供に寄与しています。

活動記録

◆◆治療、検査件数◆◆

(単位：件)

	2020年度	2021年度	2022年度
一般撮影	31,316	28,676	32,438
歯科撮影	2,104	2,065	2,226
骨塩定量	8,51	976	1,047
ポータブル	7,759	7,963	7,522
外科用イメージ	515	469	688
乳房撮影	2,223	2,471	2,362
TV透視	2,781	2,631	2,636
CT	22,730	23,475	23,713
MR	6,459	6,755	6,889

核医学	541	538	591
放射線治療	153	173	158
血管造影	1,604	1,707	1,681

今後の展望

急速に進歩する画像診断技術や放射線治療技術に対応するため、積極的に研修・勉強会に参加し、且つ各診療部門と連携し、あらゆる専門性を取り入れた協調によるチーム医療を実践できるよう診療体制を更に整えてまいります。また、地域医療室経由で実施している検査についても、今後も安心して多くの検査依頼を頂けるよう、安全で質の高い医療を提供し、地域医療へ貢献していきたいと考えております。

その他

◆◆所有資格◆◆

第一種放射線取扱主任者
検診マンモグラフィ撮影認定診療放射線技師
医学物理士
乳がん検診超音波検査実施技師
放射線管理士
Ai認定診療放射線技師
放射線被ばく相談員
マスター診療放射線技師
放射線治療専門放射線技師
シニア診療放射線技師
X線CT認定技師
臨床実習指導教員
日本血管撮影・インターベンション専門診療放射線技師

◆◆所属学会◆◆

日本診療放射線技師会
日本心血管インターベンション治療学会
日本放射線技術学会
日本乳癌検診学会
日本磁気共鳴医学会
日本乳癌学会
日本放射線カウンセリング学会
日本核医学技術学会東海地方会

◆◆主な医療機器◆◆

一般撮影装置	FUJI	Radnext(3台)
FPD	コニカ	AeroDR
歯科用パノラマ撮影装置	朝日レントゲン	Hyper.DCM
歯科用デンタル撮影装置	朝日レントゲン	ALULA
乳房X線撮影装置	HOLOGIC	SELENIA Dimensions
回診用X線撮影装置	FUJI	Sirius Star Mobile(3台)
		Sirius Star Mobile tiara(2台)
FPD	FUJI	CALNEO Smart
	コニカ	AeroDR
骨密度測定装置	GE	LUNAR
X線TV装置	FUJI	EXAVISTA(3台)
	Cannon	Win scope
外科用Cアーム	SIEMENS	Cios Fusion
	PHILIPS	SEREMOBILE
X線CT装置	SIEMENS	SOMATOM Definition Flash
	Cannon	Aquilion PRIME
MRI装置	SIEMENS	Sempra 1.5T
		Skyra 3.0T
SPECT装置	SIEMENS	Symbia Evo Excel
放射線治療装置	VARIAN	CLINAC iX
CTシミュレーター	SIEMENS	SOMATOM Perspective
血管撮影装置	SIEMENS	ArtisZeeiplane
	PHILIPS	Allura Clarity

検査室

スタッフ

室長 矢橋知子

副室長 伊藤恵美子

主任 藏白寛子 木下慶子 大矢知崇浩 伊藤英樹 加藤淳也
今野和治

医師 長尾康治

他 臨床検査士……………26名（常勤：16名、臨時職員：5名、嘱託職員：4名）
医療助手……………3名（常勤：2名、臨時職員：1名）

検査室の特色

当センター検査室は技師の技術の向上を図るため、教育(技術・認定制度)の向上に取り組んでおり、認定取得が目指しやすい環境づくりを行っております。

また、チーム医療にも力を入れており、感染対策チーム(ICT)、栄養サポートチーム(NST)、糖尿病療養指導チーム、strokeチームなどに積極的に参加活動しています。

認定施設として日本臨床細胞学会教育認定施設を取得しており、細胞検査士の養成に貢献しています。

年度回顧

新病院開設以来、3病院が統合したことにより、改めて検査方法・手技・手順などの運用の統一化および検査基準値の見直しに取り組んだことによって基準値の統一化、業務効率の向上につながりました。

新型コロナ感染症流行時では、抗原定量検査、PCR検査を早々に開始しました。とり

わけコロナN抗体、コロナS抗体に関しては臨床へ検査の重要性を説明し、県下においても2番目の早さで導入することができました。

活動記録

三重県臨床検査技師会学術部、精度管理部門にある血液部門、輸血・細胞治療部門、生理検査部門、また女性部会において委嘱を受けており、院外活動を精力的に行いました。

また日本臨床衛生検査技師会 品質保証施設認定、三重県輸血機能評価を取得しました。

今後も当センターの検査に対する信頼性を高めて確実な医療を提供できるよう研鑽を積んでいきたいと思っております。

今後の展望

学生教育について、未来の臨床検査技師の教育の場として、複数の大学からの実習生を受け入れています。学生にとって有意義な実習ができるように実習内容等について充実させる取り組みを行ってまいります。

チーム医療について既存のICT、NST、糖尿病療養指導チーム、strokeチームに加え新規のAST(抗菌薬適正支援チーム)も含め、他部門との連携を取り、臨床検査技師の専門性を活かして臨床への貢献に努めていきます。

臨床検査品質管理・施設認定

日本臨床衛生検査技師会 品質保証施設認定
日本病理学会 研修認定施設
日本臨床細胞学会 施設認定・教育施設認定
三重県輸血機能評価(I&R)認定施設

専門・認定資格者

細胞検査士(JSCC)	4名
国際細胞検査士(IAC)	2名
認定病理検査技師	2名
認定心電図検査技師	1名
超音波検査士(消化器)	2名
超音波検査士(循環器)	2名
超音波検査士(体表臓器)	1名
超音波検査士(血管)	1名
超音波検査士(健診)	1名
乳がん検診超音波検査実施技師	1名
血管診療技師	1名
認定血液検査技師	1名
認定輸血検査技師	1名
二級臨床検査士(免疫血清)	1名
二級臨床検査士(微生物)	1名
二級臨床検査士(病理)	2名
二級臨床検査士(循環生理)	1名
二級臨床検査士(呼吸生理)	1名
緊急臨床検査士	4名
JHRS認定心電図専門誌	1名

AHAガイドライン準拠BLSプロバイダー	1名
植込み型心臓不整脈デバイス認定士	1名
日本臨床神経生理学会専門技術士(脳波)	1名
日本臨床神経生理学会専門技術士(筋電図・神経伝導)	1名
日本臨床神経生理学会術中脳脊髄モニタリング認定技師	1名
電子顕微鏡技術二級技師	1名

チーム医療・認定資格者

糖尿病指導療法士	4名
NST専門療法士	2名
肝炎コーディネーター	2名
弾性ストッキング圧迫療法コンダクター	1名

その他・認定資格者

特定化学物質・四アルキル鉛等作業主任者	1名
有機溶剤作業主任者	3名
毒劇物取扱責任者	1名
危険物取扱責任者(乙種I類~6類)	1名

臨床工学室

スタッフ

主 任 小崎健司 服部慎也 佐藤雅城 渡辺俊文 暮石陽介

他 臨床工学技士……………16名 (常 勤)
事 務 員……………1名 (常 勤)

臨床工学室の特色

現在、臨床工学技士が21名のうち2名が臨床検査技師免許者で構成されています。(男性16名・女性5名)

スタッフは、血液浄化部門、循環器部門、手術室部門、機器管理部門、内視鏡・脳血管カテーテル部門の5部門に配置され業務を行っています。

また、当直3待機制により365日24時間院内の医療機器の対応や緊急業務を行なっています。

年度回顧

2022年度は新型コロナウイルス感染症による感染患者増加に伴い病棟透析業務、また各種医療機器や資材の調達と環境整備に多忙な1年となりました。

また、昨年より医師の業務負担軽減のためのタスクシフト業務として、鏡視下手術における内視鏡用ビデオカメラの保持及び操作を行うスコープオペレーター業務、血液浄化業務では超音波画像診断装置を用いたシャント管理業務や穿刺困難に対するエコー下穿刺業務も継続的に業務を行うことができました。

活動記録

◆◆血液浄化部門 業務◆◆

業務内容	件数
慢性維持透析	20,129
血漿交換	15
二重濾過膜血漿分離療法	1
顆粒球吸着療法	10
LDL吸着療法(吸着式潰瘍治療込み)	37
超音波画像診断(末梢血管)	205

◆◆循環器部門 業務◆◆

業務内容	件数
冠動脈造影	594
経皮的冠動脈形成術	360
末梢血管形成術	41
カテーテルアブレーション	65
テンポラリーペースメーカー	27
ペースメーカー植え込み・交換	57
ペースメーカーOPE設定変更	32
ペースメーカーMRI設定変更	46
ペースメーカー緊急チェック	49
ペースメーカー遠隔モニタリング	300

◆◆手術室部門 業務◆◆

業務内容	件数
鏡視下手術	459
ロボット手術支援	26
スコープオペレーター	19
ナビゲーション術中管理	14
MEP・SEP術中管理	17
超音波装置操作	147

◆◆機器管理部門 業務◆◆

業務内容	件数
医療機器定期点検	927
医療機器保守点検	42
院内修理対応	210
管理医療機器台数	1,163
人工呼吸器稼働実績	272
持続的血液透析濾過	246
出張透析(重症病棟)	28
腹水濾過濃縮再静注	21
低体温療法	2

◆◆内視鏡・脳血管カテーテル部門 業務◆◆

業務内容	件数
内視鏡的粘膜下層剥離術	64
内視鏡的胆管膵管逆造影法	242
カプセル内視鏡(小腸・大腸)	27
内視鏡的ステント留置術	14
頸動脈ステント留置術	20
脳動脈瘤コイル塞栓術	40
急性期血栓回収療法	27
経皮的ラジオ波焼灼術	22

今後の展望

高度・複雑化された医療機器を背景に医療機器のスペシャリストとして日本臨床工学技士会及び各関連学会の専門認定資格の取得や、メーカー講習会の受講およびタスクシフト研修の受講により適切な医療技術と知識の提供、医療機器安全管理に貢献します。

学会資格認定

血液浄化関連専門臨床工学技士	1名
呼吸治療関連専門臨床工学技士	1名
心・血管カテーテル関連専門臨床工学技士	1名
不整脈治療関連専門臨床工学技士	1名
手術関連専門臨床工学技士	1名
内視鏡関連専門臨床工学技士	1名
認定集中治療関連専門臨床工学技士	1名
認定医療機器関連専門臨床工学技士	1名
認定実習指導者	1名
透析技術認定士	6名
腎代替療法専門指導士	1名
ITE心血管インターベンション技師	2名
植え込み型心臓不整脈デバイス認定士	1名
医療機器情報コミュニケーター(MDIC)	1名
消化器内視鏡技師	2名
小腸カプセル内視鏡読影支援技師	1名
呼吸療法認定士	4名
体外循環認定士	1名
第1種ME技術者	1名
第2種ME技術者	12名

リハビリテーション室

スタッフ

室長 赤尾和則

副室長 松本正知

主任 安井沙代子 杉本文絵 中村浩之 稲垣 忍

他 理学療法士……………5名 (常勤：4名、非常勤：1名)

作業療法士……………3名 (常勤)

言語聴覚士……………3名 (常勤)

リハビリテーション室の特色・診療対象疾患

リハビリテーション室では、患者さんに専門的なリハビリテーションを実施できる体制を整えています。当センターでは、以下に挙げる様々な種類の疾患別リハビリテーションに加え、摂食嚥下のリハビリテーションに対応しています。

◆疾患別リハビリテーション◆

- ・脳血管疾患リハビリテーション
- ・運動器疾患リハビリテーション
- ・心大血管疾患リハビリテーション
- ・呼吸器リハビリテーション
- ・がんのリハビリテーション

◆摂食嚥下リハビリテーション◆

年度回顧

今年度8月には、常勤の理学療法士が増え、既存の非常勤の理学療法士の2名にて、小児リハビリテーションの充実化を図っております。小児リハビリテーションは、必要に応じて入院時や退院後にも早期から開始し、お子さんの発達を途切れなくサポートしています。

活動記録

リハビリテーション室の業績としては、昨年度より約900万円増収しており、スタッフ1人当たりの年間売り上げも昨年度より上がっております。

◆◆疾患別延べ患者数◆◆

脳血管疾患	13,817人
運動器疾患	11,426人
心大血管疾患	3,278人
呼吸器	2,830人
がん	856人
廃用症候群	653人

今後の展望

急性期病院のリハビリテーションの役目としては、様々な各疾患別に対応出来るスタッフ数・教育が必要となってきます。

安定したリハビリテーションサービスの提供が、今後も継続して行えるように各疾患別リハビリテーションの担当人員の体制を整えていきたいと考えています。

栄養管理室

スタッフ

副 室 長 長谷川恭子

他 管理栄養士……………9名（常 勤：4名、臨時職員：4名、派 遣：1名）

栄養管理室の特色

栄養管理室の業務は、大きく「給食管理」「栄養管理」「栄養指導」の3つに分かれています。

<給食管理>

当センターの栄養管理室では、栄養管理の基礎とは何か？という原点に返り、まずは「患者さんが食べること」が第一だという考えのもと、安心、安全で美味しい治療食の提供に努めています。患者給食は日本ゼネラルフード株式会社に全面委託し、月に2回以上会議を実施し、よりよい患者給食の提供を行うため行事食や新メニューの考案、地産地消の食材の検討を続けています。

<栄養管理>

入院中の栄養管理については病棟担当制を導入しています。栄養管理計画書の作成、食事内容の提案や食欲不振の患者さんへの対応を行っています。また、栄養サポートチーム、摂食嚥下チーム、心臓リハビリテーションチーム、糖尿病チーム、褥瘡対策チームへも参加し、多職種で早期回復、早期退院へ向け取り組んでいます。

<栄養指導>

個人栄養指導では、患者さん個人に合わせたオーダーメイドな栄養指導を心がけています。栄養指導は、InBody測定と併せて継続することを基本とし、ライフスタイルの中で患者さんが実践可能な食事療法を提案しています。

集団栄養指導では、医師やコメディカルと協力し、講義と調理による実践的な指導を行っています。糖尿病教室、減塩教室、肝臓病教室、嚥下教室を実施していますが、2019年度末より感染対策のため中止しています。

<栄養管理室2022年度目標>

- ・安心で安全な食事を基本に、食材及び献立の質を維持した満足度の高い病院食の提供を目指す。
- ・管理栄養士のチーム医療参加による入院栄養管理の向上を目指し、栄養管理体制の再構築を行う。
- ・栄養管理マニュアルの再整備により、業務の質の安定、業務の効率化、属人化によるリスクの低減を図る。

年度回顧

栄養管理室の体制としては大きな変動のない1年でした。1名が産育休より復職し、有期雇用職員1名を含めた8名となりました。給食管理では、新しく当センターにて出産された方へのお祝い膳の提供を開始しました。春夏メニューと秋冬メニューの2種類を考案することで、季節の違いにより楽しめる献立となっており、提供後のアンケートでも提供者全員より満足、またはやや満足の意見をいただき、大変好評でした。センター内のチーム医療による活動では新たに脳卒中相談窓口、

褥瘡対策のメンバーとして参加をしています。外部との共同活動については、2019年より公民連携(桑名市・ネスレ日本株式会社・一般社団法人卓球で日本を元気にする会・一般社団法人ニュートリション運動推進会議子どもの健康づくり委員会・株式会社朝日エル)で開始した、桑名卓球珈琲プロジェクトに係わる栄養管理室での総括として病態栄養学会誌にて採択された、「高齢者における卓球による健康づくりプログラムの健康増進効果―体重、体脂肪量、骨格筋量の変化による検討―」が掲載されました。

活動記録

◆◆食数実績◆◆

	2022年度
一般治療食	125,932食
特別治療食	128,412食
特別食加算率	33.0%
食事提供率	77.9%

・選択食の実施

普通食の方を対象に、週3回、朝食・昼食に選択食を実施しました。

・行事食

季節感を感じて頂けるように、月に2回行事食を実施しました。

◆◆栄養指導実績◆◆

	2022年度
外 来	3,032件
入 院	681件
集 団	0件
糖尿病透析予防指導	103件
健 診	0件
合 計	3,816件

※集団栄養指導は感染対策のため中止しています。

◆◆治療食別栄養指導実績◆◆

	2022年度
糖尿病食	1,405
心臓疾患食	649
高血圧症食	214
腎臓病食	625
術後食	174
胃・腸疾患食	93
肝・胆疾患食	160
膵臓疾患食	21
脂質異常症食	134
肥満症食	107
摂食・嚥下機能低下に対する治療食	24
がんに対する治療食	22
乳児期食・離乳期食・幼児期食	23
その他	61

◆◆栄養情報提供書作成実績◆◆

	2022年度
栄養情報提供書	13

◆◆栄養管理計画書作成実績◆◆

	2022年度
HCU	379
SCU	78
6北病棟	166
6南病棟	677
6西病棟	1,484
7北病棟	1,382
7南病棟	521
7西病棟	660
8北病棟	1,196
8南病棟	1,082
9北病棟	886
9南病棟	907
合 計	9,418

今後の展望

病院給食については食材料費高騰の影響を受けながらも、患者さんの食事満足度を向上していけるよう、食事の質の低下を防ぐ対応を図ります。

病態栄養専門管理栄養士、日本糖尿病療養指導士(CDEJ)、NST専門療法士等の専門資格を活かし、今後より一層チーム医療へ貢献できるよう取り組みます。重症患者の早期栄養介入についても実施していける体制の構築が必要と考えています。

COVID-19の感染拡大防止のため一時的に中止していた集団栄養指導についても再開していきたいと考えています。

医療安全管理室

スタッフ

医療安全管理委員長 山田 典一 (専任)

医療安全管理室長 早川 武司 (専従)

医薬品安全管理者 伊藤久美子 (専任)

医療機器安全管理者 渡辺 俊文 (専任)

管理部長 中村 博明 (専任)

事務職員…………… 1名 (非常勤)

医療安全管理室の業務

安全管理に関する当センターの体制を構築し医療安全に関する職員への教育・研修・情報分析等を行う。事故発生時の初期対応・再発防止案・再発防止に努める。これらを通して安全管理体制を組織内に根づかせ安全文化を促進。

随時マニュアルの改訂を行い日常業務が安全に行えるようにする。

年度回顧

今年度は、身体抑制マニュアル及び同意書・口頭指示マニュアル変更と口頭指示メモ用紙を作成・転倒転落マニュアル改訂と転倒時のフロー作成、離床センサー使用基準の作成・ドレーン、チューブ管理マニュアル等を追加した。検査室の協力でパニック値対応マニュアルを作成した。また、医療安全管理に関する指針の見直しとコードホワイトを再度再開した。虐待委員会(高齢者、障害者、配偶者)マニュアルを作成し、第1回虐待対策委員会を行った。

レベル5の事象が2症例発生し、センター内に医療安全情報を配信し、薬剤使用に対する注意喚起及びバリテス研修を行った。レベル5の1事象は、第3者委員会を行い医療事故調査センターへ届け出た。看護部の協力で注射誤投与防止のためマニュアルを改訂しラウンドを行っている。診療報酬改定に伴い画像及び病理診断報告漏れ防止委員会を設置し月1回の会議を開始した。医療安全研修会を今年度第2回目より委託業者への研修も開始した。

活動記録

◆◆委員会活動◆◆

	2022年度
看護部RM部会	1/月
RM部会	1/月
安全管理委員会	1/月
診療報酬改定に伴い画像及び 病理診断報告漏れ防止委員会	1/月
児童虐待対策委員会	2/年
虐待(高齢者、障害者、配偶者) 委員会	1/年
B,C肝炎拾い上げ委員会	1/2カ月
医療安全カンファレンス	1/週
医療機器・医薬品安全管理 委員会	1/月

◆◆研修会◆◆

	2022年度
第1回医療安全研修会	2022年10月
第2回医療安全研修会	2023年2月
三重県医療安全研修会	2023年3月

◆◆その他の活動◆◆

三重県医療事故調査委員会提出	2022年11月
三重県医療事故調査委員会提出	2022年11月
第3者医療事故調査委員会	2023年1月
院内医療事故調査委員会	随時
医療事故調査センターへ提出 (DEX使用後に患者急変)	2023年1月
医薬品管理マニュアル	随時
インシデントレポート分析・集計	随時
死亡診断書分析	随時
病院内ラウンド	随時

今後の展望

医療事故を無くし、患者さんが安心して安全な医療を受けられる環境を整えることを目標に全職員が医療安全管理の問題に取り組み患者さんの安全の確保に参画する。また、病院機能評価に向けて医療安全対策の整備を行う。

院内感染対策室

スタッフ

院内感染対策室長 伊藤和恵 (専 従)

医師(ICD) 石田 聡 (常 勤)
大久保節也 (常 勤)
油田尚総 (常 勤)

看護師(ICN)…………… 2名 (常 勤)
微生物検査技師…………… 2名 (常 勤)
薬剤師…………… 2名 (常 勤)
事務職員…………… 1名 (常 勤)

感染対策チーム、抗菌薬適正使用支援チームの活動

感染対策チーム(ICT)及び抗菌薬適正使用支援チーム(AST)は、院内感染対策活動、職業感染、抗菌薬の適正使用の啓発、サーベイランス、センター内外からの感染対策に関する研修会や相談対応などを行っています。

年度回顧

新型コロナウイルス感染症もようやく感染症法5類へ移行となります。この何年間には生活様式が変化し、感染対策も翻弄されました。センター内外、至ることで新型コロナウイルス感染症の相談を受け、共に感染対策をみなさまと考えた1年でした。

活動記録

● ICT・ASTラウンド：週1回

● 研修会

- ・院内感染対策研修会&抗菌薬適正使用支援研修会 全職員対象：年2回
- ・新採用者研修：1回
- ・部門別・対象別研修会：数回

・ 院外研修会講師：数回

● 感染症コンサルテーション：約800件

- ・ 新型コロナウイルス感染症関連
- ・ 職業感染
- ・ 感染症治療
- ・ 感染対策 など

● 各種サーベイランス

- ・ 手指衛生
- ・ 血液培養
- ・ 耐性菌
- ・ 手術部位感染

● その他

- ・ 特定抗菌薬使用状況
- ・ TDM実施率評価
- ・ アンチバイオグラムの提示

● 感染対策向上加算関連

- ・ 地域連携カンファレンス：年4回
- ・ 新興感染症に備えた訓練：年1回
(ヨナハ丘の上病院、もりえい病院、桑名保健所、他桑名市内クリニック12施設)
- ・ 相互評価ラウンド：市立四日市病院

● 感染対策マニュアルの改訂

今後の展望

ASTメンバーを中心に、国の方針であるAMR対策に取り組んでいきます。感染症で苦しむ人が減ることを目標とし、感染対策を今後も推進していきます。地域の医療機関との連携を密にし、感染対策の強化を目指していきます。

地域医療センター

スタッフ

室長 蛭川さおり

看護師……………8名（常勤：7名、非常勤：1名）
社会福祉士……………8名（常勤）
事務員……………6名（常勤：3名、派遣：3名）

地域医療センターの特色

地域医療センターでは、『医療相談・患者相談窓口』と『地域医療連携』の大きく二つの業務を行っています。

当センターでは、地域の皆さんが安心して適切な医療を受けられるよう、地域の医療機関や福祉機関との連携強化に努めています。

<医療相談・患者相談窓口>

患者さんに安心して治療に専念していただけるよう、社会福祉士の資格をもった医療ソーシャルワーカー(以下MSW)と看護師が患者さんやご家族の抱える様々な困りごとなどに対し、問題の解決を図るため様々な支援を行い、地域の関係機関との調整や連携を行っています。入院患者さんについては、病棟ごとに担当のMSWと退院調整看護師を配置し、入退院支援加算1を算定しています。病棟スタッフと協力しながら、入院患者さんのスクリーニング、アセスメント、週2回のカンファレンスを行い、入院早期から退院後の生活を視野に入れた支援ができるよう病院全体で取り組んでいます。

また、総合受付横に設置された患者相談窓口では、看護師が常駐し、患者さんやご家族からの相談に対応しています。相談内容に応じて、MSWやがん相談支援センター、脳卒中相談担当者などと連携しています。

▶主な業務内容

- 療養中の問題の解決・調整援助
- 退院援助
- 社会復帰援助
- 受診・受療援助
- 経済的問題の解決・調整援助
- 地域医療連携業務

<地域医療連携>

当センターは地域医療支援病院として承認されており、地域医療センターは当センターと地域の医療機関の連携窓口としての役割を担っています。地域の基幹病院として地域の医療機関との連携を強化し、地域医療に貢献できるように、日々業務に取り組んでいます。紹介患者さんに関する業務をはじめ、地域連携検査や糖尿病連携検査・指導の利用、登録医制度、登録医の施設共有利用などに対応しています。

▶主な業務

- 診療予約の受付
- 紹介患者に関する事務・管理
- 逆紹介患者に関する事務・管理
- 地域連携検査(CT・MRI、生理検査等)の予約受付

年度回顧

2022年度は、前年度から引き続き新型コロナ流行の中で特別外来や入院患者さんの対応など、通常の業務に加えて様々な対応が求められる年となりました。

感染後の患者さんの退院支援では感染前と状態が一変した患者さんも多く、その後の療養先がなかなか決まらず苦慮することもありました。

退院支援が重要視される中で、退院調整看護師を増員し、支援体制の充実を図りました。

MSWについては、2020年から桑名市社会福祉協議会との人事交流を行っており、引き続き社会福祉協議会の職員が当センターのMSWとして勤務しています。地域の中でたくさんの方の生活を支援してきた社会福祉協議会職員の経験や情報を共有することができ、患者さんの相談援助に活かされています。

また、社会福祉士の相談援助実習を開院後初めて実施しました。業務を行いながらの指導は大変でしたが、実際の援助を体感でき、MSWを目指す学生にとって意義のある実習になったと思います。

活動記録

◆◆医療相談・患者相談窓口◆◆

入退院支援加算算定件数		5,036件
介護支援等連携指導料および退院時共同指導料等算定件数		133件
MSW相談件数	実件数	2,382件
	延件数	8,136件
退院調整看護師相談件数	実件数	999件
	延件数	4,960件
患者相談窓口件数		818件

◆◆地域医療連携◆◆

地域支援病院紹介率	90.9%
地域支援病院逆紹介率	115.8%
同利用の実績	2,873件

今後の展望

地域包括システムの構築に向けて、高度医療及び急性期医療における地域の中核病院として、他の医療機関との機能分担及び連携を推進し、患者さんが退院後も切れ目のないケアを受けられるよう、各医療機関と協力して地域における在宅医療を含む医療・福祉及び介護の連携体制の構築に貢献していきたいと思ひます。

また、病院機能評価認定水準の体制を維持し、医療の質の向上を行います。

がん相談支援センター

スタッフ

センター長(医師) 白石泰三 (兼任)

副室長(MSW) 東田友紀 (専任)

がん看護専門看護師……………1名 (専従)
事務職員……………1名

がん相談支援センターの特色

がん専門相談員(がん看護専門看護師とMSW)が、患者さんや家族、地域住民や医療福祉関係者を対象とした、がんの総合相談を行っている。

相談業務の他、市内小中学校へのがん教育や地域住民向けのがん予防の啓発活動にも力を入れている。新たな取り組みとして、国立がん研究センターがん情報ギフト寄贈図書館との連携を始めた。

年度回顧

センター内では、主に外来のがん患者さんの治療や療養生活についての相談と、入院患者さんの退院調整も一部担当した。センター外向けには、がん予防の啓発活動を感染対策に配慮し、市内の小中学校向けのがん教育や地域向けの講演会を行った。

また、図書館連携として、国立がん研究センターがん情報ギフト新企画で、長島輪中図書館にてイベントを開催した。

活動記録

◆◆相談実績◆◆

≪2022年4月～2023年3月≫

相談件数：のべ1927件/年

(実人数：340人/年)

利用回数：平均相談回数：5.6回/人

最大相談回数：61回/人

◆◆がん教育◆◆

市内の小中学校2校、中学校1校でがん教育を実施した。

2022年度がん教育実施校	対象
桑名市立深谷小学校(9月12日)	6年生
桑名市立城東小学校(10月7日)	6年生
桑名市立陽和中学校(10月31日)	2年生

◆◆がん予防啓発◆◆

桑名市健康推進委員会勉強会	7月6日・8日
長島北部まちづくり協議会 がん予防講演会	9月3日
木曾岬町がん予防講演会	1月24日
朝日町がん予防講演会	2月3日

◆◆がんサロン◆◆

三重県がん相談支援センターと共催で『がん患者と家族のためのおしゃべりサロンin桑名』を4回開催した。

◆◆その他の活動◆◆

- がんを様々な角度から紹介するイベント『むすぶ』開催
- 『生命の駅伝』参加・協力
- 緩和ケア研修会講師
- 桑名地区がん病診連携webセミナー
- 在宅医療と介護の多職種連携研修会
- 木曾川緩和研究会
- 正和中学校 キャリア教育
「医師の仕事について」
- がん相談支援センターの紹介
MSW部会

今後の展望

2023年度は、正しいがんの情報をお届けできる様、図書館の情報コーナーの活用や、センター内の情報コーナーの充実を図る。引き続き、がん相談支援センターの周知活動にも力を入れていく。またセンター外では、がん予防啓発の地域住民向け講演会を予定している。2年間実施してきた小中学校向けのがん教育は、より子供たちに伝わりやすい様に工夫した内容を検討中。

治験事務局

スタッフ

事務局…………… 2名

治験審査委員会委員

委員長……………町支秀樹

委員……………11名（専門員：6名、非専門医：2名、外部委員：3名）

事務局・委員会の特色

治験の計画・内容について倫理的、科学的な観点から検討することを目的として、治験審査委員会が設置されています。当センターで実施する治験は治験審査委員会において審査され承認された後、病院長の許可を得て行っています。治験審査委員会は毎月第3月曜日に開催され、事務局はその庶務を行っています。また、治験の新規案件について該当診療科に案内し、実施中の治験に関する進捗状況などを把握して、円滑に実施されるように努めています。事務局は治験のほか、臨床研究・適応外使用・特殊院内製剤、製造販売後調査などの庶務も取り扱っています。

年度回顧

昨年度、新型コロナウイルス感染症を鑑みて、委員会のWeb開催手順書を作成し、審議の継続を行うことができる環境を整えておりましたが、今年度のコロナ感染拡大を受けて、2022年7月と8月の委員会においては、その手順書に沿ってWeb開催にて治験審査委員会を開催することが出来ました。

コロナ禍においても、多くの治験新規案件の相談があり、事務局としては、該当する各科の先生方への案内や、参加意思を表明され

た診療科へのアンケート回答・面談など多くの対応を仲介させて頂きました。

結果として、今年度は10件の治験を行う事となりました。

活動記録

◆◆治験実施開始実績◆◆

	件数
2018年度	5件
2019年度	6件
2020年度	6件
2021年度	7件
2022年度	10件

◆◆治験実施中の試験内容◆◆

試験名	関連診療科
ABT-494(ウパダシチニブ) 体軸性脊椎関節炎を対象とした試験	膠原病 リウマチ内科
ワクチンの接種を受けた母親から生まれた乳児を対象としたPF-06928316の第Ⅲ相試験	小児科、 産婦人科
KHK7791 透析中の慢性腎臓病患者における高リン血症の改善	腎臓内科
ZG-801 高カリウム血症	腎臓内科
好酸球性重症喘息患者を対象としたGSK3511294をメポリズマブ又はベンラリズマブと比較評価する非劣性試験	呼吸器内科

グルココルチコイド治療依存性のリウマチ性多発筋痛症（PMR）患者を対象としたABBV-154の安全性及び有効性を評価する試験	膠原病 リウマチ内科
非糖尿病性腎臓病患者を対象とした異なる用量のBI685509を20週間経口投与したときのUACR低下作用を検討する試験	腎臓内科
活動性シェーグレン症候群患者を対象にVAY736を皮下投与したときの臨床的有効性、安全性、忍容性を検証する第Ⅲ相試験	膠原病 リウマチ内科
血液透析施行中の高リン血症患者を対象に、TS-172又はプラセボを二重盲検下で4週間投与した際の有効性、安全性及び薬物動態を検討し、TS-172の臨床推奨容量及び用法を検討する第Ⅱ相試験	腎臓内科
MTX効果不十分な活動性RA患者を対象に、MTX併用下でRGB-19点滴静注（4週間隔）の、RoActemra点滴静注に対する同等性、安全性の検討を行う第Ⅲ相試験	膠原病 リウマチ内科

今後の展望

今年度は10件と多くの治験が実施されていますが、科による偏りがかなり大きくなっています。現在、治験を実施していない診療科においても、新たな治験に参加できるように案内を続けていきたいと考えています。

4. 業 績

学会発表

循環器内科

演題・演者	学会名・発表日・開催地
◆新型コロナワクチン2回目接種後に心筋炎を発症した2例 前川 瑛亮、飯尾 滉太郎、糟谷 彰悟、岡島 春花、今井 裕一、 千賀 通晴、大村 崇、大久保 節也、山田 典一	第159回日本循環器学会東海地方会 2022年6月4日 津市
◆残存DVTの有無による急性肺血栓塞栓症の予後についての検討: J'xactly研究のサブ解析 山田 典一、福田 幾夫、中村 真潮、前田 英明、孟 真、 奥村 恭男、平山 篤志	第42回日本静脈学会総会 2022年7月7日 東京都
◆Evaluation of prognosis between patients with and without residual deep vein thrombosis in acute pulmonary thrombo- embolism -subanalysis of J'xactly study Norikazu Yamada	第42回日本静脈学会総会 2022年7月8日 東京都
◆OASiによる冠動脈穿孔を良好にbail outした一例 糟谷 彰悟、前川 瑛亮、岡島 春花、今井 裕一、千賀 通晴、 大村 崇、大久保 節也、山田 典一	第47回日本心血管インターベンション治療 学会東海北陸地方会 2022年10月22日 名古屋市
◆ARCADIA technique及びCROSSERを用いてEVTを施行した高度 石灰化病変を有する3症例 今井 裕一、前川 瑛亮、糟谷 彰悟、岡島 春花、千賀 通晴、 大村 崇、大久保 節也、山田 典一	第47回日本心血管インターベンション治療 学会東海北陸地方会 2022年10月22日 名古屋市

消化器内科

演題・演者	学会名・発表日・開催地
◆診断に苦慮した細胆管細胞癌の一例 村田 亮介、大矢 由美、山本 あゆみ、田中 聡、浦吉 俊輔、 野尻 圭一郎、泉 道博、中川 直樹、石田 聡	第246回内科学会東海地方会 2022年2月20日 Web

呼吸器内科

演題・演者	学会名・発表日・開催地
◆右心負荷所見が出現する前にFDG-PET所見にて診断し得た肺動脈原 発血管肉腫の1剖検例 八木 昭彦、平井 貴也、蛭原 愛子、油田 尚総	第121回日本呼吸器学会東海地方会 2022年5月21日 Web
◆躯幹部拡散強調MRI画像にて管理した頸部リンパ節結核の1例 平井 貴也、八木 昭彦、蛭原 愛子、油田 尚総	第121回日本呼吸器学会東海地方会 2022年5月21日 Web
◆腫瘍内感染を契機に免疫チェックポイント阻害薬による抗腫瘍効果が高 まった進展型小細胞肺癌の1例 吉兼 佑介、油田 尚総、平井 貴也、八木 昭彦、蛭原 愛子	第122回日本呼吸器学会東海地方会 2022年11月12日 津市
◆局所進行肺癌に対するデュルバルマブ地固め治療の際に発生した薬剤 性血小板減少症の1例 八木 昭彦、平井 貴也、蛭原 愛子、油田 尚総	第122回日本呼吸器学会東海地方会 2022年11月12日 津市
◆エタンブールを含まない薬物療法を中止したことにより病勢改善を来 した結節気管支拡張型肺MAC症の1例 平野 麗和、油田 尚総、平井 貴也、八木 昭彦、蛭原 愛子	第122回日本呼吸器学会東海地方会 2022年11月12日 津市

演題・演者	学会名・発表日・開催地
◆症例経験を通して進行非小細胞肺癌におけるEGFRエクソン20挿入変異に対する治療戦略について考える 平井貴也、八木昭彦、蛭原愛子、油田尚総	第122回日本呼吸器学会東海地方会 2022年11月13日 津市
◆HBV再活性化による肝炎と鑑別を要したAtezolizumabによる肝障害を来した肺腺癌の1例 伊藤節嗣、蛭原愛子、平井貴也、八木昭彦、油田尚総	第122回日本呼吸器学会東海地方会 2022年11月13日 津市
◆アルコール性肝硬変による門脈圧亢進症を呈した症例における胸水貯留の原因の一つと考えられた横隔膜静脈瘤の1例 八木昭彦、平井貴也、蛭原愛子、油田尚総	第64回日本呼吸器内視鏡学会中部支部会 2022年12月17日 名古屋市

糖尿病内分泌内科

演題・演者	学会名・発表日・開催地
◆小細胞肺癌に対してアテゾリブマブ投与後に1型糖尿病を発症した1例 大熊伸一、堀田康広、北川良子	第246回日本内科学会東海地方会 2022年2月20日 Web

外科

演題・演者	学会名・発表日・開催地
◆一般演題G2 大腸8 登内 仁	第58回日本腹部救急医学会 2022年3月25日 東京都
◆技術認定制度の目的を意識したTAPP手技 水越幸輔、辻浦誠浩、尾嶋英紀、毛利靖彦	第20回日本ヘルニア学会学術集会 2022年6月4日 横浜市
◆当院におけるヘルニア教育の現状 水越幸輔、辻浦誠浩、尾嶋英紀、毛利靖彦	第20回日本ヘルニア学会学術集会 2022年6月4日 横浜市
◆魚骨による胃穿孔に対し腹腔鏡下異物摘出術を実施した一例 加納 収、市川 崇、肥満智紀、杉澤 文、高橋直樹、小西尚巳、岩永孝雄、鈴木秀郎、町支秀樹、登内 仁	第296回三重外科集談会 2022年6月12日 Web
◆TAPP特別講座 -剥離編- 水越幸輔	第2回中部次世代ヘルニアの会 2022年6月30日 名古屋市
◆局所進行乳癌に対し一期的乳房再建を施行した症例の検討 小西尚巳、杉澤 文、山門玲菜、伊藤みのり、鈴木秀郎、町支秀樹、登内 仁	第30回日本乳癌学会総会 2022年6月30日 横浜市
◆診断が困難であった化生癌の一例 杉澤 文、小西尚巳、山門玲菜、伊藤みのり、東 千尋、鈴木秀郎、町支秀樹、登内 仁、仙波玲美、白石泰三	第30回日本乳癌学会総会 2022年6月30日 横浜市
◆乳房部分切除後に筋線維芽細胞腫と診断された1例 山門玲菜、小西尚巳、東 千尋、杉澤 文、伊藤みのり、鈴木秀郎	第30回日本乳癌学会総会 2022年6月30日 横浜市

演題・演者	学会名・発表日・開催地
◆TAPPマスターへの道ー縫合・結紮編ー 水越幸輔	豊中病院外科 縫合結紮セミナー 2022年10月15日 名古屋市
◆術前診断ののち待期的腹腔鏡手術を施行した遊走胆嚢の1例 加納 收、市川 崇、水越幸輔、肥満智紀、杉澤 文、 高橋直樹、小西尚巳、鈴木秀郎、町支秀樹、登内 仁	第302回東海外科学会 2022年10月16日 浜松市
◆検診マンモグラフィで指摘された悪性腺筋上皮腫の一例 小西尚巳、杉澤 文、鈴木秀郎、山門玲菜、町支秀樹、 登内 仁	第32回日本乳癌検診学会学術総会 2022年11月11日 浜松市
◆COVID-19感染拡大時における外科診療の在り方 登内 仁	第84回日本臨床外科学会 2022年11月24日 福岡市
◆術前補助療法によって肛門温存手術が可能となった直腸GISTの1例 岡部雄介、肥満智紀、市川 崇、水越幸輔、杉澤 文、 高橋直樹、小西尚巳、鈴木秀郎、町支秀樹、登内 仁	第297回三重外科集談会 2022年12月4日 津市
◆多再発症例を含む再発鼠径ヘルニアに対するTAPP法の経験 水越幸輔、家城英治、畷村麻生、山本 晃、辻浦誠浩、 尾嶋英紀、毛利靖彦、坂本一博	第35回 日本内視鏡外科学会総会 2022年12月8日 名古屋市
◆多再発症例を含む再発鼠径ヘルニアに対する治療経験 水越幸輔、岡部雄介、市川 崇、杉澤 文、高橋直樹、 肥満智紀、小西尚巳、鈴木秀郎、町支秀樹、登内 仁	第17回 日本ヘルニア学会東海地方会 2023年3月4日 名古屋市

整形外科・リウマチ科

演題・演者	学会名・発表日・開催地
◆ウォータースライダーにて肩関節脱臼を生じた2例 藤井一剛、松井佑梨世、岡村直樹、松田 理、中瀬古健	第138回中部整形外科災害外科学会・学術集会 2022年4月8日～4月9日 名古屋市
◆大腿骨近位部骨折術後患者に対して入院中にゾレドロン酸を使用した症 例の検討 半田忠幹、中瀬古健、松井佑梨世、岡村直樹、松田 理	第258回整形外科集談会東海地方会 2022年6月11日 ハイブリット開催 (名古屋市)
◆血液培養ボトルを用いた関節液培養により起炎菌が判明した小児化膿 性股関節炎の1例 半田忠幹、中瀬古健、松井佑梨世、岡村直樹、松田 理	第139回中部整形外科災害外科学会・ 学術集会 2022年10月28日 大阪市

脳神経外科

演題・演者	学会名・発表日・開催地
◆頭痛外来で期待される鍼治療の効果 黒木香行	第81回日本脳神経外科学会総会 2022年9月28日～10月1日 ハイブリット開催(横浜市)
◆頭痛外来 鍼治療導入後1年の経過報告 黒木香行	第50回日本頭痛学会総会 2022年11月25日 東京都

演題・演者	学会名・発表日・開催地
◆片頭痛の予防治療 抗CGRP抗体薬から抗CGRP受容体抗体薬へ当院における使用経過 黒木香行	第50回日本頭痛学会総会 2022年11月26日 東京都
◆脳卒中相談窓口 当院における取り組み 黒木香行、赤尾和則、佐藤公介、神谷裕子、叶田寛人、米裕美子、橋本陽、堀直之、藏條寛子、石咲朋子、岩田友子、中井亨、宮下紘一、岡田健、濱田和秀、古田智之、大達清美、阪井田博司	STROKE 2023 2023年3月17日 ハイブリット開催 (横浜市)

心臓血管外科

演題・演者	学会名・発表日・開催地
◆肺癌治療後に遅発性気漏を発症した症例の検討 天白宏典、藤永和弥	第39回日本呼吸器外科学会学術集会 2022年5月20日～5月21日 東京都
◆術前抗アセチルコリンレセプター抗体陽性を示した前縦隔腫瘍症例の検討 藤永和弥、天白宏典	第39回日本呼吸器外科学会学術集会 2022年5月20日～5月21日 東京都
◆術前の気管支鏡検査後に肺化膿症を発症した肺がん手術の2例 天白宏典、湯淺右人、油田尚総、川口晃司、藤永和弥、白井俊、中村文	第63回日本肺癌学会学術集会 2022年12月1日～12月3日 福岡市

歯科口腔外科

演題・演者	学会名・発表日・開催地
◆当科におけるARONJの臨床的検討 加藤英治、古島夏子、瀧口桂、大塩美佐絵、福田奈央、櫻谷妃菜	第3回Winter Dental Meeting in Tsu 2022年12月11日 津市

薬剤部

演題・演者	学会名・発表日・開催地
◆重症軟部組織感染症患者における栄養療法の検討 40時間研修受講者による症例検討 窪田知仁、須川由理子、大矢知崇浩、久留里子、清塚枝美、鈴木秀郎	第33回三重NST研究会学術集会 2022年11月26日 四日市
◆当院におけるClostridioides difficile infection (CDI) 検査の最適化 川崎好人、佐藤友美子、伊藤和恵	第37回日本環境感染学会総会・学術集会 2022年6月18日 横浜市
◆胃瘻を造設した腹膜透析患者の便秘および低カリウム血症に対し薬学的介入を行った一症例 森脇健太郎、鈴木雅之、野々山英人、窪田知仁、水谷日花里、田中裕子、大矢知立城、松田千裕、森実優、加藤公人、川崎好人、西川嘉広、橋本陽、今西義紀、小出哲朗、伊藤久美子	第32回日本医療薬学会年会 2022年9月25日 高崎市

検査室

演題・演者	学会名・発表日・開催地
◆当院における肝炎医療コーディネーターとしての臨床検査技師の取り組み 矢野孝明、大矢知崇浩、石咲朋子、長谷川恭子、橋本陽、 村田亮介、山本あゆみ、田中聡、浦吉俊輔、中川直樹、 石田聡	第58回日本肝臓学会総会 2022年6月3日 横浜市
◆当院におけるチームで取り組むB・C型肝炎陽性患者拾い上げ活動の取 り組みと運用方法について 大矢知崇浩、矢野孝明、藤田徹子、飯田修、早川武司、 清水みどり、橋本陽、矢橋知子、野尻圭一郎、大矢由美、 泉道博、中川直樹、石田聡	第58回日本肝臓学会総会 2022年6月3日 横浜市
◆乳腺乳頭状病変の細胞診 今野和治、小塚祐司、宇田紗矢香、矢野孝明、伊藤英樹、 高尾ともよ、仙波玲美、白石泰三	第63回日本臨床細胞学会総会春期大会 2022年6月11日 東京都
◆病理検査技師として働いて ～入職から3年間の私の想い～ 宇田紗矢香	令和4年度 日臨技 中部圏支部医学検査 学会(第60回) 2022年10月8日 沼津市
◆輸血医療教育のPDCA 片出珠々	令和4年度 日臨技 中部圏支部医学検査 学会(第60回) 2022年10月8日 沼津市
◆低異型度病変(Rosen triad)を合併した乳腺管状癌の1例 今野和治、小塚祐司、宇田紗矢香、矢野孝明、伊藤英樹、 高尾ともよ、仙波玲美、白石泰三	第61回日本臨床細胞学会秋期大会 2022年11月6日 仙台市
◆Castleman病の2症例 矢野孝明、今野和治、宇田紗矢香、伊藤英樹、高尾ともよ、 仙波玲美、白石泰三	第61回日本臨床細胞学会秋期大会 2022年11月6日 仙台市

論文発表

循環器内科

題名・著者	雑誌名：発行年：巻(号)：頁
<p>◆Real-World Management of Pharmacological Thromboprophylactic Strategies for COVID-19 Patients in Japan: From the CLOT-COVID Study</p> <p>Hayashi H, Izumiya Y, Fukuda D, Wakita F, Mizobata Y, Fujii H, Yachi S, Takeyama M, Nishimoto Y, Tsujino I, Nakamura J, Yamamoto N, Nakata H, Ikeda S, Umetsu M, Aikawa S, Satokawa H, Okuno Y, Iwata E, Ogihara Y, Ikeda N, Kondo A, Iwai T, <u>Yamada N</u>, Ogawa T, Kobayashi T, Mo M, Yamashita Y; CLOT-COVID Study Investigators.</p>	<p>JACC Asia 2022 : 2 (7) : 897-907</p>
<p>◆Incidence, risk factors, and clinical impact of major bleeding in hospitalized patients with COVID-19: a sub-analysis of the CLOT-COVID Study</p> <p>Nakamura J, Tsujino I, Yachi S, Takeyama M, Nishimoto Y, Konno S, Yamamoto N, Nakata H, Ikeda S, Umetsu M, Aikawa S, Hayashi H, Satokawa H, Okuno Y, Iwata E, Ogihara Y, Ikeda N, Kondo A, Iwai T, <u>Yamada N</u>, Ogawa T, Kobayashi T, Mo M, Yamashita Y; CLOT-COVID Study Investigators.</p>	<p>Thromb J 2022 : 20 (1) : 53</p>
<p>◆Rivaroxaban Treatment for Patients With Unprovoked or Provoked Venous Thromboembolism - Subanalysis of the J'xactly Study</p> <p>Hisatake S, Ikeda T, Fukuda I, Nakamura M, <u>Yamada N</u>, Takayama M, Maeda H, Yamashita T, Mo M, Yamazaki T, Okumura Y, Hirayama A; J' xactly Investigators.</p>	<p>Circ Rep 2022 : 4 (10) : 490-498</p>

呼吸器内科

題名・著者	雑誌名：発行年：巻(号)：頁
<p>◆Efficacy and Safety of Amrubicin in Small Cell Carcinoma Previously Treated with Immune Checkpoint Inhibitors and Chemotherapy</p> <p>Tadashi Nishimura, Hajime Fujimoto, Takumi Fujiwara, Kentaro Ito, Atsushi Fujiwara, <u>Hisamichi Yuda</u>, Hidetoshi Itani, Masahiro Naito, Shuji Kodama, Akihiko Yagi, Valeria Fridman D'Alessandro, Taro Yasuma, Kazuki Furuhashi, Haruko Saiki, Tomohito Okano, Atsushi Tomaru, Motoaki Tanigawa, Corina N D'Alessandro-Gabazza, Esteban C Gabazza, Masamichi Yoshida, Osamu Hataji, Hidenori Ibata, Tetsu Kobayashi</p>	<p>Cancers 2022 : 14(16) : 3953</p>

外科

題名・著者	雑誌名：発行年：巻(号)：頁
<p>◆腹腔鏡下肝嚢胞天蓋切除術での再発予防に癒着防止材Interceed®貼付が有用であった2例</p> <p><u>成田 潔</u>、<u>町支 秀樹</u>、<u>水野 成</u>、<u>山門 玲奈</u>、<u>佐藤 梨枝</u>、<u>杉澤 文</u>、<u>高橋 直樹</u>、<u>小西 尚巳</u>、<u>岩永 孝雄</u>、<u>鈴木 秀郎</u>、<u>登内 仁</u></p>	<p>消化器外科 2022 : 45 (7) : 821-827</p>
<p>◆Examination of colorectal cancer cases with metal allergy</p> <p><u>Kosuke Mizukoshi</u>, Yu Okazawa, Kota Amemiya, Yuki Tsuchiya, Shunsuke Motegi, Ryoichi Tsukamoto, Kumpei Honjo, Rina Takahashi, Nagisa Yoshihara, Shingo Kawano, Masaya Kawai, Shinya Munakata, Shun Ishiyama, Kiichi Sugimoto, Makoto Takahashi, Yutaka Kojima, Shigaku Ikeda, Kazuhiro Sakamoto</p>	<p>Surgery Today 2023 : 53 : 753-761</p>

整形外科・リウマチ科

題名・著者	雑誌名：発行年：巻(号)：頁
◆肩関節垂直脱臼の治療経験 中山 貴仁、松井佑梨世、半田忠幹、岡村直樹、松田 理、中瀬古健	三重医報 2022：742(9)：22-25
◆活性型ビタミンD3製剤使用中に高カルシウム血症による意識障害、脱力発作を生じた3例 藤井一剛、松井佑梨世、岡村直樹、松田 理、中瀬古健	中部日本整形外科災害外科学会雑誌 2022：65(3)：481-482
◆ウォータースライダーにて肩関節脱臼を生じた2例 藤井一剛、長谷川貴栄、松井佑梨世、岡村直樹、松田 理、中瀬古健	中部日本整形外科災害外科学会雑誌 2022：65(5)：661-662
◆結核性股関節炎の関節固定後に生じた大腿骨転子部骨折の1例 長谷川貴栄、松井佑梨世、岡村直樹、松田 理、中瀬古健	臨床雑誌整形外科 2022：73(13)：1362-1365
◆当院での大腿骨近位部骨折患者および橈骨遠位端骨折患者における骨密度検査の比較検討 藤井一剛、松井佑梨世、岡村直樹、松田 理、中瀬古健	東海整形外科外傷研究会誌 2022：34：11-14

泌尿器科

題名・著者	雑誌名：発行年：巻(号)：頁
◆Pre-operative Serum Albumin as a Potential Predictor of Benign Lesions in Renal Masses Sekito S, <u>Ogura Y</u> , Soga N, Kojima T	Cancer Diagnosis & Prognosis 2022：2(3)：345-350
◆Dramatic response to pembrolizumab after pseudoprogression in a patient with advanced metastatic castration-resistant prostate cancer Kageyama T, Soga N, Sekito S, Kato S, <u>Ogura Y</u> , Kojima T, Kanai M, Inoue T	IJU Case Reports 2022：5(6)：442-445

脳神経外科

題名・著者	雑誌名：発行年：巻(号)：頁
◆Plasma Fibulin-5 Levels as an Independent Predictor of a Poor Outcome after an Aneurysmal Subarachnoid Hemorrhage. <u>Yume Suzuki</u> , Hiroki Oinaka, <u>Hideki Nakajima</u> , Mai Nampei, <u>Fumihiko Kawakita</u> , Yoichi Miura, Ryuta Yasuda, Naoki Toma, <u>Hidenori Suzuki</u> , pSEED group.	Int J Mol Sci 2022：23(23)：15184

心臓血管外科

題名・著者	雑誌名：発行年：巻(号)：頁
◆当科で経験した自然血気胸19例の検討 藤永和弥、天白宏典	日本気胸・嚢胞性肺疾患学会雑誌 2022：22(1)：19-23

薬剤部

題名・著者	雑誌名：発行年：巻(号)：頁
<p>◆フェノフィブラート投与により化学療法継続に至った重症カペシタビン誘発高中性脂肪血症の1例 池口麻由子、小出哲朗、桐生浩子、大森加奈子、今西義紀、松田千裕、山本あゆみ、伊藤久美子</p>	<p>日本緩和医療薬学会 学会誌 2022：15(3)：101-105</p>
<p>◆Interaction between warfarin and molnupiravir in a patient with coronavirus disease 2019 infection: A case report <u>Hikari Mizutani</u>, <u>Tetsuro Koide</u>, <u>Takashi Omura</u>, <u>Kumiko Ito</u></p>	<p>Journal of family medicine and primary care 2022：11(11)：7463-7465</p>

著 書

循環器内科

題 名・著 者	雑誌名：発行年：巻(号)：頁
◆2-5. 肺血栓塞栓症 山田 典一	薬局 特集：循環を止めるな！血液凝固とくすり 2023：Vol.74, No.8：1418-1421

呼吸器内科

題 名・著 者	雑誌名：発行年：巻(号)：頁
◆特集 知っておきたい呼吸ケア 呼吸器ケアで改善したい症状と症候 ④異常呼吸 油田 尚 総	薬局 2022：73(8)：2147-2151

薬剤部

題 名・著 者	雑誌名：発行年：巻(号)：頁
◆わかりやすい新実務実習テキスト2023-2024 小出 哲 朗 (分担執筆)	2022年8月30日： ：

検査室

題 名・著 者	雑誌名：発行年：巻(号)：頁
◆脾臓 米田 操、今野和治	医学検査 2022：71・Jstage1(2022)：37-48
◆肝・胆道 金山和樹、今野和治、米田 操	医学検査 2022：71・Jstage1(2022)：49-59

研究会・講演会

循環器内科

演 題・演 者	研究会名・発表日・開催地
◆日本に於けるCOVID-19感染症と静脈血栓塞栓症:肺塞栓症研究会・日本静脈学会合同アンケート調査結果より 山下侑吾、山田典一、孟 真	第27回肺塞栓症研究会・学術集会 2020年11月28日 Web
◆進行がん関連IVC血栓に対するIVCフィルター留置例 佐藤 徹、荻原義人、山田典一、伊藤正明、土肥 薫	第27回肺塞栓症研究会・学術集会 2020年11月28日 Web
◆右心内巨大血栓を伴う肺血栓塞栓症に血栓溶解療法を施行し、心臓超音波検査で血栓の縮小を観察し得た一例 柳澤将史、山田典一、糟谷彰悟、岡島春花、今井裕一、羽場一直、千賀通晴、大村 崇、大久保節也、市川毅彦	第27回肺塞栓症研究会・学術集会 2020年11月28日 Web
◆静脈血栓塞栓症～DOACがもたらした治療の進歩～ 山田典一	Medical Conference 2022年4月18日 Web
◆膠原病に合併する肺高血圧症と必要検査 山田典一	日常診療に潜む膠原病Web Seminar in 北勢 2022年5月26日 Web
◆静脈血栓塞栓症:実臨床データXASSENT試験からみたイグザレルトの有効性と安全性 山田典一	イグザレルトWEBカンファレンス 2022年6月6日 Web
◆Bio Freedom Ultra の使用経験 糟谷彰悟	MIE PCI conference 2022年9月1日 Web
◆症例ディスカッション 山田典一	VTE Forum2022 2022年10月11日 Web
◆入院中にPE/DVTが発症した場合の対応 山田典一	Internet Symposium 肺血栓塞栓症の適切な管理～医療安全に対する取り組み～ 2022年10月13日 Web
◆当院におけるペマフィブラートの使用経験について 糟谷彰悟	Kowa Web conference 2022年10月20日 Web
◆心不全の薬物治療 大村 崇	第2回三重県北勢薬剤師循環器研究会 2022年10月21日 Web
◆新型コロナウイルス感染症(COVID-19)における血栓症予防および抗凝固療法の診療指針(Ver4.0) 孟 真、山田典一、山下侑吾、小林隆夫	第29回肺塞栓症研究会・学術集会 2022年11月13日 東京都
◆当院での症候性中枢型深部静脈血栓に対するモンテプラゼを用いたカテーテル血栓溶解療法 荻原義人、山田典一、佐藤 徹、辻 明宏、太田寛史、土肥 薫、中村真潮	第29回肺塞栓症研究会・学術集会 2022年11月13日 東京都
◆内科治療:国内DOAC特定使用成績調査からみたVTE診療状況と今後の課題 荻原義人、中村真潮、山田典一	第29回肺塞栓症研究会・学術集会 2022年11月13日 東京都
◆循環器疾患と腎性貧血 大村 崇	腎性貧血セミナーCRA症候群を考える 2022年12月26日 Web
◆症例提示 大村 崇	MIE PCI conference III 2023年1月19日 Web

消化器内科

演 題・演 者	研究会名・発表日・開催地
◆アルコールと肝臓 大矢由美	第22回四日市アルコールと健康を考える集い 2020年2月13日 四日市市
◆当院におけるレンパチニブ使用経験 大矢由美	LEN-TACE Academy in 北勢 2021年10月29日 津市
◆トラスツズマブ、エムタシン(T-DM1)による化学療法後発症した非肝硬 変性門脈圧亢進症の一例 山本あゆみ、大矢由美、村田亮介、田中 聡、浦吉俊輔、 野尻圭一郎、泉 道博、中川直樹、石田 聡	第300回肝胆膵研究会 2021年11月26日 Web
◆診断に苦慮した細胆管細胞癌の一例 村田亮介、大矢由美、山本あゆみ、田中 聡、浦吉俊輔、 野尻圭一郎、泉 道博、中川直樹、石田 聡	第301回肝胆膵研究会 2022年2月25日 Web
◆当院におけるTACE不応例に対する薬物療法の検討 大矢由美	LEN-TACE Academy in 北勢 2022年9月2日 津市
◆C型肝炎対策はどう変化したか:患者の高齢化と多職種連携患者拾い上 げの取り組み 中川直樹	第13回三重老年薬学セミナー 2022年9月8日 Web
◆消化管診療、最近の話題 浦吉俊介	桑名地区薬剤師研修会 2022年10月20日 桑名市
◆アテゾリズマブ+ベバシズマブ併用療法の適正な患者選択 中川直樹	HCC Expert Meeting in Mie 2022年11月1日 Web
◆当院におけるTACE不応例に対する薬物療法の検討 大矢由美	第303回肝胆膵研究会 2022年11月25日 Web
◆肝硬変について 中川直樹	令和4年度三重県肝炎医療コーディネーター 養成研修会 2022年12月11日 Web

呼吸器内科

演 題・演 者	研究会名・発表日・開催地
◆COPDに関する小話集 油田尚総	「息切れ」について考える～似て非なる呼吸 器疾患～ 2022年1月21日 Web
◆NSCLCにおけるPD-L1～SP142抗体を測定する臨床的利点はあるのか?～ 油田尚総	第10回北勢肺癌フォーラム 2022年4月5日 Web
◆症例を通して気管支喘息に対するdupilumabの長期投与を考える 油田尚総	Severe Asthma Expert Forum 2022年4月6日 Web
◆症例検討を通じて気管支喘息診療の進め方について考える 油田尚総	桑名喘息診療パートナーリングの会 2022年4月21日 ハイブリット開催(桑名市)

演 題・演 者	研究会名・発表日・開催地
◆症例経験を通じてⅢ期NSCLCにおけるデュルバルマブ地固め治療の臨床的注意点について考える 油 田 尚 総	西三河エリア Immuno Oncology Seminar 2022年6月3日 Web
◆定着しましたか?Ⅲ期NSCLCに対するPACIFIC治療～5年生存報告がなされたこの機会に症例経験を通してもう一度考えてみる～ 油 田 尚 総	肺癌学術講演会 2022年6月17日 Web
◆医療資源を考慮した喘息診療について考える 油 田 尚 総	テリルジー講演会・桑名 2022年6月22日 Web
◆高齢者におけるPACIFICレジメン治療～症例経験を通して～ 油 田 尚 総	高齢者肺癌を考える会 2022年7月7日 Web
◆NSCLCにおけるPD-L1～SP142抗体を測定する臨床的利点はあるのか?～ 平 井 貴 也	北勢Lung Cancer Seminar 2022年7月19日 Web
◆進行非小細胞肺癌に対する1次治療を整理する 油 田 尚 総	北勢Lung Cancer Seminar 2022年7月19日 Web
◆非小細胞肺癌に対する化学療法の進歩 油 田 尚 総	三重県病院薬剤師会・第288回桑員地区勉強会 2022年9月9日 Web
◆切除不能Ⅲ期非小細胞肺癌の治療継続のための肺臓炎マネージメント 油 田 尚 総	肺癌の集学的治療を考える 2022年9月16日 Web
◆医療資源を考慮した喘息治療について考える～デジタル吸入器の話題も含む～ 油 田 尚 総	Asthma Therapy Symposium～デジタル活用の新時代～ 2022年9月27日 Web

整形外科・リウマチ科

演 題・演 者	研究会名・発表日・開催地
◆当院での人工関節置換術におけるComputer Assisted Surgery の実際 岡 村 直 樹	Pain Live Symposium 2022年7月21日 Web

脳神経外科

演 題・演 者	研究会名・発表日・開催地
◆Penumbra 3MAXを用いた血栓回収療法 濱 田 和 秀	東海北陸AIS Web座談会 2022年6月13日 Web
◆頭痛の診断と片頭痛の治療 黒 木 香 行	名賀医師会臨床懇話会 2022年8月18日 Web
◆頭痛外来を開始して 黒 木 香 行	片頭痛治療講演会 2022年8月30日 四日市市

演 題・演 者	研究会名・発表日・開催地
◆新たな片頭痛治療薬の使用経験 黒木香行	第3回桑員地区片頭痛治療 Up to Date 2022年10月11日 ハイブリット開催 (桑名市)
◆鎮痛薬を遠ざける 頭痛外来での取り組み 黒木香行	片頭痛診療を考える会 in 北勢 2022年12月7日 Web
◆クモ膜下出血後急性期に頸部頸動脈狭窄をきたした1例 中井 亨、岡田 健、濱田和秀、黒木香行、阪井田博司	第32回三重大学脳神経外科同門会 2022年12月10日 津市
◆脳動脈瘤破裂によるクモ膜下出血と血漿Fibulin-5濃度との関連 鈴木有芽、pSEED group	第32回三重大学脳神経外科同門会 2022年12月10日 津市
◆Secreted protein acidic and rich in cysteine (SPARC)はクモ膜下出血後の遅発性脳虚血において上昇する –SPARC elevation in delayed cerebral ischemia after subarachnoid hemorrhage– 中島英貴、pSEED group	第32回三重大学脳神経外科同門会 2022年12月10日 津市
◆動脈瘤性クモ膜下出血後の血中PEDF濃度変化とその意義に関する検討 南平麻衣、pSEED group	第32回三重大学脳神経外科同門会 2022年12月10日 津市
◆鎮痛薬を減らすために 頭痛外来での取り組み 黒木香行	片頭痛診療 Web Seminar 2023年1月17日 Web
◆つらい頭痛から解放されたい 頭痛に合わせた治療とコントロール法 黒木香行	三重県病院協会共催セミナー頭痛のあたり まえを変えていこう！ 2023年2月8日 Web
◆頭痛に合わせた薬剤の選び方 黒木香行	第294回三重県病院薬剤師会 三泗地区学術研修会 2023年3月15日 Web

歯科口腔外科

演 題・演 者	研究会名・発表日・開催地
◆MRONJに関して基礎知識の確認、現状と課題 加藤英治	桑員歯科医師会 学術講演会 2022年12月18日 桑名市

病理診断科

演 題・演 者	研究会名・発表日・開催地
◆女性のワークライフバランスを考えた病理診断研修 仙波玲美	病理学と病理医のリアルがわかる初夏のオンラインセミナー 2022年5月7日 Web
◆脂肪肉腫の一例 高尾ともよ、仙波玲美、白石泰三	第89回日本病理学会中部支部交歓会 2022年12月10日 名古屋市
◆前立腺癌における病理学的有害事象を用いた術後リスク分類 仙波玲美	第11回日本泌尿器病理研究会学術集会 2023年2月11日 東京都

薬剤部

演 題・演 者	研究会名・発表日・開催地
◆輸液投与患者に対するフィジカルアセスメントのポイント・輸液投与患者に対するフィジカルアセスメントによる薬学的介入の実際 小出 哲朗	三重県病院薬剤師会 令和4年度薬物療法部会研修会 2022年5月25日 Web
◆抗菌薬の副作用 川崎 好人	三重県病院薬剤師会 令和4年度 第1回感染制御部会研修会 2022年6月3日 Web
◆高齢者のC型肝炎治療に対する薬剤師の役割 ～患者年齢層の変化と薬剤師の関わりの変化～ 橋本 陽	三重県薬剤師会 第13回三重老年薬学セミナー 2022年9月8日 Web
◆緩和ケアにおける薬剤師の役割 今西 義紀	桑名医師会木曜サロン 2022年9月8日 Web
◆桑名市総合医療センター薬剤部の紹介と最近の取り組み ～多職種で連携し作成したアンデキサネットアルファの運用について～ 加藤 公人	第2回三重県北勢薬剤師循環器研究会 2022年10月21日 Web
◆腸音の聴診による薬学的介入の実際(薬剤性イレウス) 小出 哲朗	三重県薬剤師会 令和4年度フィジカルアセスメント基礎研修会 2022年11月3日 Web

検査室

演 題・演 者	研究会名・発表日・開催地
◆Castleman病の2症例(学会活動報告) 矢野 孝明	三重県臨床検査技師会 第1回病理細胞研究班勉強会 2022年2月14日 Web
◆『輸血教育指導について初級者技師/学生指導』 大矢知崇造	三重県臨床検査技師会輸血・細胞治療部門勉強会 2022年7月22日 津市
◆血液検査のピットフォール 矢橋 知子	三重県臨床検査技師会血液部門勉強会 2022年8月26日 Web
◆良性ブレンナー腫瘍の一例 矢野 孝明、今野 和治、宇田紗矢香、伊藤 英樹、高尾ともよ、仙波 玲美、白石 泰三	日本臨床細胞学会東海連合会 第173回例会提示症例 2022年9月15日 Web
◆B型肝炎再活性化予防の取り組み 大矢知崇造	肝炎医療コーディネーターを対象とした研修会 2022年10月6日 Web
◆『こんなときどうする?血液型検査/不規則抗体検査編』 大矢知崇造	三重県臨床検査技師会輸血・細胞治療部門勉強会 2022年10月20日 津市
◆心室性不整脈 藏城 寛子	三重県臨床検査技師会生理勉強会 2022年11月18日 津市
◆第1回認定輸血検査技師養成講座 大矢知崇造	三重県臨床検査技師会輸血・細胞治療部門勉強会 2022年12月1日 津市

演 題・演 者	研究会名・発表日・開催地
◆臨床免疫部門報告 水谷直弘	三重県臨床検査精度管理調査報告会 2022年12月11日 Web
◆日当直時の心電図 藏城寛子	三重県臨床検査技師会生理勉強会 2022年12月18日 Web
◆第2回認定輸血検査技師養成講座 大矢知崇浩	三重県臨床検査技師会輸血・細胞治療部門勉強会 2023年2月9日 津市

地方独立行政法人
桑名市総合医療センター
年 報
2022 (令和4) 年度
令和6年3月 発行

編集・発行 地方独立行政法人 桑名市総合医療センター
所在地 桑名市寿町三丁目11番地
電 話 0594-22-1211
印 刷 阿竹印刷工業株式会社
四日市市富州原町14-24

地方独立行政法人
桑名市総合医療センター

